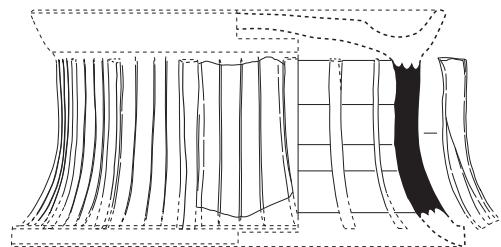


大分市埋蔵文化財調査概要報告 2012

平成 23 年度版



上野遺跡群第 14 次調査出土 須恵器円面硯

大分市教育委員会

序 文

本書は、平成 23 年度に大分市教育委員会が実施いたしました埋蔵文化財発掘調査と関連事業の概要を収録したものであります。

大友氏遺跡におきましては、昨年度に引き続き大友氏館跡の確認調査を実施いたしました。この調査により、これまでの調査成果と合わせ、大友氏館内の景観を考える上で重要な成果となりました。

また、本書には 7 地点の小規模発掘調査成果とともに、羽田遺跡出土の羽釜の分析結果についても、正式報告として収録しております。

平成 23 年度は文化財の普及・活用について、市民との協働が本格的に動き始めた年度であります。平成 23 年 1 月に正式に発足した「おおいた応援隊 大友歴史保存会」を中心として、大友氏遺跡の普及・啓発を目的に様々な活動を行っているところであります。その一環として、大友氏遺跡フェスタにおいて、市民企画のシンポジウム「発見！大友お宝鑑定大会」が行われ、大盛況を迎えるました。また、開館 4 年目となる大友氏遺跡体験学習館では「イベント」「歴史教室」「体験工房・戦国工房」の 3 つを柱として体験学習の充実に取り組んでおり、家族連れや児童、生徒の来館が昨年度以上に増えてまいりました。

これからも、市民の皆様のご意見をいただきながら、史跡の保護、保存ならびに活用を進めてまいりたいと存じます。

最後になりましたが、本書が市民の皆様に広く活用されますよう祈念いたしますとともに、本市文化財行政に対しましても、より一層のご理解とご協力を願い申し上げます。

平成 25 年 3 月 29 日

大分市教育委員会

教育長 足立一馬

例言・凡例

1. 本書は、大分市域において大分市教育委員会が平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日の間に行なった埋蔵文化財に関する発掘調査およびこれに関連する事業の内容についてまとめた概要報告書である。

2. 平成 23 年度における調査地点は、第 2 図および第 1 表に示している。

3. 本書の執筆は、担当者が分担して行い、文末に執筆者名を記している。

4. 第 IV 章の受贈図書一覧は、平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日の間に大分市教育委員会文化財課に受贈された書籍等を掲載した。なお、受贈図書一覧の作成は、松浦憲治による。

5. 本書に掲載された遺跡調査の資料整理は、調査担当者をはじめ、下記の大分市教育委員会嘱託職員が行ったものである。

奥村義貴、稗田智美、小野千恵美、松木晴美、佐藤良子、倉増美智代、小野綾夏、小野知恵、佐藤麻理子、永井美香

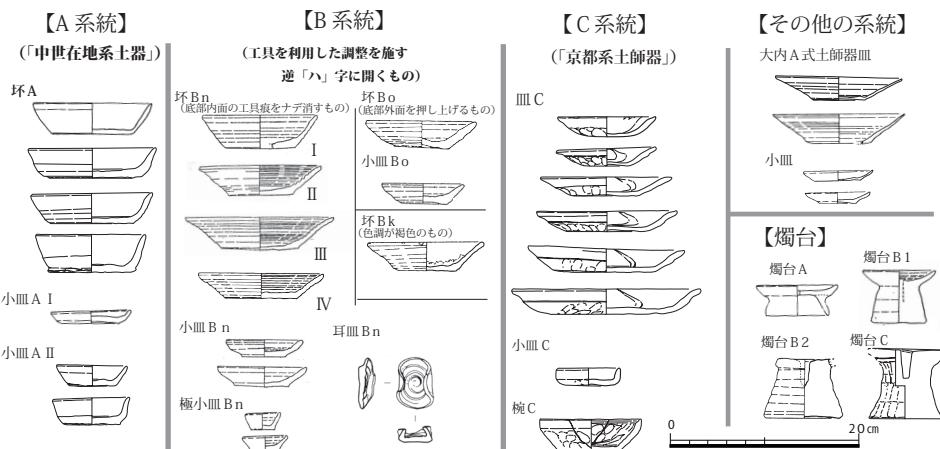
6. 本書に用いた方位はすべて座標北 (G.N.) である。掲載図中の座標は、特に断りがない限り世界測地系の平面直角座標 2 系の X・Y 座標を基点として表記している。

7. 本文中に掲載した現場写真は、各調査担当者が撮影したものである。

8. 本書の編集・構成は、佐藤良子、佐藤麻理子、松浦憲治および各調査担当者が行った。

9. 出土遺物および調査の記録・資料は大分市埋蔵文化財保存活用センターに保管している。

10. 大友氏館跡・中世大友府内町跡で用いた出土遺物の分類及び年代観は以下の図及び文献を参考にしている。



陶磁器類：太宰府市教育委員会 2000『大宰府条坊XV－陶磁器分類編－』 小野正敏 1982「15～16世紀の染付碗・皿の分類と年代」『貿易陶磁研究』No. 2 (染付は青花に読み替える) 上田秀夫 1982「14～16世紀の青磁碗の分類について」『貿易陶磁研究』No. 2 森田勉 1982「14～16世紀の白磁の分類について」『貿易陶磁研究』No. 2 備前：乗岡実 2005「備前」『全国シンポジウム 中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年 資料集』 烧締陶器：吉田寛 2003「中世大友府内町跡出土の産地不明焼締陶器について」『貿易陶磁研究』No. 28 瓦質・土師質土器火鉢：山村信栄 1990「太宰府出土の瓦質土器」『中世土器の基礎的研究』VI 京都系土器：土師質土器鍋：河野史郎 2002「出土土器器皿・皿類及び瓦質土器雑器の分類と編年」『大友府内4』大分市教育委員会 大内系土器：北島大輔 2010「IX章 大内式の設定」『大内氏館跡X』山口市教育委員会 在地系土器：長直信 2011「豊後府内における京都系土器導入 前後の土器様相』『古文化談叢』第65集(4)

本文目次

第1章 大分市教育委員会教育部文化財課概要

1 沿革	1
2 組織	1
3 大分市保護審議会	2

第2章 平成23年度の埋蔵文化財発掘調査概要

①大友氏館跡第25・26・27次調査（概要）	6
②中世大友府内町跡第98次調査（報告）	7
③古国府遺跡群第16次調査（報告）	9
④上野遺跡群第14次調査（報告）	11
⑤上野遺跡群第15次調査（報告）	14
⑥羽田遺跡第8次調査出土の羽釜（報告）	15
⑦米竹遺跡第8次調査（報告）	32
⑧葛木遺跡第7次調査（報告）	35
⑨猪野遺跡第5次調査（報告）	36

第4章 平成23年度教育普及活動の成果概要

①大友氏遺跡フェスタ2011	38
②大分市文化財便り2011年度号の発行	38
③大友氏遺跡体験学習館 平成23年度の活動	38
④現地説明会の開催 鶴崎御茶屋跡第2次調査	39
古国府遺跡群第15次調査	39
史跡元町石仏	39

第5章 受贈図書目録

第1章 大分市教育委員会教育部文化財課概要

1. 沿革

昭和51年4月1日 大分市教育委員会社会教育課内に文化財係を設置
昭和59年6月28日 大分市教育委員会社会教育課文化財係を大分市教育委員会社会教育課文化財室に改組
平成5年4月1日 大分市教育委員会文化振興課文化財室に改組
平成10年4月1日 大分市教育委員会生涯学習課文化財室に改組
平成12年4月1日 大分市教育委員会文化財課に改組
平成13年4月1日 大分市教育委員会教育総務部文化財課に改組
平成21年4月1日 大分市教育委員会教育部文化財課に改組

2. 組織

課長	福田誠一 (平成24年4月～)	大分市歴史資料館	
特別顧問	玉永光洋 (平成24年4月～)	館長	塔鼻浩司 (平成24年4月～)
主幹	坪根伸也	主幹兼副館長	久多羅岐明 武富雅宣
		主査	秋吉えつ子
		指導主事	後藤真治
管理普及担当班			
主幹 (班長)	池邊千太郎 (平成24年4月～)	専門員	岩本浩典
主幹	栗田博之 (平成24年4月～)	主任	中西武尚
指導主事	植木和美		金丸英治
専門員	河野史郎		
主査	神崎小由美 藤澤信之 (～平成24年6月)	嘱託職員	讃岐和夫 (平成24年5月～)
主任	永松正大 竹中智美		古瀬美鈴 細井雅希
臨時職員	玉井 純 (平成24年7月～)		其田満男 神志那潔
			阿南希依 阿部和弘
史跡整備担当班			幸野洋一 竹内 薫
主幹 (班長)	斎藤慎悟 (平成24年4月～)	臨時職員	中山琴葉 (～平成24年10月)
主査	渡辺政雄		姫野都貴 (平成24年11月～)
指導主事	小野富広		
主任	五十川雄也 高橋 悟 (～平成24年6月)		
	藤澤信之 (平成24年7月～) 川口澄雄 山上洋二郎		
主事	石川ゆかり		
嘱託職員	廣瀬育子 小野綾夏 小野研一 (平成24年4月～)		
	福永素久 (平成24年4月～)		
埋蔵文化財担当班			
専門員 (班長)	高畠 豊 (平成24年4月～)		
専門員	塙地潤一		
主査	佐藤道文 (平成24年4月～)		
主事	長 直信 松浦憲治 朝川貴俊		
嘱託職員	小野千恵美 松木晴美 倉増美智代 佐藤良子 (～平成24年8月)		
	永井美香 佐藤麻理子 小野知恵 敷島加代子 (平成24年4月～)		
	稗田智美 (～平成24年3月) 奥村義貴 (～平成24年3月)		
	佐藤孝則 (～平成24年3月) 羽田野裕之 (～平成24年3月)		

3. 大分市教育委員会事務局組織規則（抜粋）

文化財課

- (1) 文化財の調査、保存及び整備に関すること。
- (2) 文化財保護思想の普及啓発に関すること。
- (3) 文化財保護審議会に関すること。
- (4) 歴史資料館、海部古墳資料館、毛利空桑記念館、池見家住宅その他文化財施設の管理に関すること。

1. 大分市文化財保護審議会

大分市文化財保護審議会委員（平成 24 年 4 月 1 日現在）

氏名	勤務先	担当
北野 隆	熊本大学・名誉教授（会長）	建築
豊田 寛三	別府大学学長（副会長）	近世
下村 智	別府大学・教授	考古埋蔵
西別府 元日	広島大学・教授	古代
鹿毛 敏夫	新居浜工業高等専門学校・准教授	中世
宗像 健一	大分市美術館・顧問	美術
吉田 稔	大分生物談話会会长	植物
渡辺 文雄	別府大学・教授	工芸
段上 達雄	別府大学・教授	民俗
渡邊 ひろ美	大分県立大分舞鶴高等学校・教諭	動物

大分市文化財保護審議会条例（平成 11 年 12 月 15 日条例第 42 号）

（設置）

第1条 文化財保護法（昭和 25 年法律第 214 号）第 190 条第 1 項の規程に基づき、大分市教育委員会（以下「教育委員会」という。）に大分市文化財保護審議会（以下「審議会」という）を置く。（平 17 条例 13・一部改正）

（組織）

第2条 審議会は、委員 10 人以内をもって組織し、学識経験者のうちから教育委員会が委嘱する。

（任期）

第3条 委員の任期は、2 年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の在任期間とする。

（会長及び副会長）

第4条 審議会に会長及び副会長 1 人を置き、委員の互選により選出する。

2 会長は、審議会を代表し、会務を総括する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

（会議）

第5条 審議会の会議（以下「会議」という。）は会長が召集し、会長がその議長となる。

2 会議は、委員の過半数が出席しなければ、これを開くことができない。

3 会議の議事は、出席議員の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

4 会長は、必要があると認めるときは、会議に委員以外の者の出席を求め、説明、又は意見を聞くことができる。

（部会）

第6条 審議会に、教育委員会規則の定めるところにより、部会を置くことができる。

（庶務）

第7条 審議会の庶務は、教育委員会事務局において処理する。

（委任）

第8条 この条例に定めるもののほか、審議会の運営に関し必要な事項は、会長が定める。

附則

（施行期日）

1 この条例は、平成 12 年 4 月 1 日から施行する。

（大分市文化財調査委員会条例の廃止）

2 大分市文化財調査委員会条例（昭和 51 年大分市条例第 4 号）は廃止する。

附則（平成 17 年条例第 13 号）

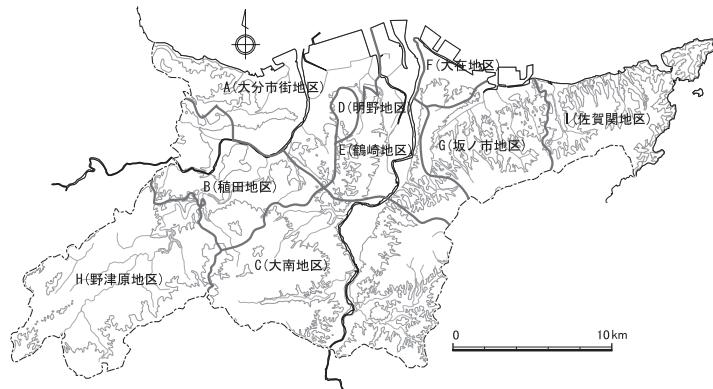
この条例は、平成 17 年 4 月 1 日から施行する。

第2章 平成23年度発掘調査概要

平成23年度に、大分市教育委員会が実施した発掘調査（本調査）は20件、合計の調査面積は8393.9m²である。このうち、大分市の公共事業によるものが8件6111.4m²、国庫補助による市内遺跡確認調査が3件1362.9m²、民間開発に伴う事業が9件で919.6m²であった。市内の地域区分でみると、鶴崎御茶屋跡2次、横尾遺跡147・148次、猪野遺跡5次、米竹7・8次、葛木遺跡7次が鶴崎地区（地域E）、賀来中学校遺跡5次が植田地区（地域B）である他はすべて大分市街地区（地域A）であった。

一方、開発事業に伴う試掘・確認調査・立会

調査は138件であった。試掘・確認調査が41件、立会調査が97件である。試掘・確認調査では11件27%が公共事業に伴うものである。立会調査については、大半が個人住宅の浄化槽設置に伴う立会調査である。地域別件数では、大小含めて開発が集中している大分地区（地域A）が59件43%、個人住宅の浄化槽設置工事を含む中小規模の民間開発が多い鶴崎地区（地域E）が60件43%と、両地域で9割近くを占めている。その他は、植田地区（地域B）で6件、坂ノ市地区（地域G）で5件、大在地区（地域F）で4件、大南地区（地域C）で2件となっている。



第1図 大分市地域区分図

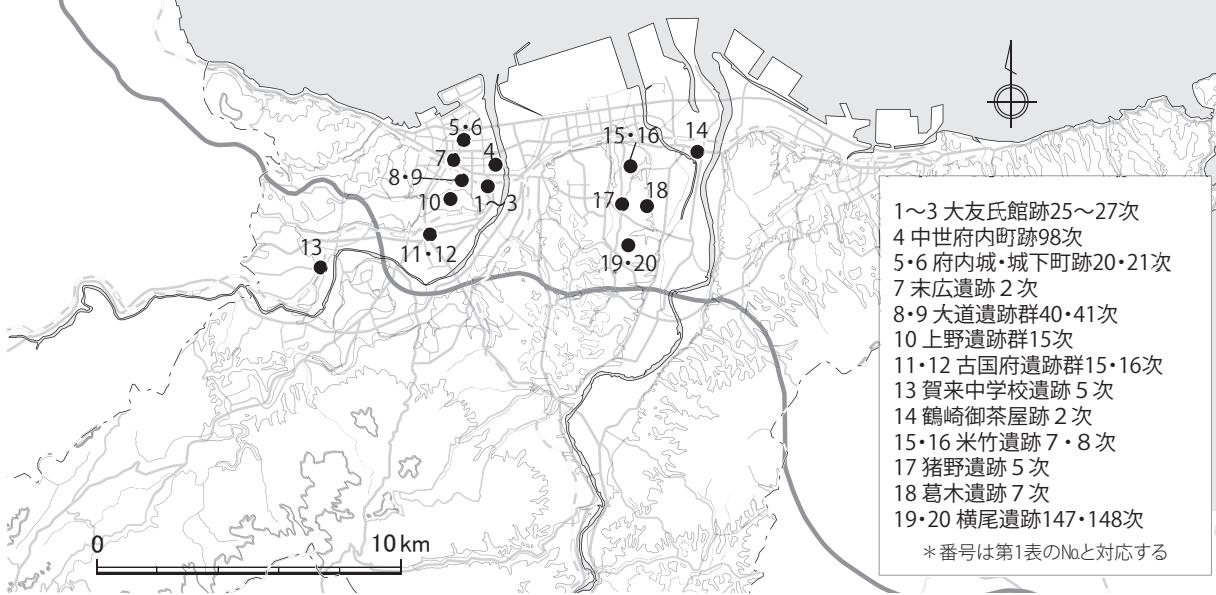
番号	遺跡名	所在地	担当者	調査原因	面積	調査期間	調査内容	報告予定
1	大友氏館跡第25次	顯徳町3丁目A	五十川	史跡整備に伴う確認調査	498.1	20110527～20110731	14世紀末から15世紀前半の掘立柱建物、16世紀ごろの板塀などの遮蔽施設など	平成23年度（概報）
2	大友氏館跡第26次	顯徳町3丁目A	五十川	史跡整備に伴う確認調査	754.4	20111024～20120208	15世紀前半の大規模整地、16世紀中頃から後半のかわらけ大量廃棄土坑など	平成23年度（概報）
3	大友氏館跡第27次	顯徳町3丁目A	五十川	史跡整備に伴う確認調査	110.4	20110926～20120208	15世紀後半から16世紀前半の柱穴列、16世紀中頃から後半の南北溝など	平成24年度
4	中世府内町跡第98次	錦町2丁目A	塩地 佐藤 松浦	個人住宅	119.2	20110628～20110629	16世紀の溝、土坑	本書所収
5	府内城・城下町跡第20次	中央町3丁目A	松浦	幼稚園建替	20	20110721～20110722	江戸時代の廃棄土坑	平成24年度以降
6	府内城・城下町跡第21次	末広町2丁目A	長	道路拡幅事業	1256	20111006～20120229	府内城外堀の土塁及び石垣列など	平成25年度以降
7	末広遺跡第2次	末広町1丁目A	長	道路拡幅事業	400	20111021～20120315	18世紀頃の土坑や性格不明造構など	平成23年度
8	大道遺跡群第40次	東大道1丁目A	塩地	駅南区画整理事業	208.4	20111109～20111228	弥生時代後期や江戸時代の土坑・柱穴・溝状造構など	平成25年度以降
9	大道遺跡群第41次	東大道1丁目A	塩地	駅南区画整理事業	601.5	20111109～20111228	弥生時代後期や江戸時代の土坑・柱穴・溝状造構など	平成25年度以降
10	上野遺跡群第15次	上野丘2丁目A	佐藤(道) 奥村 小野	個人住宅	83.7	20120117～20120118	中世の瓦	本書所収
11	古国府遺跡群第15次	大字奥田A	長	校舎建替	1800	20110524～20110930	弥生時代後期の壺棺墓、古墳時代前期の大型掘立柱建物など	平成24年度
12	古国府遺跡群第16次	大字羽屋字七曹司A	長 松浦	個人住宅	30.6	20110407	古代の柱穴	本書所収
13	賀来中学校遺跡第5次	大字賀来B	塩地	水路埋設	142	20120131～20120207	弥生時代後期の環濠跡や土器埋設造構、中世の溝跡など	平成24年度
14	鶴崎御茶屋跡第2次	鶴崎字西浦E	松浦	庫裡建替	367.4	20110722～20111007	江戸時代の日蓮宗寺院の庫裡基壇及び礎石建物など	平成23年度
15	米竹遺跡第7次	大字千歳E	奥村	老人福祉施設建設	158	20111116～20111209	弥生時代中期の貯蔵穴など	平成23年度
16	米竹遺跡第8次	大字小池原字米竹E	小野(綾)	共同住宅建築	15	20120220～20120229	弥生時代中期の貯蔵穴など	本書所収
17	猪野遺跡第5次	大字猪野E	長	宅地造成	85.3	20110509～20110510	弥生時代中期の溝、土坑など	本書所収
18	葛木遺跡第7次	大字葛木字今在木E	長 松浦	高齢者向け住宅	40.4	20120229～20120301	古代と思われる掘立柱建物跡	本書所収
19	横尾遺跡第147次	大字横尾E	松浦	横尾区画整理事業	326.7	20111026～20120315	弥生時代の溝、土坑など	平成24年度
20	横尾遺跡第148次	大字横尾E	松浦	横尾区画整理事業	1376.8	20111026～20120315	中世期と考えられる掘立柱建物跡、近世期の溝など	平成24年度

第1表 平成23年度発掘調査一覧表

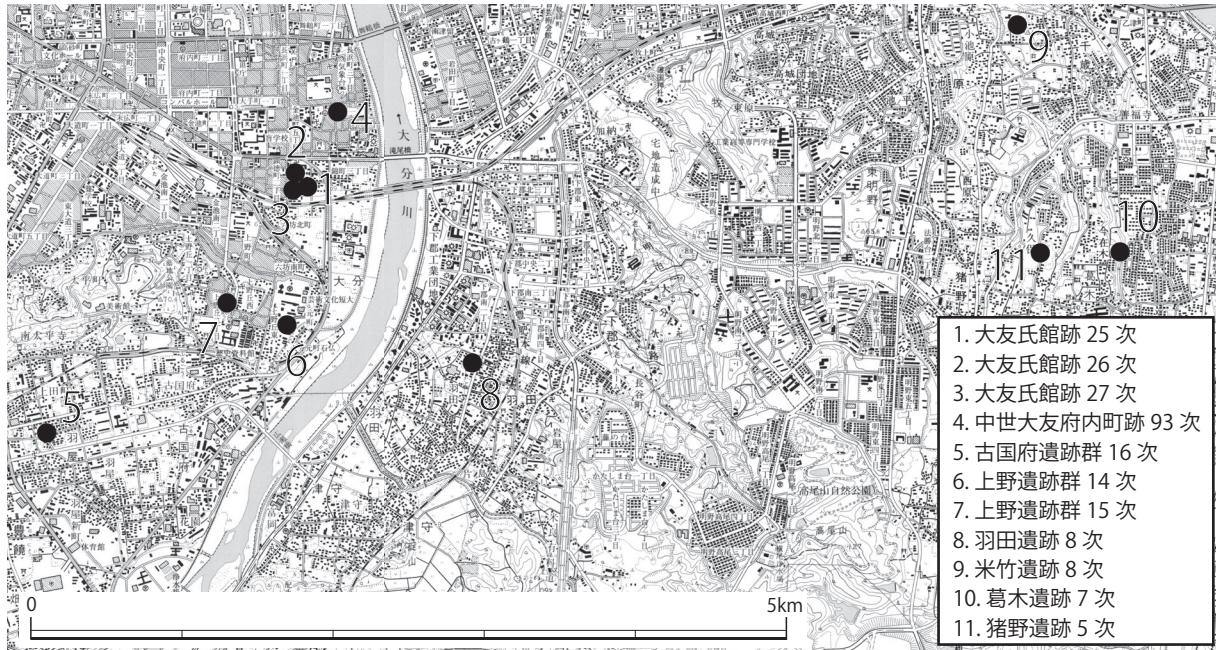
No.	調査種別	遺跡名	調査日	所在地	地域	調査原因	事業種別	調査面積	遺跡有無	担当者	措置
1	立会	古国府遺跡群	平成23年4月1日	大字羽屋905-1、905-4	A	個人住宅（浄化槽）	民間	2.8	なし	塙地	工事着工
2	立会	津守遺跡	平成23年4月5日	大字津守字室ノ西341番	A	個人住宅（浄化槽）	民間	3.8	あり	長	工事着工
3	立会	東根寺遺跡	平成23年4月6日	大字森字西町527-6	E	個人住宅（浄化槽）	民間	5.0	なし	池邊	松浦
4	立会	横尾遺跡	平成23年4月7日	大字横尾C-13ブロック	E	集合住宅（浄化槽）	民間	1.3	あり	佐藤	工事着工
5	確認	古国府遺跡群	平成23年4月7日	大字羽屋字七曹司172番13	A	個人住宅（基礎部分）	民間	30.6	あり	長	松浦
6	立会	米竹遺跡	平成23年4月8日	大字千歳字火炎1770番8	E	個人住宅（浄化槽）	民間	3.4	あり	長	工事着工
7	立会	米竹遺跡	平成23年4月11日	大字千歳字花1770番7	E	個人住宅（浄化槽）	民間	3.3	あり	松浦	工事着工
8	確認	古国府遺跡群	平成23年4月11日	大字奥田72番地の1	A	学校建設	公共	72.0	なし	塙地	本調査
9	確認	府内城跡	平成23年4月11日	荷揚町3番1号	A	ガス管埋設工事	民間	1.0	あり	池邊	工事着工
10	立会	中世大友府内町跡	平成23年4月12日	六坊北町3010番4	A	個人住宅（浄化槽）	民間	3.3	なし	佐藤	工事着工
11	立会	府内城跡・城下町	平成23年4月13日	中央町三丁目143	A	学校建設（基礎部分）	公共	16.1	あり	長	松浦
12	確認	古国府遺跡群	平成23年4月14日～15日	大字羽屋字園107番3	A	個人住宅（基礎部分）	民間	31.5	あり	長	松浦
13	立会	鳥居遺跡	平成23年4月11日	大字葛木字削318番9	E	個人住宅（浄化槽）	民間	2.0	なし	池邊	工事着工
14	確認	賀来来日学校遺跡	平成23年4月21日	賀来117番	B	学校建設	公共	41.8	あり	塙地	協議中
15	立会	米竹遺跡	平成23年4月21日	大字千歳字土井畑804番4	E	個人住宅（浄化槽）	民間	5.1	あり	松浦	工事着工
16	確認	古国府遺跡群	平成23年4月22日	大字古国府字木町314番地	A	個人住宅（基礎部分）	民間	54.0	あり	長	工事着工
17	立会	古国府遺跡群	平成23年4月26日	大字古国府字菜園511-1	A	建壳住宅（浄化槽）	民間	3.4	なし	塙地	工事着工
18	立会	中世大友府内町跡	平成23年4月27日	六坊北町4760番8	A	看板設置（基礎部分）	民間	3.0	なし	佐藤	工事着工
19	立会	猪野遺跡	平成23年4月28日	大字猪野字室井837番8	E	個人住宅（浄化槽）	民間	3.8	あり	松浦	工事着工
20	確認	米竹遺跡	平成23年5月6日	大字千歳中194番1・2・3	E	宅地造成	民間	7.7	あり	長	工事着工
21	立会	羽田遺跡	平成23年5月9日	大字片島字被田683番4	A	個人住宅（浄化槽）	民間	3.1	なし	佐藤	工事着工
22	立会	米竹遺跡	平成23年5月14日	大字小池原字仲原40番8, 9	E	個人住宅（浄化槽）	民間	5.8	あり	池邊	松浦
23	確認	鶴崎茶屋跡	平成23年5月17日	鶴崎西浦354番地の1	E	その他	民間	123.8	あり	塙地	長
24	立会	峰遺跡	平成23年5月18日	大字上戸次字道5033番	C	個人住宅（浄化槽）	民間	5.0	なし	塙地	工事着工
25	立会	米竹遺跡	平成23年5月18日	大字小池原字仲原40番12	E	個人住宅（浄化槽）	民間	3.8	あり	松浦	工事着工
26	確認	椿ヶ丘横穴墓群	平成23年5月25日	上宗方739-1 ほか6筆	B	宅地造成	民間	0.0	なし	池邊	工事着工
27	立会	宮壳苑口ノ遺跡	平成23年5月26日	大字宮壳苑1243番	E	個人住宅（浄化槽）	民間	3.0	なし	塙地	小野
28	立会	横尾遺跡	平成23年6月15日	大字横尾字尾8265・2866	E	個人住宅（基礎部分）	民間	4.2	なし	塙地	工事着工
29	立会	猪野遺跡	平成23年6月18日	大字猪野字新井837番9	E	個人住宅（浄化槽）	民間	7.0	あり	池邊	松浦
30	立会	米竹遺跡	平成23年6月21日	大字千歳字二井1804番5	E	個人住宅（浄化槽）	民間	3.6	あり	松浦	小野
31	立会	米竹遺跡	平成23年6月22日	大字千歳字火炎1770番1	E	個人住宅（浄化槽）	民間	3.6	あり	塙地	小野
32	確認	津守遺跡	平成23年6月22日	大字津守字津守982-1他筆	A	宅地造成	民間	18.6	なし	池邊	佐藤（道）
33	確認	中世大友府内町跡	平成23年6月28日～29日	錦町二丁目333番の一部	A	個人住宅	民間	119.2	あり	塙地	佐藤
34	確認	羽田遺跡	平成23年7月1日	羽田2-1・21-2	A	その他	民間	12.5	なし	松浦	小野
35	確認	古国府遺跡群	平成23年7月5日	大字古国府字204番1	A	個人住宅	民間	15.5	あり	塙地	松浦
36	確認	古国府遺跡群	平成23年7月5日	大字羽屋字草木112番2	A	個人住宅	民間	30.0	なし	塙地	松浦
37	立会	古国府遺跡群	平成23年7月8日	大字奥田上河原699番12	A	個人住宅（浄化槽）	民間	2.0	なし	佐藤（道）	工事着工
38	立会	鳥居遺跡	平成23年7月11日	大字葛木字原ノ後JG656番1	E	個人住宅（浄化槽）	民間	2.1	なし	塙地	工事着工
39	確認	中世大友府内町跡	平成23年7月11日	長浜町二丁目3552番1他	A	個人住宅	民間	24.5	あり	塙地	佐藤（道）
40	確認	久原遺跡	平成23年7月13日	久原中央1丁目171-1・172	G	事務所	民間	3.0	なし	佐藤（道）	奥村
41	確認	府内城跡	平成23年7月20日	中央町三丁目143	A	学校建設	公共	20.0	なし	池邊	佐藤（道）
42	立会	古国府遺跡群	平成23年7月19日	大字羽屋828-4 外	A	下水道工事	民間	0.0	なし	佐藤（道）	工事着工
43	立会	羽田遺跡	平成23年7月25日	大字片島字上744番	A	個人住宅（浄化槽）	民間	2.6	あり	池邊	佐藤（道）
44	確認	府内城跡・城下町	平成23年7月26日	末広町2丁目31号	A	道路建設	公共	40.3	あり	塙地	小野
45	確認	古国府遺跡群	平成23年7月27日	大字羽屋字中菜園	A	集合住宅	民間	22.5	なし	池邊	佐藤（道）
46	確認	羽田遺跡	平成23年7月28日	大字羽屋字園107番2・1081番6	E	個人住宅	民間	16.0	あり	奥村	小野
47	立会	中世大友府内町跡	平成23年7月29日	錦町一丁目3434番5、3435番	A	個人住宅（基礎部分）	民間	3.6	その他	塙地	小野
48	立会	羽田遺跡	平成23年8月1日	大字片島字橋爪 橫小路804-3	A	宅地造成（地盤改良）	民間	12.8	あり	池邊	佐藤（道）
49	立会	猪野遺跡	平成23年8月5日	大字猪野字東角363番8	E	個人住宅（基礎、浄化槽）	民間	2.6	その他	塙地	小野
50	立会	猪野遺跡	平成23年8月5日	大字猪野字東角363番7	E	個人住宅（浄化槽）	民間	1.8	その他	塙地	小野
51	立会	古国府遺跡群	平成23年8月8日	大字古国府字菜園511-4	A	個人住宅（浄化槽）	民間	3.8	なし	佐藤（道）	工事着工
52	立会	下郡南遺跡	平成23年8月10日	下郡南1丁目107番	A	個人住宅（浄化槽）	民間	3.8	なし	池邊	小野
53	立会	城南遺跡	平成23年8月18日	大字永興字岩台846、847	A	造成工事（擁壁）	民間	33.5	なし	池邊	佐藤（道）
54	確認	城原ノ里遺跡	平成23年8月24日	大字城原字原1648-1	F	その他	民間	20.0	なし	佐藤（道）	小野
55	立会	羽田遺跡	平成23年8月22日	大字片島字西638-3	A	個人住宅（浄化槽）	民間	4.2	なし	佐藤（道）	工事着工
56	立会	猪野遺跡	平成23年8月26日	大字猪野字原1230-30	E	個人住宅（浄化槽）	民間	4.0	なし	池邊	小野
57	立会	鳥居遺跡	平成23年8月26日	大字猪野字鶴1737番	E	個人住宅（浄化槽）	民間	2.6	なし	塙地	小野
58	立会	猪野遺跡	平成23年9月13日	大字猪野字新井837番10	E	個人住宅（浄化槽）	民間	2.8	あり	佐藤（道）	小野
59	確認	木庄跡	平成23年9月12日	木庄	A	道路建設	公共	0.0	あり	塙地	奥村
60	確認	米竹遺跡	平成23年9月12日	大字千歳1810番3	E	老人ホーム建設	民間	26.0	あり	佐藤（道）	小野
61	確認	横尾遺跡	平成23年9月13日	大字横尾	E	区画整理	公共	0.0	あり	塙地	奥村 小野
62	立会	猪野遺跡	平成23年9月13日	大字猪野字東角363番6	E	個人住宅（基礎、浄化槽）	民間	2.0	なし	佐藤（道）	奥村
63	立会	賀来井遺跡	平成23年9月15日	賀来井ノ口4000番	B	集合住宅（浄化槽）	民間	13.0	なし	佐藤（道）	奥村
64	立会	米竹遺跡	平成23年9月22日	大字小池原字仲原40番14	E	個人住宅（浄化槽）	民間	4.5	なし	池邊	奥村 小野
65	立会	猪野遺跡	平成23年9月22日	大字猪野字東角363番9	E	個人住宅（基礎、浄化槽）	民間	26.5	その他	池邊	松浦 奥村 小野
66	立会	猪野遺跡	平成23年9月22日	大字猪野字東角363番10	E	個人住宅（基礎、浄化槽）	民間	6.8	なし	池邊	松浦 奥村 小野
67	立会	横尾遺跡	平成23年9月22日	大字横尾字良原32413	E	個人住宅（浄化槽）	民間	2.2	なし	佐藤（道）	工事着工
68	立会	賀来井遺跡	平成23年9月26日	大字東雲字院1-1反54-3番	B	個人住宅（浄化槽）	民間	3.3	なし	長	小野
69	確認	猪野遺跡	平成23年9月27日	大字猪野字原1197-1	E	宅地造成	民間	65.9	あり	佐藤（道）	小野
70	確認	北道跡	平成23年9月28日	青崎一丁目287番	F	その他	民間	24.0	なし	池邊	奥村 小野
71	立会	羽田遺跡	平成23年10月11日	羽田下512番9	A	個人住宅（浄化槽）	民間	5.5	なし	奥村	小野
72	立会	猪野遺跡	平成23年10月17日	大字猪野字東角363番7	E	個人住宅（浄化槽）	民間	3.8	なし	奥村	小野
73	立会	猪野遺跡	平成23年10月19日	大字猪野字東角363番8	E	個人住宅（浄化槽）	民間	3.5	なし	奥村	小野
74	立会	猪野遺跡	平成23年10月20日	大字猪野字東角363番8	E	個人住宅（浄化槽）	民間	4.4	なし	奥村	小野
75	立会	津守遺跡	平成23年10月24日	大字津守字1145-5	A	個人住宅（浄化槽）	民間	4.2	なし	奥村	小野
76	確認	浜道跡	平成23年10月25日	浜大二丁目312	F	公園建設	公共	56.6	なし	松浦	奥村 小野
77	立会	猪野遺跡	平成23年10月28日	大字猪野字白駒郎327番1	E	個人住宅（浄化槽）	民間	3.3	なし	塙地	佐藤（道）
78	確認	下郡南遺跡群	平成23年11月1日	下郡南1丁目117番の一部	A	集合住宅	民間	12.0	なし	松浦	小野
79	立会	岩寺寺遺跡	平成23年11月4日	大字古国府字ナ田140-1	A	個人住宅（基礎部分）	民間	11.0	なし	奥村	小野
80	立会	葛木遺跡	平成23年11月9日	大字葛木205-15	E	個人住宅（浄化槽）	民間	3.0	なし	奥村	小野
81	立会	羽田遺跡	平成23年11月11日	大字片島字島原907番1	A	個人住宅（浄化槽）	民間	4.2	なし	奥村	小野
82	立会	米竹遺跡	平成23年11月14日	大字千歳字火炎1770番10	E	個人住宅（浄化槽）	民間	3.4	なし	奥村	小野
83	立会	下郡南遺跡群	平成23年11月16日	下郡南1丁目15番1	A	個人住宅（浄化槽）	民間	3.4	なし	奥村	小野
84	立会	津守跡	平成23年11月21日	大字津守字堂ノ後195番1	A	個人住宅（浄化槽）	民間	2.2	なし	松浦	小野
85	立会	猪野遺跡	平成23年11月22日	大字猪野1360番地の1	E	老人保健施設（浄化槽）	民間	20.0	なし	松浦	小野
86	立会	津守遺跡	平成23年11月24日	大字津守字ノ後195番1	A	個人住宅（浄化槽）	民間	3.3	なし	松浦	小野
87	立会	下郡南遺跡群	平成23年11月24日	下郡南1丁目15番4	A	個人住宅（浄化槽）	民間	0.0	なし	長	工事着工
88	立会	葛木遺跡	平成23年11月25日	大字葛木字木205番16	E	個人住宅（浄化槽）	民間	3.5	なし	佐藤（道）	小野
89	立会	羽田遺跡	平成23年11月29日	大字片島字橋1803番6	A	個人住宅（浄化槽）	民間	2.1	なし	松浦	小野
90	立会	猪野遺跡	平成23年11月29日	大字猪野字猪野原1269番4	E	集合住宅（宅地造成）	民間	69.2	あり	佐藤（道）	小野
91	立会	千歳城跡	平成23年11月30日	大字千歳字井ノ内2056	E	その他	公共	0.0	なし	塙地	工事着工
92	立会	猪野遺跡	平成23年12月1日	大字猪野字東角363番9	E	個人住宅（浄化槽）	民間	5.6	なし	松浦	小野
93	確認	古国府遺跡群	平成23年12月2日	大字奥田72番地の1	A	学校建設	公共	0.0	なし	長	松浦
94	立会	羽田遺跡	平成23年12月2日	大字羽田字抜191番1	A	個人住宅（浄化槽）	民間	5.1	なし	佐藤（道）	小野
95	立会	下郡南遺跡群	平成23年12月5日	下郡北2丁目168番	A	個人住宅（浄化槽）	民間	4.4	なし	松浦	奥村 小野
96	立会	古国府遺跡群	平成23年12月5日	大字古国府465番-3番地先	A	下水道	公共	0.0	なし	佐藤（道）	奥村 小野

112	立会	若宮八幡宮遺跡	平成24年1月18日	六坊南町4516番1	A	集合住宅(浄化槽)	民間	8.0	なし	奥村 小野	工事着工
113	立会	羽田遺跡	平成24年1月20日	大字片島字西脇638-2	A	個人住宅(浄化槽)	民間	3.1	なし	奥村 小野	工事着工
114	確認	上野遺跡群	平成24年1月23日	上野丘2丁目699-3	A	個人住宅	民間	0.0	なし	長 小野	工事着工
115	確認	米竹遺跡	平成24年1月23日	大字小池原字米竹244番	E	集合住宅	民間	78.0	あり	佐藤(道)	本調査
116	立会	古国府遺跡群	平成24年1月26日	上田町5-1組	A	集合住宅	民間	24.0	あり	長 奥村 小野	工事着工
117	確認	賀来中学校遺跡	平成24年1月31日～2月2日	大字賀来117番	B	その他(水路の埋設)	民間	960.0	あり	塙地 奥村 小野	工事着工
118	立会	津守遺跡	平成24年2月7日	大字津守字宮ノ後195番6	A	個人住宅(浄化槽)	民間	3.0	なし	奥村 小野	工事着工
119	立会	津守遺跡	平成24年2月8日	大字津守字宮ノ後195番5	A	個人住宅(浄化槽)	民間	3.5	なし	奥村 小野	工事着工
120	確認	千歳城跡	平成24年2月14日	大字千歳字土井井内2056	E	屋内トイレ	公共	12.0	なし	塙地 小野	工事着工
121	立会	丹生川坂ノ市条里跡	平成24年2月16日	大字木田字宮崎1607番1	G	個人住宅(浄化槽)	民間	2.8	なし	松浦 小野	工事着工
122	確認	丹生川坂ノ市条里跡	平成24年2月20日	坂口市中央五丁目8番1号	G	屋外トイレ設置工事	公共	16.0	なし	松浦 奥村	工事着工
123	立会	猪野遺跡	平成24年2月21日	大字猪野字成原1197-1～2	E	宅地造成	民間	2.9	なし	松浦	工事着工
124	立会	葛木遺跡	平成24年2月22日	大字葛木字西上205-11	E	個人住宅(浄化槽)	民間	4.1	なし	松浦 小野	工事着工
125	立会	米竹遺跡	平成24年2月27日	大字千歳字土井畑18034	E	個人住宅(浄化槽)	民間	0.0	あり	松浦	工事着工
126	立会	葛木遺跡	平成24年3月2日	大字葛木字西上269番	E	個人住宅(浄化槽)	民間	2.7	あり	松浦	工事着工
127	立会	二目川遺跡	平成24年3月5日	大字横尾字猪野原3603番13	E	個人住宅(浄化槽)	民間	2.8	なし	長 小野	工事着工
128	立会	横尾遺跡	平成24年3月5日	横尾地区画整理街区番号A-12-3-2	E	個人住宅(浄化槽)	民間	6.5	なし	松浦 小野	工事着工
129	確認	葛木遺跡	平成24年2月29日～3月1日	大字葛木字今木815番、816番	E	その他	民間	40.4	あり	長 松浦	工事着工
130	立会	門前遺跡	平成24年3月12日	大字松岡字九朗四郎5290	E	個人住宅(浄化槽)	民間	3.8	なし	松浦 小野	工事着工
131	立会	横塚遺跡1	平成24年3月14日	横塚2丁目132番	F	個人住宅(浄化槽)	民間	3.0	なし	松浦 小野	工事着工
132	立会	米竹遺跡	平成24年3月14日	大字千歳字中1344-10 1344-11	E	個人住宅(浄化槽)	民間	3.0	なし	長 小野	工事着工
133	立会	二目川遺跡	平成24年3月15日	大字横尾字猪野原3603番14	E	個人住宅(浄化槽)	民間	3.8	なし	松浦 小野	工事着工
134	立会	葛木遺跡	平成24年3月19日	大字葛木字中原423番11	E	集合住宅(浄化槽)	民間	5.4	なし	松浦 小野	工事着工
135	立会	猪野遺跡	平成24年3月22日	大字猪野字太郎塚1305-1	E	個人住宅(浄化槽)	民間	6.0	なし	松浦 小野	工事着工
136	立会	古国府遺跡群	平成24年3月23日	大字古国府字南496番4	A	個人住宅(基礎部分)	民間	0.0	なし	松浦 小野(知)	工事着工
137	立会	地蔵原遺跡	平成24年3月28日	大字千歳字土井畑1820番3	E	個人住宅(浄化槽)	民間	3.0	なし	松浦 小野(知) 小野(綾)	工事着工
138	確認	雄方・後遺跡	平成24年3月29日	大字田原字雄方91番5 94番2	B	その他	民間	89.0	あり	長 松浦 小野(知)	協議中

第3表 平成23年度試掘立会一覧表



第2図 平成23年度発掘調査位置図



第3図 報告する遺跡位置図 (1/5000)

第3章 主要な埋蔵文化財発掘調査概要及び調査報告

1 大友氏館跡第 25・26・27 次調査（概要）

25 次： 調查面積 498.1 m² 調查期間 11.05.27 ~ 11.08.19

地域 A

26 次： 調查面積 754.4 m² 調查期間 11.10.24 ~ 12.02.08

調査担当 五十川雄也

27 次： 調查面積 110.4 m² 調查期間 11.09.27 ~ 12.02.08

(25～27次全て)

1. 館 25 次調查

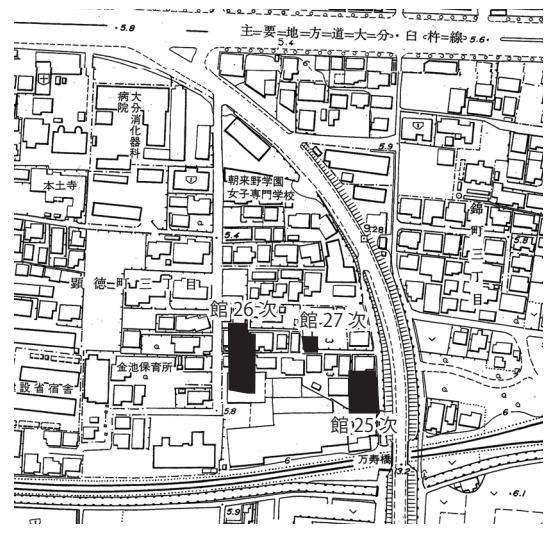
調査区は、大友館東部にある。調査目的は3点である。第1に庭園北東側に想定される遮蔽施設の確認であるが、明確には確認できなかった。ただし16世紀代に該当すると思われる東西方向の柱穴列（板塀？）は検出された。第2に館12次調査区で確認された掘立柱建物跡（14世紀末～15世紀前半）の展開確認で、当調査区内でも展開が確認でき、館12次調査の成果を追認できたといえる。さらに今回の調査区と館22次調査の成果から、14世紀末～15世紀前半の掘立柱建物跡の北側から東側にかけては廃棄土坑や井戸跡が広がる空間であったことがわかった。第3に天正14年以後の町屋の復興の状況確認で、今回の調査でも確認された。主な遺構は井戸跡や廃棄土坑で、玉砂利や瓦、京都系土師器、備前焼、唐津系陶器、ガラス片などが出土しており、町屋の裏手の状況を示していると考えられる。また瓦溜まり遺構もに関しては、館の施設に葺かれていたものを転用した可能性がある。

2. 貼 20 次調查

調査区は、大及館はは中央で、中心建物跡の西側に隣接する。調査目的は5点である。第1に中心建物跡の西側への展開の確認であったが、中心建物跡の柱基礎等の関連遺構は検出できなかつたため、現在の中心建物跡西側ラインがさらに西へ延びる可能性は低くなつた。第2に中心建物跡の南西側に付属する建物跡の展開の確認は、16世紀代の遺構を切る礎石・礎盤石をもつピットなどが一部展開するが、近世の水田化に伴つて、削平を受けており、不明な点が多い。しかし、規模は不明ながら、礎石・礎盤石をもつ掘立柱建物跡が展開していた可能性は高い。第3に館17、20次調査区の大規模整地の西限の確認で、大規模整地は調査区東側で幅2mまでを確認でき、それより西側は、近世水田層に切られている。大規模整地の西限は、検出した15世紀後半代の南北溝機能時には、大規模整地は存在していたため、西限は南北溝あたりであろう。16世紀後半頃は延びても北西隅で確認された南北溝の西側までであろう。ただし館の最終段階には、南北溝が埋められ、整地層が広がつてゐるため、現道周辺まで大規模整地が延びてゐる可能性もある。第4に館4次調査で検出された溝（16世紀代）の確認で、調査区北西隅で、16世紀中葉～後葉の南北溝の西側一部を確認した。第5に調査区南側で東西の区画施設（大規模整地と庭園を区画する溝など）の確認であるが、攪乱もあり、南側で16世紀代の東西方向の区画施設（大規模整地と庭園の境）は確認できなかつた。

3. 館 27 次調查

調査区は、大友館中心部よりやや東側にあたる。調査目的は2点である。第1に館23次調査区で検出された南北溝の確認及び館16次調査区で検出された溝跡の確認で、館15・23次調査区から続く16世紀後半代の南北溝は当調査区の西端で検出された。調査区外に伸びるため、今後も当調査区の南西部を調査する必要がある。また当調査区南側の館16次調査で検出された南北溝は、当調査区では検出できなかったため、屈曲するもしくは途切れる可能性が高い。第2に中心建物跡東側の柵跡や掘立柱建物跡の展開確認である。杭状のものと柱穴列が確認された。柱穴列は柵跡か掘立柱建物跡一部であろう。時期は不明であるが、16世紀後葉～末葉までは下がらないと思われる。(五十川雄也)



第4図 調査位置図 (1/5000)

2 中世大友府内町跡第98次調査

調査面積 119.2 m²

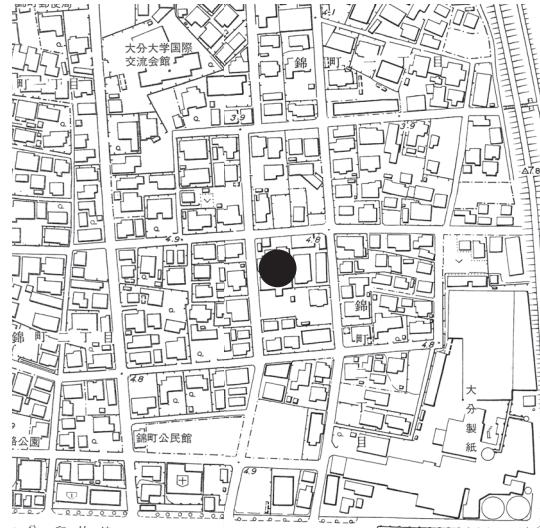
地域 A

調査期間 11.06.28 ~ 11.06.29

調査担当 塩地潤一・佐藤道文・松浦憲治

1. 調査の経緯・立地と環境

中世大友府内町跡は、大分川河口部左岸の沖積平野に立地する。大友氏館跡を中心として広がる中世都市遺跡である。中世大友府内町跡第98次調査は、錦町2丁目に所在し、宅地開発による造成工事に伴って実施した確認調査である。第3次調査の北約150mの地点で、中世大友府内町における中之町に推定されており、町屋が展開する地点である。



第5図 調査位置図 (1/5000)

2. 調査の概要

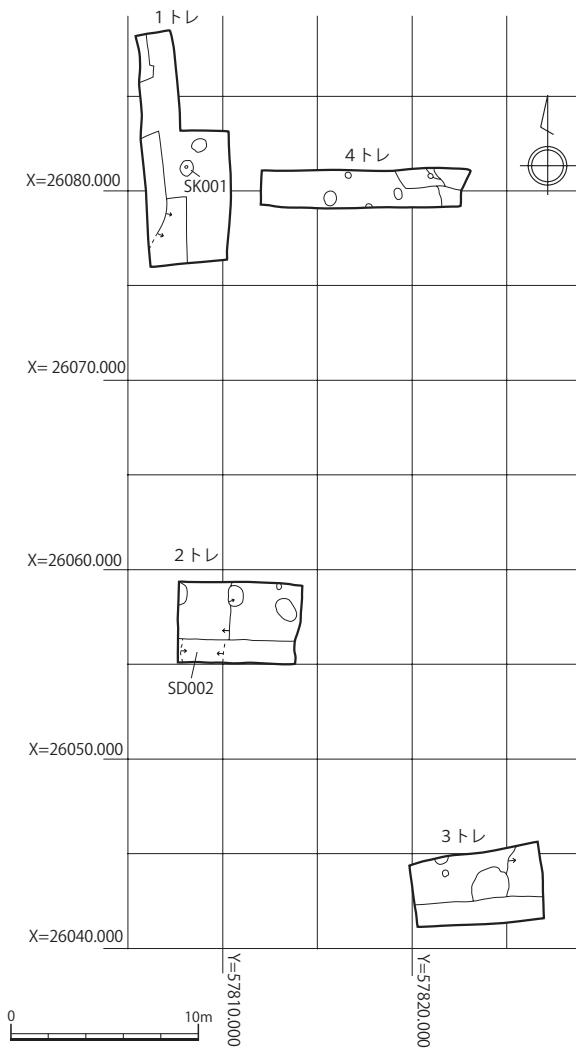
調査は宅地造成の範囲内において1~4のトレーナーを設定し調査を行った。現地表面下約0.3mまでは現代の造成土及び暗褐色土の遺物包含層である。その下で褐色土に至り、褐色土上面で遺構を検出した。なお褐色土の下位には地山と考えられる灰黄色シルトが堆積しており、周辺の地形は氾濫原などの河川由来の堆積物で形成されたものと考えられる。

主な遺構は溝状遺構と土坑である。全体的な遺構密度はかなり低いが、西側の溝状遺構付近ではやや密度が高い。SD002は1・2トレーナーで検出した南北方向の溝である。西肩は調査区外にのびるが、西側の立ち上がり部分は確認している。幅3m以上で、深さ約1.4mを測る。埋土は灰黄褐色細砂を呈する。埋土の中から京都系土師器が出土しており、16世紀後半に廃絶したものと考えられる。SK001は1トレーナーで検出した土坑で、16世紀中頃の在地系土師器が出土している。

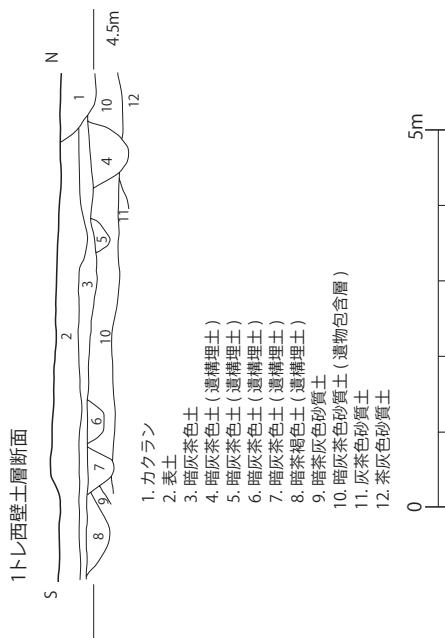
褐色土からは、4トレーナーにおいて7世紀代の須恵器が出土している。また褐色土自体に少量のブロック土が含まれていることから、自然堆積ではなく、整地など的人為的な堆積と考えられる。ただし、褐色土中からの遺物の出土がわずかなため、褐色土の形成が古代の7世紀代にまで遡るかどうかは明確ではない。府内の町屋に関連すると考えられる遺構も確認されたため、その町屋整備に関わる整地の際に、古い遺物が混入したとも考えられる。



第6図 周辺調査区位置図 (1/2000)



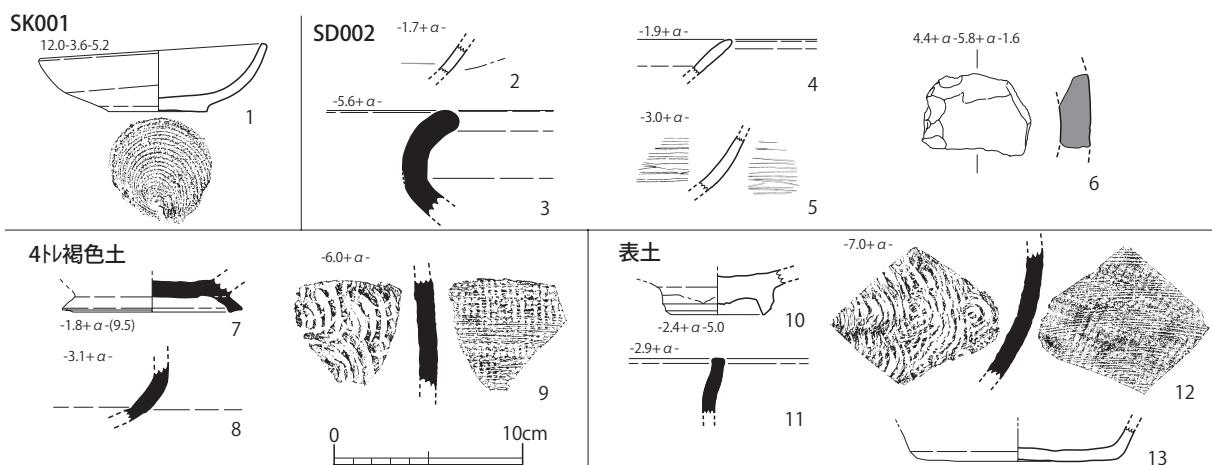
第7図 遺構全体図 (1/400)



第8図 1・2トレ土層図 (1/100)

2トレ南壁土層断面

褐色土は整地層などの自然堆積ではない遺物包含層で、4トレチでは7世紀代の須恵器が出土している。



第9図 出土遺物実測図 (1/4)

3. まとめ

周辺はこれまでの調査により戦国期に大友氏の府内の町屋が展開していたことがわかっており、今回検出した遺構もその町屋に関連する遺構と考えられる。ただ推定される街路からは調査区が離れており、柱穴などの建物に関する遺構も確認できなかったことから、町屋が建ち並ぶ状況ではなく、町屋の裏手にあたると考えられる。また褐色土の形成時期の問題もあり、周辺での調査によってより詳細な状況を明らかにしていく必要がある。(松浦憲治)

3 古国府遺跡群第16次調査

調査面積 30.6 m²

地域 A

調査期間 11.04.07

調査担当 長直信・松浦憲治

1. 調査に至る経緯・立地と環境・調査概要

古国府遺跡群第16次調査は、大字羽屋字七曹司に所在し、個人住宅の柱状改良に伴って実施した確認調査である。2011年4月7日に調査を実施した。調査面積は30.6 m²である。

古国府遺跡群は、大分川左岸の沖積平野に立地する。豊後國府推定地とされるが、奈良～平安時代の具体的な遺構の発見に乏しい。なお、調査地点は、7世紀末頃の大型掘立柱建物跡が検出されている羽屋・井戸遺跡の約50m東に位置しており、官衙関連遺構が展開する可能性のある地点である。開発対象地点に「L」字のトレーナーを設定し調査を行った。

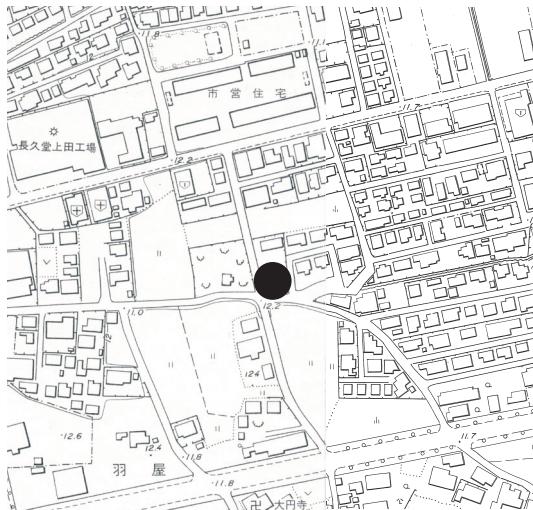
2. 調査概要

調査の結果、7世紀末から8世紀初頭頃の大型の柱穴及び、これに切られる柱穴列を検出した。

地表面より、0.5mの厚さで堆積するバラスを除去し、0.1～0.2mの厚さで堆積する水田層を除去すると、地山である黄灰色土を検出した。地表面より約0.8m下での検出となる。遺構密度は非常に低い。

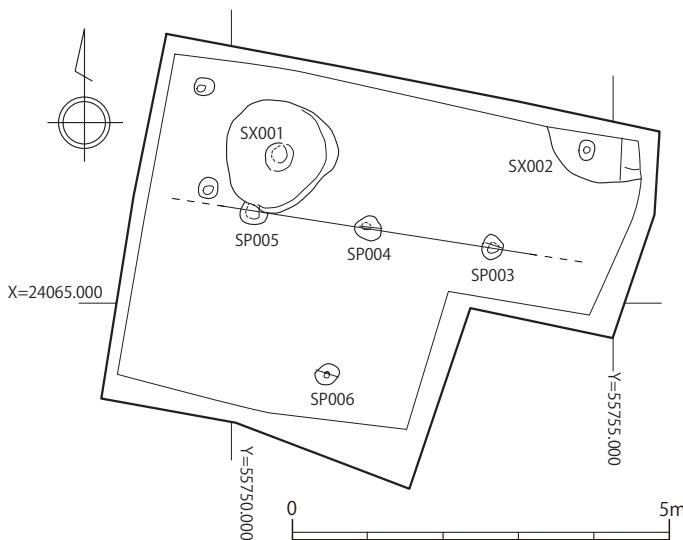
SX001：調査区北西隅で検出した掘方径1.4～1.5m、柱痕径0.35mの巨大な柱穴痕で、掘方の深度は0.2m、柱痕の深度は0.3mである。調査区内ではこの遺構に対応する柱穴は確認できないので、調査区外の北西方向に展開すると考えられる。

出土遺物：掘方より土師器片、須恵器甕・蓋片が出土した。1～5は須恵器である。1は蓋×坏身である。外面には丁寧な回転ヘラケズリ痕を残す。2はやや深手になるので、坏身として図示した。底部外面には、回転ヘラケズリ後、小刻みに手持ちヘラケズリを行ったような調整を残す。淡橙色に焼成されている。3は短頸壺片である。あまり肩の張らない器形で、肩部には蓋をして焼成した痕跡が残る。器壁は薄く、シャープに成型されている。4・5は

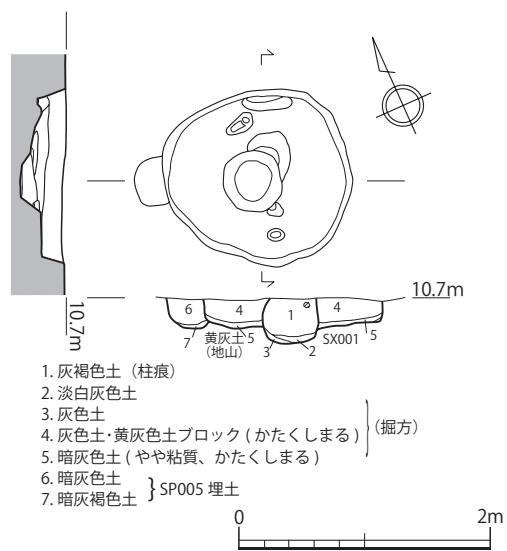


第10図 調査位置図 (1/5000)





第12図 遺構全体図 (1/100)



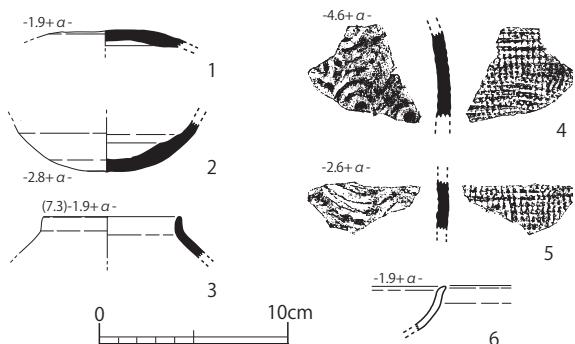
第13図 SX001 遺構平面図 (1/60)

甕片で内面に同心円文の残る当具痕を、外面には格子目タタキを施す。6は土師器の椀で口縁端部を強く外反気味にナデ調整を施し、端部を内側に面取りを行う形態のものである。手持ち成型であり、口縁部の属性から7世紀末～8世紀初頭頃に類例の多い遺物である。

その他の遺構：SX001に切られる柵状遺構の柱穴と考えられるSP003～SP005を検出した。東西方向の柱間は、1.5m、南北方向の柱間は、2.0mである。出土遺物はなく時期は不明であるが、7世紀後半以前の遺構と考えられる。東西方向の区画を示す遺構として注目される。

3.まとめと今後の課題

今回の調査では、7世紀末～8世紀初頭頃の大型の柱穴を検出した。調査地点に近接する羽屋・井戸遺跡で確認された大型掘立柱建物跡との関連性が想定され、極めて重要な発見である。また、羽屋・井戸遺跡周辺の北側や西側では安定地盤はみられなかったが、50m西にあたる本調査区で安定地盤が確認され遺構の面的な確認ができた。これまでの周辺の調査から調査地点周辺は島状に安定地盤が分布し、この部分に掘立柱建物跡などの遺構が分布するようであり、今後の開発においても綿密な確認調査を重ね遺跡全体の旧地形や性格を明らかにする必要がある。(長直信)



第14図 SX001 掘方出土遺物実測図 (1/4)



全景検出状況 (北より)



SX001 土層断面 (東より)

4 上野遺跡群第14次調査

調査面積 131.1 m²

地域 A

調査期間 10.07.26～10.07.30

調査担当 五十川雄也

1. 調査の経緯・立地と環境

上野遺跡群は大分川下流左岸、高崎山から大分川に向かって東西方向に派生する上野丘陵の東端に立地しており、古代の国府関連遺跡や古代寺院跡などが確認されている遺跡である。上野遺跡群第14次調査は、上野丘東に所在し、共同住宅建設に伴って実施した本調査である。大分県立芸術短期大学の南約120mに位置している。県の調査によって推定国司館と考えられている竜王畠遺跡（旧あけぼの学園跡地）の約100m南側であり、国府関連遺構が展開していると考えられる地点である。

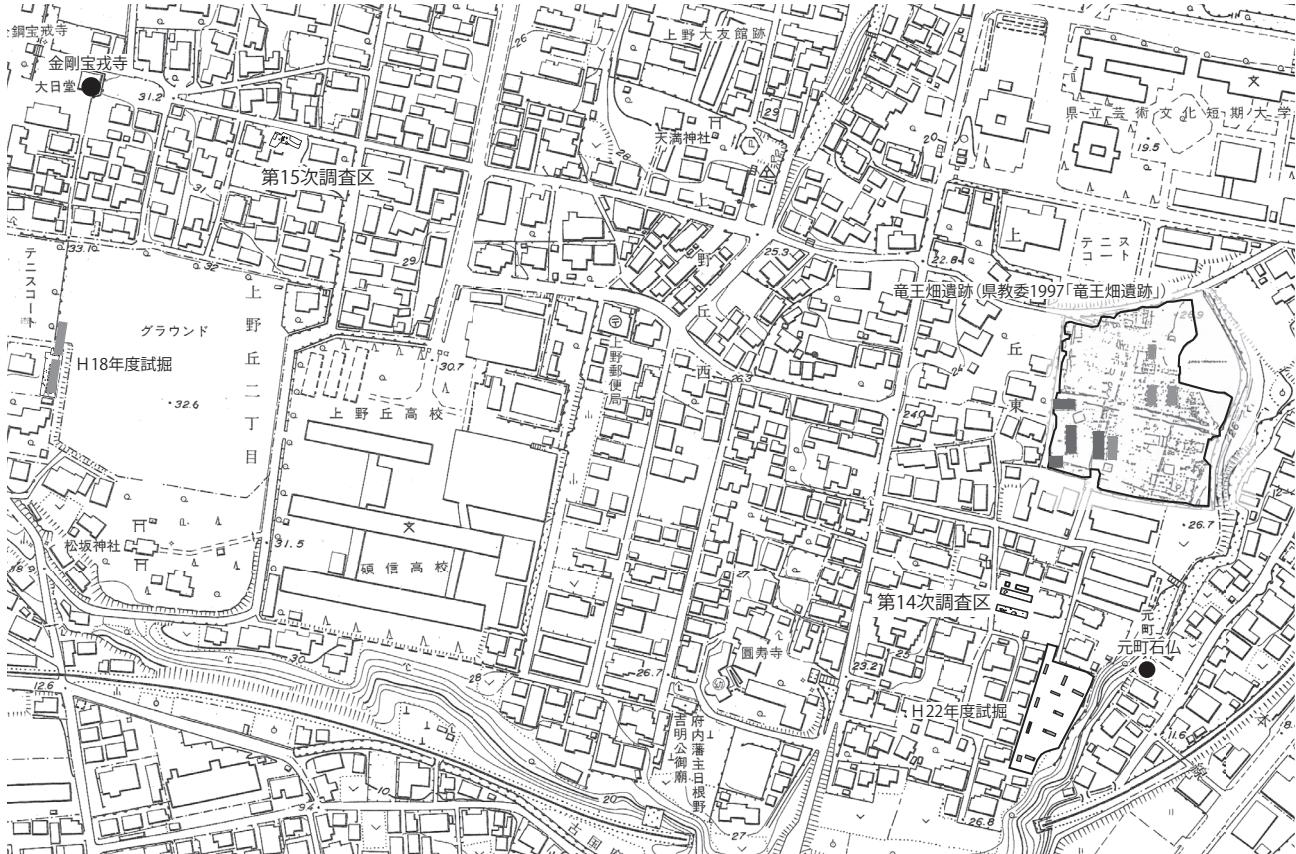
2. 調査の概要

調査は、共同住宅の基礎によって遺跡が破壊される部分について、1～4トレンチを設定し行った。現地表面下約0.5mまでは近現代の造成土及びアスファルトで、その下に黄褐色粘土の安定地盤層が存在する。遺構は黄褐色粘土層の上面で検出した。

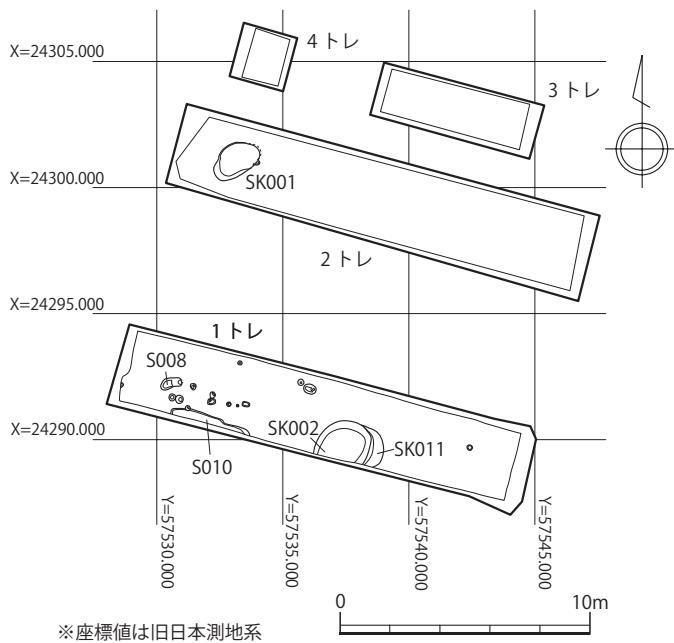
検出した主な遺構は、土坑及びピットである。

SK002は1トレンチで検出した直径約2.1m、深さ約0.3mの不整円形を呈する土坑で、SK011を切る。また一部調査区外にのびる。断面形状は皿形を呈し、埋土はブロック土を多く含む。埋土中から須恵器円面鏡の破片（第20図-15）や須恵器壺片などが出土しており、8世紀に比定される。

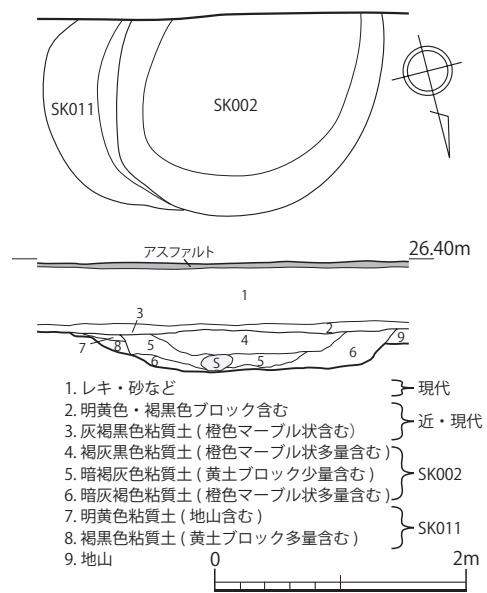
SK011は1トレンチで検出した土坑で、大部分がSK002によって切られ、一部調査区外にのびる。円形を呈する



第16図 周辺調査区位置図 (1/4000)



第17図 遺構全体図 (1/300)



第18図 SK002・011 遺構図 (1/60)

と思われる平面形状で、直径 1.5 m 以上、深さ約 0.3 m を測る。埋土はブロック土を多く含む。遺物は出土しなかったため詳細な時期は不明であるが、SK002 に切られることから、8 世紀以前の遺構である。

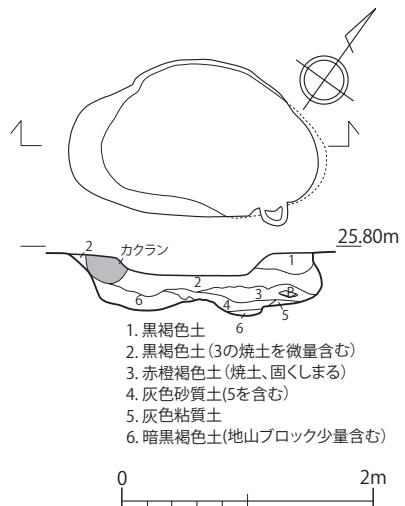
SK001 は 2 トレンチで検出した土坑で、楕円形を呈する。長径約 2.0 m、短径約 1.2 m、深さ約 0.5 m を測る。底面は平坦でなく凹凸が激しい。埋土に微量ではあるが焼土を含んでいる。埋土中から古墳時代後期の土師器甕が出土しているため、SK001 の時期も古墳時代後期に比定される。

【出土遺物】1～11 は 1 トレンチ検出時に出土した遺物である。1 は土師器壺 a 底部である。復元底径 6.0 cm、残存器高 1.3 cm を測る。2 は青磁の碗か皿の口縁部である。残存器高 1.9 cm を測る。3 は須恵器壺の底部である。復元底径 9.8 cm、残存器高 2.5 cm を測る。4 は黒色土器椀 A 類である。底部であるが高台部は欠損している。残存器高 1.4 cm を測る。5 は土師器壺蓋口縁部で、復元口径 18.6 cm、残存器高 2.0 cm を測る。6～8 は土師器壺口縁部で、ともに口縁部が強く外反し、端部が丸くおさまる。6 は残存器高 1.5 cm、7 は残存器高 2.8 cm、8 は復元口径 14.0 cm、残存器高 2.2 cm を測る。9・10 は土師器壺 c 底部である。9 は高台が遺存するが、10 は欠損している。9 は復元底径 7.0 cm、残存器高 1.2 cm、10 は残存器高 1.1 cm を測る。11 は土師器壺底部である。残存器高 1.0 cm を測る。

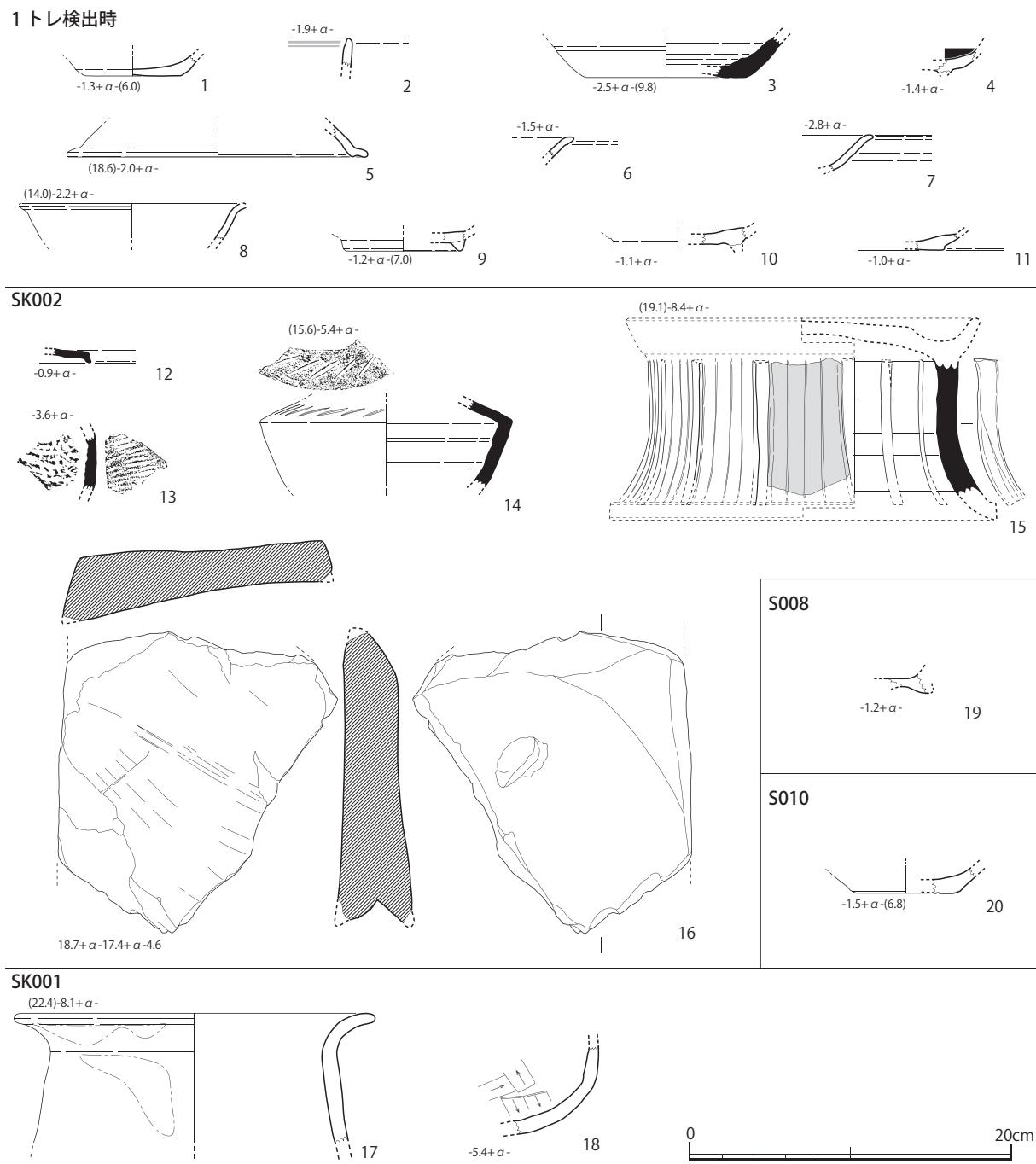
12～16 は SK002 から出土した。12～15 は須恵器である。12 は壺蓋口縁部で、残存器高 0.9 cm を測る。13 は甕胴部で、外面に格子目タタキ、内面に同心円状當て具痕が残る。残存器高 3.6 cm を測る。14 は壺の肩部から胴部で、肩部にヘラ書き文を施す。復元肩部径 15.6 cm、残存器高 5.4 cm を測る。15 は円面甕の体部である。2 つ以上の透孔を有する。復元胴部径 19.1 cm、残存器高 8.4 cm を測る。16 は砥石で、緑色片岩製である。欠損部は多いが、一部面をもつ。最大長 18.7 cm、最大幅 17.4 cm、最大厚 4.6 cm を測る。

17・18 は SK001 出土の土師器甕である。17 は口縁部で、復元口径 22.4 cm、残存器高 8.1 cm を測る。18 は底部で、内面は不定方向のヘラケズリを施す。残存器高 5.4 cm を測る。

19 は S008 から出土した土師器壺の底部で、残存器高 1.2 cm を測る。20 は S010 から出土した土師器壺 a の底部で、復元底径 6.8 cm、残存器高 1.5 cm を測る。



第19図 SK001 遺構図 (1/60)



第20図 出土遺物実測図 (1/4)

3.まとめ

調査では、土坑を検出し、須恵器円面硯や、古墳時代の土師器などが出土した。古墳時代については、県調査による竜王畠遺跡で古墳時代の堅穴建物を確認されていることから、集落が展開していた可能性もあるが、調査区の狭小さと検出遺構の少なさから不明な点が多い。古代については、SK002 から須恵器円面硯片が出土した。調査区から北 100 m の地点で行われた県の竜王畠遺跡の調査では、8世紀を中心として7世紀代から9世紀までの掘立柱建物跡群が確認されている。これは整然とした並びであり、また規格制を強くもった建物の並びであること、出土遺物が円面硯や須恵器壺の転用硯などが出土していること、7世紀から9世紀と比較的長期間にわたる建物の建て替えが行われていることなどから、国司館などの公的施設や、それに関連した施設であると考えられている。今回の調査区も、調査区の狭小さのため遺構の広がりについては不明な点が多くあるが、竜王畠遺跡と同じく須恵器円面硯が出土したことから、公的施設が存在した可能性があり、竜王畠遺跡との関連からこの時期の遺跡の展開について考える必要があろう。(松浦)

5 上野遺跡群第15次調査

調査面積 83.7 m²

地域 A

1. 調査に至る経緯・立地と環境

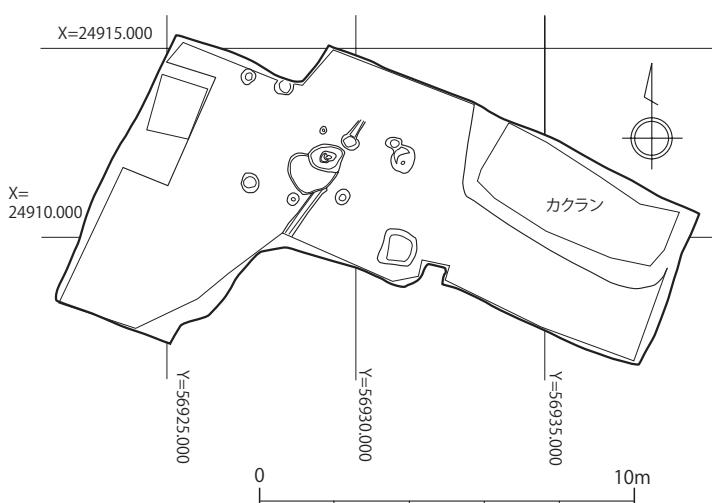
上野遺跡群は高崎山から大分川に向かって派生する丘陵東側に立地しており、古代の国府関連遺跡や古代寺院跡などが確認されている遺跡である。上野遺跡群第15次調査は、上野ヶ丘2丁目に所在し、個人住宅建設に伴って実施した確認調査である。調査地点は、金剛宝戒寺の西側約70mの地点であり、また8世紀代の古代寺院である上野廃寺の南東約100mの地点であるため、古代寺院関連遺構が展開する可能性がある地点である。開発対象地に「L」字状のトレーンチを設定して調査を行った。

2. 調査概要

検出した遺構は、ピット、土坑及びカクランである。ピット、土坑は遺物が出土しなかったため、時期が不明である。調査区北東端のカクランからコンクリート片などとともに中世期～近世期に比定される瓦片が多く出土した。中でも多数の平瓦、丸瓦が出土しているが、すべて欠損が激しく、完形品は遺存していなかった。ここでは図化可能な軒平瓦、軒丸瓦を挙げている。1～3は軒平瓦である。1は瓦当部のみである。瓦当に唐草文を有する。2は瓦当に唐草文を有する。凹面にコビキA痕跡が見られる。3は瓦当に牡丹唐草文を有する。18世紀後半代に帰属する軒平瓦である。4～6は軒丸瓦で、ともに左巻き三巴文を中心に珠文が配される。4は瓦当部のみである。珠文数18個か。5は珠文数20個か。内面に布目痕、外面の一部に縄目痕が残る。6は瓦当部のみである。珠文数20個か。

3.まとめ

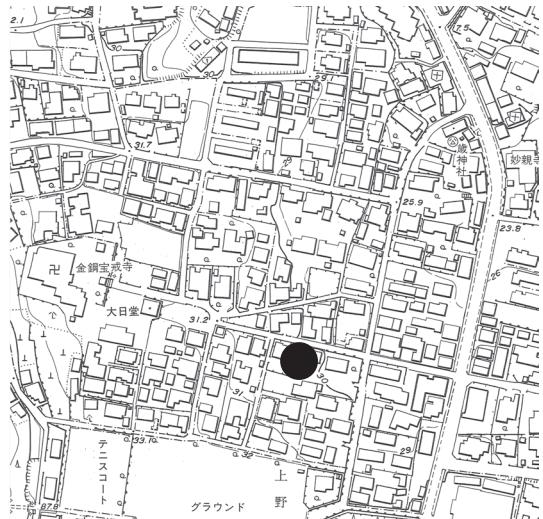
今回の調査では、良好な遺構は検出できず、当初想定していた古代に関する遺構・遺物も確認できなかったが、カクランから中世期に遡る軒平・軒丸瓦が出土した。西側約70mの地点に所在する金剛宝戒寺は、創建は8世紀であるものの当地に移転してきたのが14世紀に入ってからといわれている。調査地周辺で中世期～近世期に瓦葺きの建築物があるならば、位置的・時期的に考えて金剛宝戒寺に関わるものである可能性が高い。その場合、中近世期と現在とで寺域の範囲に変化があり、より広範囲にまで寺域が及んでいたのではないかと考えられる。(松浦)



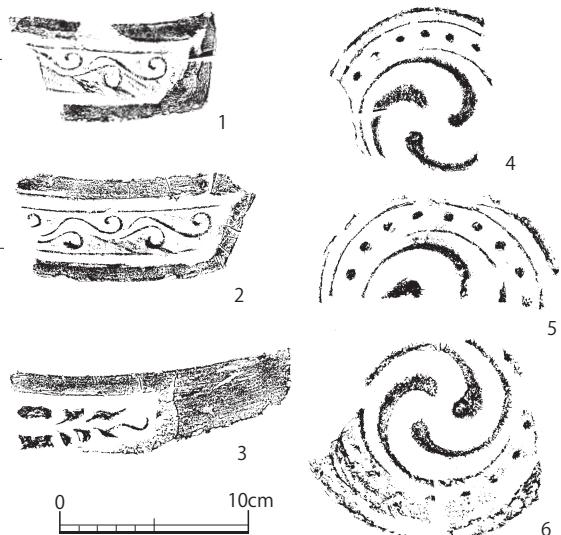
第22図 遺構全体図 (1/200)

調査期間 12.01.17～12.01.18

調査担当 佐藤道文・奥村義貴・小野綾夏



第21図 調査位置図 (1/5000)



第23図 カクラン出土遺物実測図 (1/4)

6 羽田遺跡第8-2次調査 SK255出土鑄造関連資料

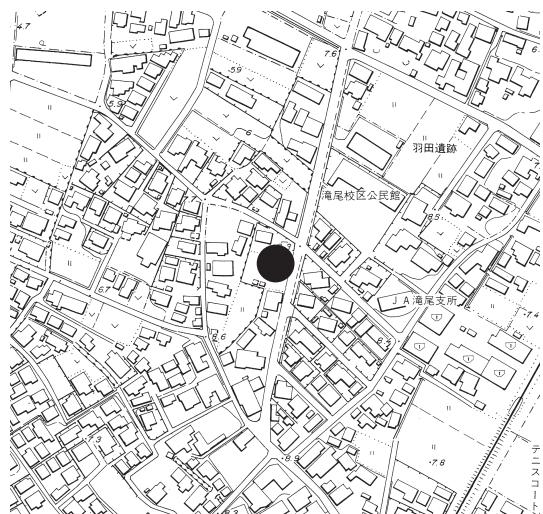
調査面積 801.5 m²

地域 A

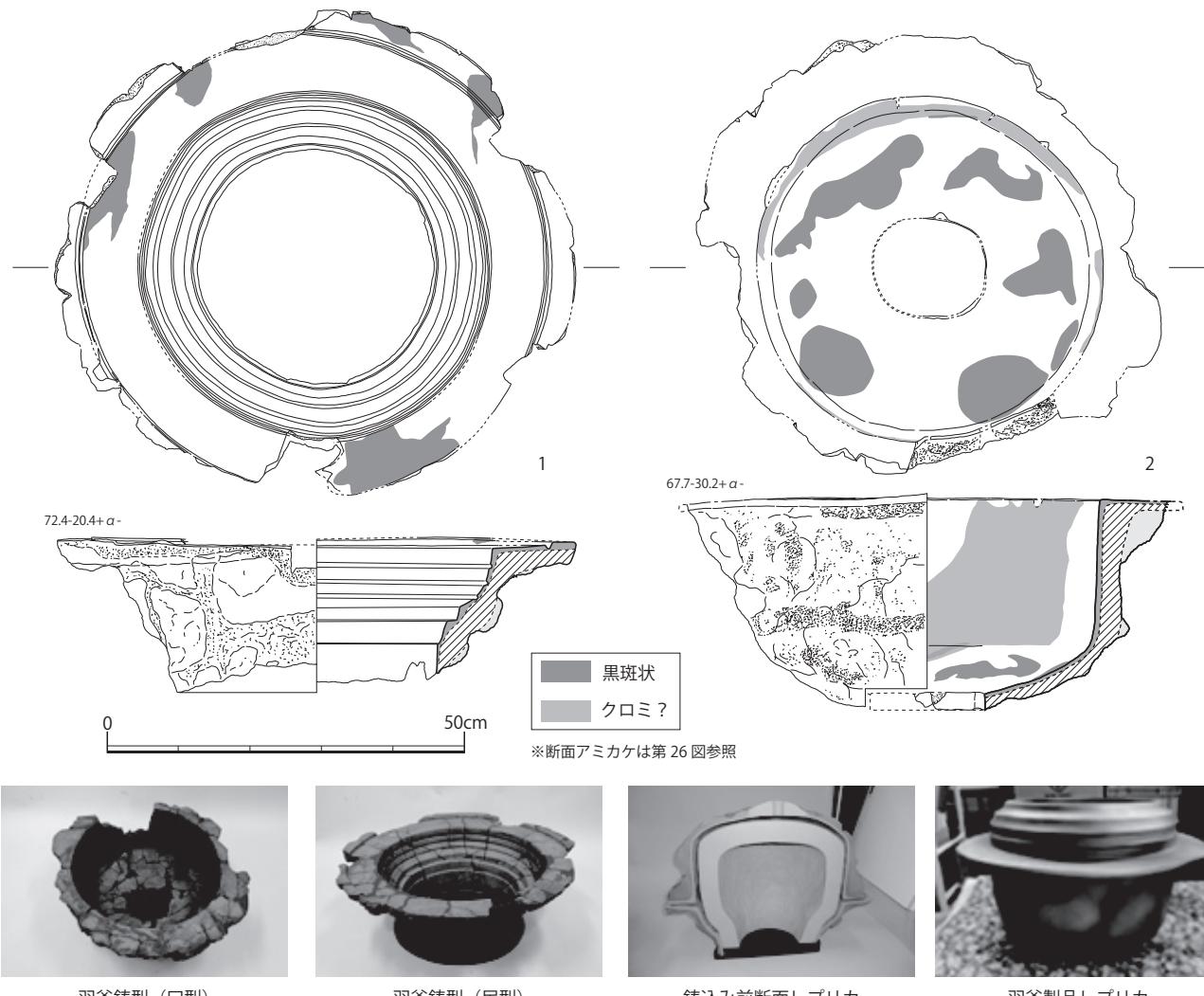
調査期間 10.10.14～11.03.10

調査担当 五十川雄也

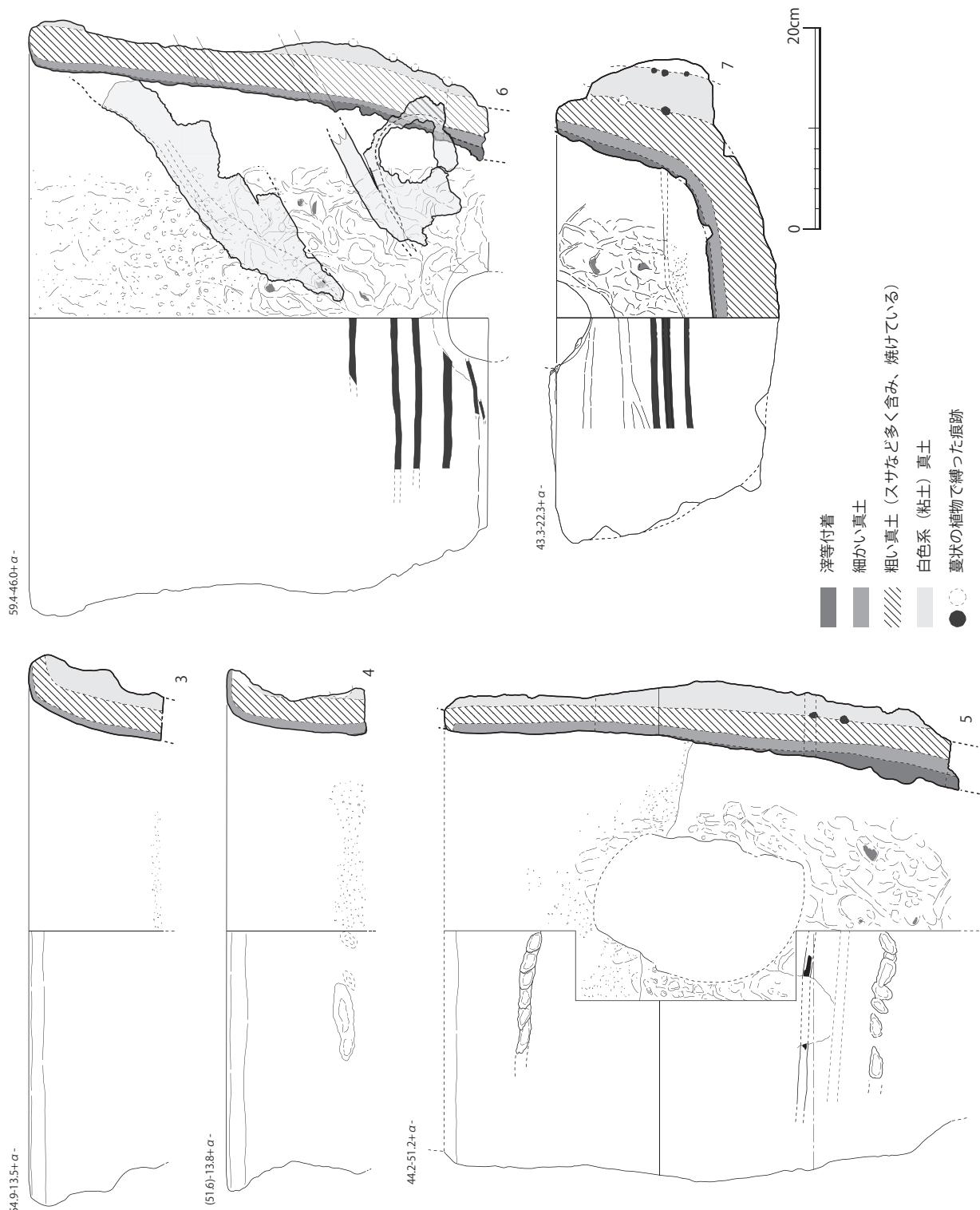
羽田遺跡第8-2次調査は平成23年度に本報告を刊行した(2012『羽田遺跡3』)。ただSK255(12世紀末)の出土資料の一部(第25～27図1～14)は保存処理等で、本報告に掲載できなかったため、追加資料として報告する。溶解炉の分析等は九州テクノリサーチに委託し行った(別稿記載)。1・2は羽釜鋳型である。1は口型で真土は縦方向に大きく3層確認できる。2は尻型で、底部に橢円形状の穿孔がある。1・2の鋳型からできる製品の法量は羽を入れた径が65cm、口縁部径39cm、器高38cmである。3～7は、溶解炉(甑炉)片である。3・4は口縁部付近と考えられるが、径が違うため、別固体と考えられる。4・5は外面に縄目の痕跡が残る。5(第4表HAD-1・3該当)は胴部で、6とは別固体と考えられる。胴部中央付近に送風管挿入口と想定される痕跡が残る。6(第4表HAD-2・4該当)は送風管と胴部が接合する状態である。送風管の挿入角度は約30°である。送風管は複数回の使用が推定される。6の下部に半円状に穿孔が確認できる。7は溶解炉底部と考えられる。上部に半円の穿孔がある。内底から約5cm上方で、



第24図 調査位置図 (1/5000)

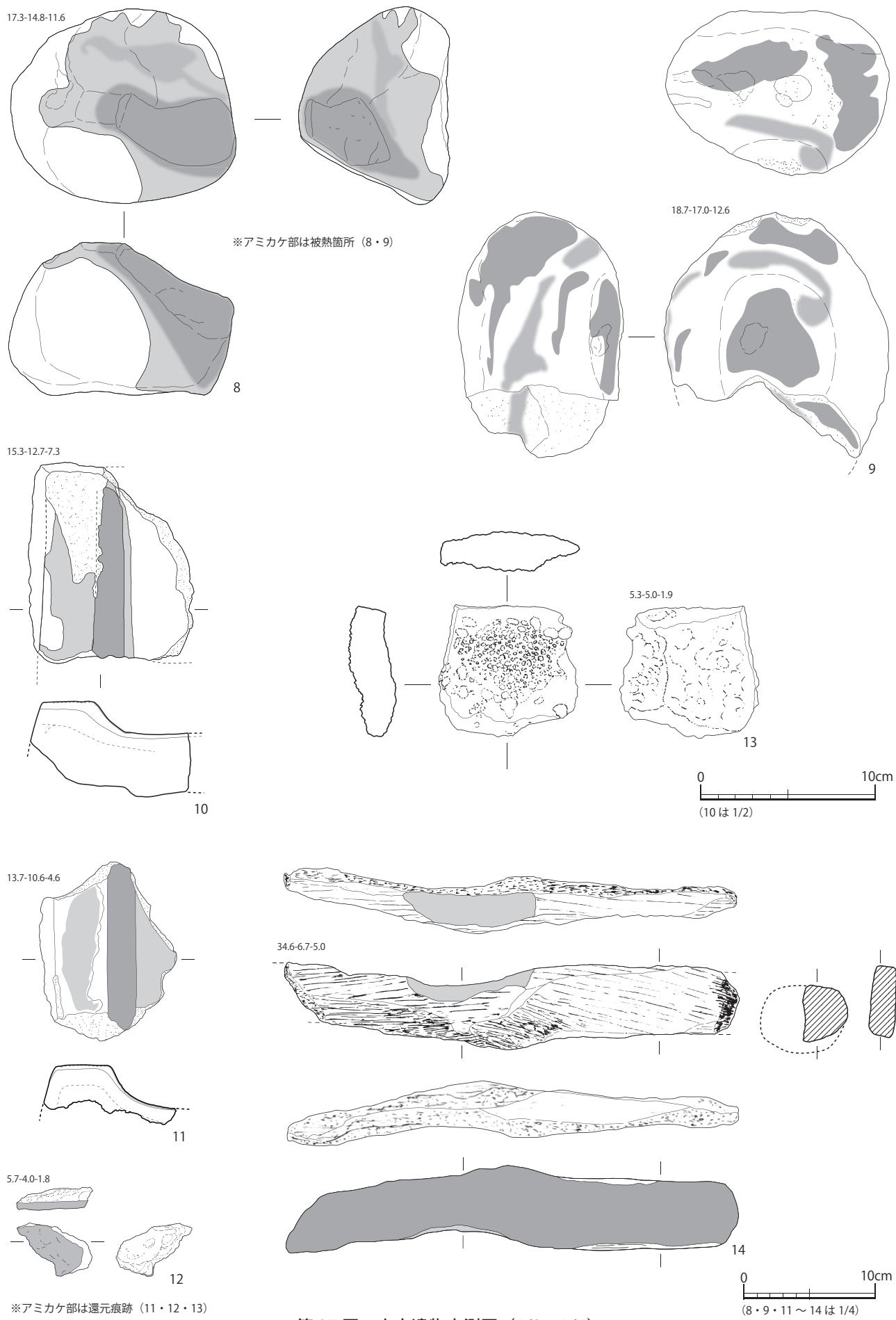


第25図 鑄型実測図 (1/10) 及び復元・レプリカ写真



第26図 溶解炉実測図 (1/6)

内面に付着している津が途切れるような箇所が内面をほぼ同じ高さで一周している。7と5・6との接合はできないが、無関係ではないと思われる。また3・4と5・6も接合はできなかったが、無関係ではないと思われる。これらからすると溶解炉は最低2固体あったと推定される。8・9は部分的に焼けている礫で、SK255の最上部で出土した。他に数個出土している。10～12（12は第4表 HAD-7該当）は鋳型で、何の製品かは不明である。掲載の他にコンテナ1箱分出土している。13は（楕型）津片である（別稿分析のHAD-6該当）。14は木製品で、復元径は5cm前後である。中央やや横に凹んでいる箇所がある。最後に第25図写真にあるように、出土鋳型を参考にした鋳込み直前の断面レプリカ（1/1）とこの羽釜鋳型でできたであろう羽釜製品のレプリカ（1/1）を作製した。（五十川）



第27図 出土遺物実測図 (1/2・1/4)

羽田遺跡出土鋳造関連遺物の金属学的調査

九州テクノリサーチ・TACセンター

大澤 正己

I 概要

羽田遺跡から出土した12世紀末に比定される鋳造関連遺物（炉壁3点、送風管1点、椀形滓1点、不明鋳型1点）の分析調査を行った。（1）溶解炉・炉材や鋳型材は大分川下流域に分布する表層土（安山岩由来の土砂）と成分組成が一致する。（2）炉壁ガラスに残留したねずみ鉄粒の非金属介在物は、砂鉄特有元素のチタン（Ti）やバナジウム（V）を含む。羽釜原料鉄は国東半島側からの搬入も一つの候補。例えば由井ヶ迫製鉄遺跡は12世紀後半から13世紀の操業である。砂鉄原料で出土鉄塊からチタン酸化物系鉱物相も確認している^(注1)。（3）粗銅溶解精錬過程で生じた可能性をもつ椀形滓が存在した。微小メタルを残存し、Cu-Fe-Sn組成、1.9%Cu含有メタルの検出、化学組成分析で0.03%Cu組成が得られた。鍛冶滓の銅（Cu）は<0.01%が実績となる。この含銅滓は磬鉄型が銅製品であったことを裏付ける可能性をもつ。

II 経緯

羽田遺跡は大分市羽田に所在して、大分川河口付近右岸の狭長な沖積地上に立地する。鋳造関連遺物は、羽田遺跡8-2次調査区土坑SK255で出土した。出土遺物は羽釜鋳型、磬鉄型、溶解炉、送風管、不明鋳型、椀形滓1点などである。これら出土遺物を通して当時の鋳造技術の基礎データを把握する目的から分析調査の運びとなった。

III 調査方法

1. 供試材 第4表に示す。炉壁3点、送風管1点、椀形滓1点、不明鋳型1点である。

2. 調査項目

- (1) 肉眼観察：遺物の外観観察を行い、それをもとに試料採取位置を決定する。（金属鉄遺存個所優先）
- (2) マクロ組織（Macro Structure）：顕微鏡埋込み試料の断面全体像を投影機の5倍、10倍、もしくは20倍で撮影する。低倍率の観察は、組織の分布状態、形状、大きさなど顕微鏡検査によるよりも広範囲にわたっての情報が得られる利点がある。
- (3) 顕微鏡組織（Microscopic Structure）：供試材は、目的とする位置から切り出したものをベークライト樹脂に埋込み、エメリー研磨紙の#150、#240、#320、#600、#1000と順を追って研磨し、最後は被研面をダイヤモンド粒子の3μmと1μmで仕上げて光学顕微鏡観察を行う。なお、金属鉄のパーライトとフェライト結晶粒は、ナイタル（5%硝酸アルコール溶液）で腐食（Etching）している。不純物の有無、研磨面の組織観察等で、製品製造方法の推察、素材の類推などミクロ的な調査を行う。
- (4) ビックアース断面硬度：鉄滓の鉱物組成と、金属鉄の組織同定を目的として、ビックアース断面硬度計（Vickers Hardness Tester）を用いて硬さの測定を行う。試験は鏡面研磨した試料に136°の頂角をもったダイヤモンドを押し込み、その時に生じた窪みの面積をもって、その荷重を除した商を硬度値としている。硬度値から炭素量などの含有量、製造手法などを探る。試料は顕微鏡用を併用する。
- (5) EPMA（Electron Probe Micro Analyzer）調査：分析の原理は、真空中で試料面（顕微鏡試料併用）に電子線を照射し、発生する特性X線を分光後に画像化し、定性的な結果を得る。更に標準試料をX線強度との対比から元素定量値をコンピューター処理して、データ解析を行う方法である。化学分析を行えない微量試料や鉱物組成の微

符号	出土位置	遺物名称	推定年代	計測値		調査項目					
				大きさ(mm)	重量(g)	マクロ組織	顕微鏡組織	ビックアース断面硬度	X線回折	EPMA	化学分析
HAD-1	SK255	溶解炉(中段)	12世紀末	214×122×50	830.0	○	○	○			
HAD-2		溶解炉(下段)		183×118×115	741.0	○	○	○		○	○
HAD-3		中型溶解炉(中段?)		175×98×80	630.0	○	○	○		○	○
HAD-4		送風管		大 221.2							
HAD-6		椀形滓破片		105×60×	小 44.9	○	○	○		○	○
HAD-7		不明鋳型		53×50×17	84.7	○	○	○		○	○
				62×33×15	23.6	○	○			○	

第4表 供試材の履歴と調査項目

小域の組織同定が可能である。

(6) 化学組成分析：供試材の分析は、次の方法で実施する。

全鉄分 (Total Fe)、全金属鉄 (Metallic Fe)、酸化第一鉄 (FeO)：容量法。炭素 (C)、硫黄 (S)：燃焼容量法、燃焼赤外吸収法。二酸化珪素 (SiO₂)、酸化アルミニウム (Al₂O₃)、酸化カルシウム (CaO)、酸化マグネシウム (MgO)、酸化カリウム (K₂O)、酸化ナトリウム (Na₂O)、酸化マンガン (MnO)、二酸化チタン (TiO₂)、酸化クロム (Cr₂O₃)、五酸化磷 (P₂O₅)、バナジウム (V)：ICP (Inductively Coupled Plasma Emision Spectrometer) 法。誘導結合プラズマ発光分光分析。

(7) 耐火度：耐火度の加熱に耐える温度とは、溶融現象が進行の途上で軟化変形を起こす状態の温度で表示することを定め、これを耐火度と呼んでいる。胎土をゼーゲルコーンという三角錐の試験片に作り、1分間当たり 10°C の速度で 1000°C まで温度上昇させ、それ以降は 4°C に昇温速度をおとし、試験片が荷重なしに自重だけで軟化し崩れる温度を示している。

IV 調査結果

1. HAD-1 炉壁

(1) 肉眼観察：上下に長い炉壁片である。最大厚み 5.0 cm を測る。上側面のみは接合面で生きるが、他の左右と下側面は破面となる。溶解炉中段あたりの部位だろう。内面は溶融ガラス化し、比較的滑面に発泡と木炭痕を留める。色調は灰色から淡褐色で下部に酸化土砂を付着する。胎土は白色粘土でスサの混和があり、炉壁外面は黒く炭化する。

(2) マクロ組織：第 34 図に示す。断面表層（左）は溶融ガラスの発泡から多孔質を呈するが、内部側へ寄ると泡は消える。鋳込み時の溶融金属の残留は認められない。

(3) 顕微鏡組織：第 28 図の④～⑨に示す。④はガラス中に存在した 40 μm 程度の鉄化鉄粒である。酸化されて炭素 (C) 量を推定する手立ては絶たれた。⑤は溶融ガラスと発泡状況を示す。ガラスは非晶質珪酸塩で SiO₂、Al₂O₃、CaO、MgO、K₂O、Na₂O などの集合体からなる。⑥中央の白色粒子は炉材粘土に混入した砂鉄である。砂鉄粒子周縁に溶融反応痕が見られないので、高温上昇の位置でないことが窺われる。なお、炉材は大分県であれば安山岩由来の土砂であろう。⑦⑧は炉材胎土で、素地を構成する主要鉱物のセリサイト (sericite) である。石英・長石類の加熱変化は見られない。900°C 以下の温度が推定されて炉壁部位は中段推定で大過なかろう。

(4) ピッカース断面硬度：第 28 図⑨にガラス地の硬度測定圧痕を示す。値は 583Hv、595Hv が得られた。ガラスの文献硬度値は 639 ～ 884Hv が提示されている^(注2)。下限を切るがガラスの同定でよいと考える。

2. HDD-2 炉壁

(1) 肉眼観察：炉底部立上りの炉壁片で、最大厚みは 11.5 cm を測る。すべて側面が破面となる。ただし底部側の一部に平坦面を有し、ここが生きた面とすると接合箇所に当ろう。内面は滑面をもちつつも凹凸を有し、多くの木炭の噛み込みが認められる。色調は灰褐色から底部へかけては赤味を帯びてくる。また底部寄りに茶褐色の鉄酸化物が多めに固着する。胎土は HAD-1 に準じる。

(2) マクロ組織：第 34 図に示す。発泡ガラスに接して南瓜種子状の金属鉄粒が残留する。鉄は外周を鉄化されつも中核部を不整三角形状に残す。

(3) 顕微鏡組織：第 29 図の④～⑩に示す。⑤～⑧は金属鉄粒である。⑤は腐食剤で腐食せず、研磨のままの組織である。黒灰色の片状黒鉛 (flake graphite) がバラ状に析出したねずみ鉄 (gray cast iron) に分類される。

符号	遺物名称	全 鉄分 (Total Fe)	金属鉄 (Metallic Fe)	酸化 第1鉄 (FeO)	酸化 第2鉄 (Fe ₂ O ₃)	二酸 化 珪素 (SiO ₂)	酸化 アルミ ニウム (Al ₂ O ₃)	酸化 カル シウム (CaO)	酸化 マグ ネシウム (MgO)	酸化 カリウム (K ₂ O)	酸化 ナトリウム (Na ₂ O)	酸化 マント リウム (MnO)	二酸 化 チタン (TiO ₂)	酸化 クロム (Cr ₂ O ₃)	硫黄 (S)	五酸 化磷 (P ₂ O ₅)	炭素 (C)	バナ ジウ ム (V)	銅 (Cu)	二酸化 ジルコ ニウム (ZrO ₂)	耐 火 度		造 造 成 分	
																				Total Fe		Total Fe		
HAD-2	溶解炉(下段)	4.11	0.04	1.58	4.06	55.81	18.58	2.15	1.78	1.54	2.03	0.13	0.92	0.03	0.014	0.30	1.33	0.01	<0.01	0.02	1100	81.89	19.925	0.224
HAD-3	中型溶解炉	4.63	0.10	2.66	3.52	56.70	19.32	2.26	1.94	1.62	2.07	0.09	1.00	0.03	0.011	0.46	0.85	0.02	0.01	0.02	1100	83.91	18.123	0.216
HAD-4	送風管	3.79	0.11	0.50	4.71	58.73	21.94	1.17	0.82	1.45	1.60	0.05	0.88	0.02	0.009	0.44	0.11	0.01	0.01	0.02	1300	85.71	22.615	0.232
HAD-6	椀形滓破片	52.45	0.18	60.93	7.02	19.98	6.46	1.50	0.78	0.92	0.75	0.08	0.37	0.04	0.013	0.27	0.07	0.01	0.03	0.01	—	30.39	0.579	0.007
国東半島火山岩 由来表層土 ^(注3)	—	—	2.42	4.82	59.26	17.36	5.75	2.58	1.48	3.33	0.06	0.94	—	—	—	—	1.43	—	—	—	—	89.76	—	—

第 5 表 供試材の組成

該品は溶解炉内で溶融ガラスに包まれて、ゆっくりと凝固冷却速度はとられて鉄中の炭素 (C) は黒鉛になっている。⑥は⑤と同一視野を 5 %ナイタル (硝酸アルコール液) により腐食 (etch) すると、基地の組織が明らかに現われた。殆んどが層状組織のパーライト (pearlite) であり、亜共晶組成ねずみ鉄 (< 4.23%C) に分類される。⑦はバラ状黒鉛部の拡大、⑧は [P] 偏析で点状相である Fe-Fe₃C-Fe₃P の三元系共晶のステダイト (steadite) の存在を示した。⑨は溶解炉壁のガラス、⑩は胎土側の粘土鉱物セリサイトの大部分が加熱変化から非晶質化したところを提示した。

(4) ビックアース断面硬度：第 29 図の④に 4 点の硬度測定の圧痕を示す。まず写真右上方のバラ状黒鉛は 107Hv と軟質値が得られた。次に左下方に黒色層状パーライト部は 2 点の測定値で 217Hv、189Hv である。ラミラー (lamellar) 間隔が粗であり、妥当な硬さであろう。最後に左下隅に [P] 偏析の点状相であるステダイト (steadite) は 1005Hv という超硬質であった。それぞれに組織に対応した硬度値と評価できる。

(5) EPMA 調査：顕微鏡観察の倍率では捉え難かった微細な鉄中非金属介在物 (non-metallic inclusion) について述べる。第 35 図の反射電子像 (COMP) に示した 5 × 7 μm の淡黄褐色夾雜物である。製鉄原料脈石や還元剤 (木炭)、炉材屑などで形成されていよう。人間の DNA (細胞の遺伝子) に匹敵し、鉄の製造履歴を知る上での不可欠の情報源となる物質でもある。言葉を変えて非金属介在物を説明すると、鉄鋼中に介在する固形体の非金属性不純物、つまり鉄やマンガン、珪素および燐、硫黄などの合金元素の酸化物、硫化物、珪酸塩などを総称している。本稿のねずみ鉄粒にみられる非金属介在物は硫化物である。硫化物には硫化鉄 (FeS) と硫化マンガン (MnS) が存在する。

第 35 図の反射電子像 (COMP) にみられる分析点 11、12 の介在物は、特性 X 線像では白色輝点が硫黄 (S) に強く集中する。定量分析値は 11 で 45.9%Fe-37.2%S-4.3%Ti 組成から含 Ti の硫化鉄 (FeS) が同定される。これを更に鉱物学的に表現すれば磁硫鉄鉱 (Pyrrhotite : Fe_{1-x}S) となる。砂鉄特有元素のチタン (Ti) を含む。同一非金属介在物で色調の違いから 2 相に分かれている、分析点 12 になると 19.3%Mn-36.2%S-3.4%Ti-6.2%V 組成となる。分析値の Total が 66.7% と悪いが硫黄 (S) の 36.2% から硫化マンガン (MnS) で砂鉄特有元素の 3.4%Ti-6.2%V 含みと発言できる。鉱物学的にはアラバンダイト (alabandite : (Mn · Fe) S) が硫黄の値から判定できる。純粋のアラバンダイトは 63.1%Mn-36.9%S である。

なお、第 35 図の反射電子像 (COMP) には微細な 1 μm 前後の非金属介在物が点在する。分析点 13 は 8.9%Mn-15.7%Fe-10.4%S-30.9%Ti-9.3%V-1.1%P-15.2%O 組成となる。多数相の混在した解釈の難しいものである。相の分析としては採用できないが、鉄素材に含まれる微量元素を知るには有用で、砂鉄起源のねずみ鉄粒の発言は可能と考える。最後に分析点 14 は [P] 偏析の点状相である。特性 X 線像は P に白色輝点が顕著に集中し、定量分析値は 88.8%Fe-14.3%P 組成となる。この点状相は顕微鏡組織の項ではステダイトとしたが、こちらは鉱物学的には燐化鉄 (Fe₃P : schreiber site) の組成で整理できる。

(6) 化学組成分析：炉壁胎土の分析結果を第 5 表に示す。溶解炉への炉材粘土は軟化点が高くなければならない。アルミナ (Al₂O₃) 質の多いものが耐火性に優れた性状となる。該品の酸化アルミニウム (Al₂O₃) は 18.58% である。古代の耐火物としては、一般的な数値である。また、荷重軟化点を配慮すると、アルカリ類や塩基性成分、酸化鉄など不純物があるとガラス質を造りやすくする。低値が望ましい。この様な観点から分析値を眺めると、2.15%CaO、1.78%MgO など塩基性成分は特別高くはない。またアルカリ類は、1.54%K₂O、2.03%Na₂O₃ も特別問題視する程ではない。しかし酸化鉄 (Fe₂O₃) は 4.06% で若干高め傾向にある。二酸化珪素 (SiO₂) は 55.81% である。以上の分析値は Table2 の参考値に掲げた国東半島の火山岩土砂に近似する^(注3)。在地賦存粘土の採用の可能性が高い。大分川下流域に分布する表層土であることを指摘しておきたい。

(7) 耐火度：第 5 表に示す。1100°C の耐火度であった。Al₂O₃ が 18.6% の粘土である。妥当な値であろう。

3. HAD-3 炉壁

(1) 肉眼観察：平面が台形状で横長に拡がり、輪重みが想定される炉壁片である。厚みが 8.0 cm となる。HAD-1、2 炉壁に比べてやや内径が狭まる。中型溶解炉であろうか。4 面が破面で、下方の一部に下段への接合面となる平坦部を有する。内面の溶融ガラスは滑性で気泡と木炭の囁み込みが見られる。色調は灰褐色で半光沢を呈する。外面胎土は HAD-1、2 に準ずるもので、スサの混和も認められた。

(2) マクロ組織：第 34 図に示す。炉壁内面の溶融ガラスである。気泡発生以外には、晶出鉱物相は見当らない。

溶融金属が鉄か銅かの判別する手立ては絶たれた。

(3) 顕微鏡組織：第30図の④～⑩に示す。④⑤は何の変哲もない非晶質珪酸塩であり、ガラス($\text{SiO}_2+\text{Al}_2\text{O}_3+\text{CaO}+\text{MgO}+\text{K}_2\text{O}+\text{Na}_2\text{O}_3$)である。⑦⑧は炉壁胎土中に混入した砂鉄(magnetite: $\text{FeO} \cdot \text{Fe}_2\text{O}_3$)が還元されたフェライト(ferrite: 純鉄、 α 鉄)である。ただし時効硬化でナイタル腐食剤を受付けず、フェライトの確認は取れていなかった。当炉壁は砂鉄の還元できる温度まで上昇しており、送風管装着近傍の部位であろう。⑨⑩は米粒ほどの軽石状鉱物である。特別情報が採れる対象物ではなかった。

(4) ビッカース断面硬度：第30図の④はガラス地の圧痕である。硬度値は610Hv、615Hvが得られた。ガラスの文献硬度値の639～884Hvの下限を僅かに切るが、かなりの接近である。次に⑦は砂鉄が還元されたフェライトの可能性をもつ。明白な鉄粒は硬度測定の圧痕である。金属組織確認の腐食(etch)を施したが変化なく、硬度値は251Hvと硬質値を出した。フェライトであれば80Hv前後であろう。酸化鉄である。

(5) EPMA調査：第36図の反射電子像(COMP)は、ガラス地に微小鉄粒の分析結果を示す。特性X線像はガラス地(Si+Al+Ca)にFeの白色輝点が左右に2点集中する。分析点12のガラス地の定量分析値は60% SiO_2 -21.0% Al_2O_3 -3.5% CaO -1.8% MgO -1.9% K_2O -1.9% Na_2O -4.57%Fe組成が得られた。非晶質珪酸塩のガラス(glass)である。次に分析点7、8の定量分析値は94.5%Fe-3.2%P-95.0%Fe-3.4%P組成である。両方共に燐固溶の鉄と同定される。鉄はフェライトであろう。当炉壁が鋳造金属が鉄か銅かの判定はつけ難い。

(6) 化学組成分析：第5表に示す。二酸化珪素(SiO_2)が56.7%に対して、塩基性成分($\text{CaO}+\text{MgO}$)が4.2%、アルカリ($\text{K}_2\text{O}+\text{Na}_2\text{O}$)3.69%、アルミナ(Al_2O_3)19.32%など前述HAD-2炉壁胎土と殆んど差異のない成分である。また国東半島火山岩由来の表層土とも近似する。大分川下流域分布の表層土に位置づけられる。

(7) 耐火度：第5表に示す。1100°Cである。前述HAD-2炉壁と同等であった。成分系が同じであれば当然の帰属である。

4. HAD-4 送風管

(1) 肉眼観察：約6.5cm口径の送風管先端よりの破片である。穿孔部内面とガラス化表面は生きている。表面は黒色ガラス質に溶融し、酸化雰囲気からの淡紅色の発色面にガス抜け孔が点在する。側面の4面が破面。胎土は白色粘土ヘスサ混和が認められる。内面粘土の被熱部分は酸化されて赤味を帯びる。

(2) マクロ組織：第34図に示す。断面は気孔を発した黒色ガラス地に微小金属鉄粒が幾つか点在するが、5倍の低倍率では捉えきれない。鉄溶解炉に伴う送風管とする。

(3) 顕微鏡組織：第31図の④～⑩は溶融ガラス地に晶出した鉄粒を示す。鉄粒は溶融ガラスの表層側へ晶出する。鉄粒の炭素形態は、④～⑧はパーライト(pearlite)、⑦はセメンタイト(Cementite: Fe_3C)である。各鉄粒は鋳鉄組織までの発展は認められない。

(4) ビッカース断面硬度：第31図の⑧はフェライト・セメンタイト素地の硬度測定の圧痕である。硬度値は344Hvが得られた。⑩は初晶パーライト部分の圧痕で360Hv、他の1点は358Hvだった。次にガラス地の硬度値は614Hv、643Hvである。それぞれ組織に応じた値と評価できる。

(5) EPMA調査：送風管の溶融ガラス地に鉄痕跡らしき箇所があったので情報を採る目的の分析を行なった。第37図の反射電子像(COMP)の分析点1である。分析点2と共に非晶質珪酸塩のガラスの結論に収まった。分析点1の定量分析結果は、33.2% SiO_2 -12.6% Al_2O_3 -1.0% CaO -1.2% MgO -1.0% K_2O -1.2% Na_2O -29%FeO組成である。また、分析点2も同系で59.7% SiO_2 -20.9% Al_2O_3 -1.7% CaO -1.3% K_2O -1.7% Na_2O -11.3%FeO組成となった。

他にもう一視野鉄粒の分析を行なった。第38図の反射電子像に示す。鉄粒の中に淡黄褐色非金属介在物がある。分析点1は58.2%Fe-34.9%S-3.0%V、分析点2は60%Fe-34.6%S組成で、両方共に硫化鉄で、磁硫鉄鉱(pyrrhotite: Fe_{1-x}S)に同定される。黒色ガラス地は64.2% SiO_2 -23.3% Al_2O_3 -1.4% CaO -1.4% K_2O -1.0% Na_2O -3.6%FeO組成からガラス(非晶質珪酸塩)の結果を得た。分析点1の3.0%Vの検出は砂鉄原料鋳鉄の情報となり得る。当送風管の位置付けは鉄鉱物吹出し用だった傍証にできる。

(6) 化学組成成分：第5表に示す。送風管は溶損対策の必要な炉材である。前述HAD-2、3炉壁の18%台アルミナ(Al_2O_3)に対して該品は、21.94%と耐火度向上が望まれる成分が準備されていた。更に塩基性成分($\text{CaO}+\text{MgO}$)も2.0%に留まるのに対して、炉壁は約2倍程度高めとなる。確実に送風管の機能を重んじた成分配慮が読み取れる。此の送風管炉材も国東半島の火山岩と同質の九重山地の安山岩に由来する土砂の充当である。

(7) 耐火度：第5表に示す。1300°Cの耐火度の実績値が得られている。高アルミナ、低塩基性成分が効いた成分の寄与である。

5. HAD-6 梶形滓

(1) 肉眼観察：平面は不整台形状の1.7 cmと薄く偏平な85gの梶形滓である。上下面と側面の一部が生きて、大部分は破面（4面）となる。上面は比較的平坦で、気孔少なく微かに木炭痕を刻む。下面は緩く皿状を呈し、中小の気孔を留める。破面は気孔少なく緻密な滓である。色調は地が黒褐色気味で、淡茶褐色被膜に覆われる。一見梶形鍛治滓としても通る質感で、検討を要する。鑄造関連遺物に共伴する唯一の滓である。

(2) マクロ組織：第34図に示す。断面は0.2～1 mm径の端正な円形気孔が点在する中に白色粒状鉱物がほぼ均等に分布する。緻密な滓である。ただし梶形滓底部相当箇所には淡灰色鉱物相のみで白色粒状鉱物の無い箇所も存在する。

(3) 顕微鏡組織：第32図の④～⑩に示す。④～⑧は試料断面の上・中段を撮影した鉱物相である。白色粒状結晶のウスタイト（wustite: FeO）と淡灰色盤状結晶のファヤライト（fayalite: 2FeO · SiO₂）が晶出する。⑨は梶形滓底部の（下段）の組織でファヤライト単相となる。マクロ組織で白色粒状結晶の消えた層に対応する。ここは炉床に接し、低温側（約800°C）からの生成鉱物となる。以上の晶癖は鍛冶作業排出の鍛錬鍛治滓といえば、それで通る組織である。しかし、ここでは粗銅の溶解精製過程で派生した滓と評価する。検証は化学組成分析の0.03%CuとEPMA査のCu-Fe-Snメタルの検出を根拠にしている。詳しくは各調査項目のところで述べる。

(4) ビックアース断面硬度：第32図の⑩に白色粒状結晶の硬度測定の圧痕を示す。値は504Hvで、文献硬度値450～500Hv^(注4)の上限を僅かに越えるが、ウスタイトに同定できる。同じく淡灰色盤状結晶は、698Hvの値が得られた。ファヤライト文献硬度値は600～700Hvで、此の範疇に収まる。

(5) EPMA調査：第39図の反射電子像（COMP）に示した白色粒状結晶とその粒内に晶出した明白色メタルを分析対象とした。まず酸化物分析から述べる。分析点13は白色粒状結晶である。特性X線像はFeに白色輝点が集中する。定量分析値は98.1%FeOからウスタイト（wustite: FeO）が同定される。次に分析点14は暗褐色微小結晶で、定量分析値は47.6%FeO-51.8%Al₂O₃からヘルシナイト（hercynite: FeO · Al₂O₃）、分析点15の柱状結晶は66.2%FeO-30.8%SiO₂-1.4%MgOはファヤライト（fayalite: 2FeO · SiO₂）、分析点16の黒色地は45.8%SiO₂-23.2%Al₂O₃-6.1%CaO-5.6%K₂O-3.9%Na₂O-14.0%FeO組成からガラス（非晶質珪酸塩）が同定された。ヘルシナイト以外は第32図の顕微鏡組織で同定した鉱物と同じであって矛盾はない。次に明白色メタルの分析である。僅かに灰色かかった狭小メタル部は分析点9であり、定量分析値は84.0%Cu-10%Fe-8.2%Sn組成である。粗銅で脈石成分のFeとSnを含む。粗銅の溶解精製過程で生じたスラグを証明する金属と理解する。分析点10は95.7%Fe-1.9%Cuは1.9%銅を固溶する鉄である。梶形鍛治滓様鉱物相は鉄鍛治滓ではなくて、磬に関連した粗銅の溶解精製滓に分類される。

(6) 化学組成分析：第5表に示す。鉄酸化物主体の滓であり、52.45%Total Feでその大半が酸化第1鉄（FeO）の60.93%を含む。造滓成分（glass）は30.39%、砂鉄特有成分は0.37%TiO₂、0.01%Vなど鍛冶工房の鍛錬鍛治滓に酷似する成分である。但し注目すべきは0.03%Cuの数値である。砂鉄系鍛錬鍛治滓では<0.01%Cuに落着く。具体的な例を引くと臼杵市所在で12～13世紀に属する清太郎遺跡出土鍛治滓は砂鉄系鉄塊系遺物と共に、0.005%Cuであった^(注5)。この様に化学組成的にも該品が鉄の鍛錬鍛治滓とは一線を画する事は確かである。

6. HAD-7 不明鑄型

(1) 肉眼観察：小型鑄型の端部破片。厚み1.5 cmで内面は還元した灰黒色の真土をもつ。側面の一部と裏面が破面。用途不明。

(2) マクロ組織：第34図に示す。基質土砂中に微細石英破片が少量散在する。鑄物土と真土（山砂3:粘土1）

符号	遺物名称	顕微鏡組織	化学組成(%)								所見
			Total Fe	Fe ₂ O ₃	塩基性成分	TiO ₂	V	MnO	ガラス質成分	Cu	
HAD-1	溶解炉(中段)	g、銹化鉄粒(gt)、mt、胎土:Ce	-	-	-	-	-	-	-	-	炉壁胎土は安山岩由来の土砂
HAD-2	溶解炉(下段)	g、金属鉄:含Ti _{po} 、含Ti _{ad} 、Sb、gh、pe	4.11	4.06	3.93	0.92	0.01	0.13	81.89	<0.01	耐火度1100°C
HAD-3	中型溶解炉	g、焼固溶鉄粒	4.63	3.52	4.20	1.00	0.02	0.09	83.91	0.01	安山岩由来土砂、耐火度1100°C
HAD-4	送風管	g、金属鉄:po	3.79	4.71	1.99	0.88	0.01	0.05	85.71	0.01	羽口先端溶損対策に高アルミナ粘土充当、耐火度1300°C
HAD-6	梶形滓破片	W+F+chtg、メタル(Cu-Fe-Sn)、メタル(Cu1.9%固溶)	52.45	7.02	2.28	0.37	0.01	0.08	30.39	0.03	鑄型に銅鉄込みの可能性(粗銅溶解精製スラグ)
HAD-7	不明鑄型	安山岩中の含Ti _{mt} 、安山岩斑晶破片	-	-	-	-	-	-	-	-	鑄物砂、鑄型材は大分川下流域分布表層土使用の可能性

第6表 出土遺物の調査結果のまとめ

との境界は不明瞭であった。

(3) 顕微鏡組織：第33図の①～⑩に示す。④～⑥は鋳型表面に付着した1mm未満の溶着物である。鋳型使用で被熱生成したガラスであって、この中に安山岩や火山岩帰属の鉱物が含まれる。鉱物組成はEPMAの項で触れる。⑦⑧は表層真土を撮影した。粘土分布は細かい方に位置する。⑨⑩は胎土鉱物である。

(4) EPMA調査：第40図は顕微鏡組織の④～⑥に示した鋳型溶融物である。反射電子像(COMP)による分析点4の白色方形鉱物の定量分析値は、72.9%FeO-2.7%Al₂O₃-1.1%MgO-14.2%TiO₂-1.1%V₂O₃組成から安山岩中の含Ti磁鉄鉱が同定される。分析点5の淡褐色短柱状鉱物は53.0%SiO₂-20.8%FeO-10.4%MgO-3.0%CaO組成から、火山岩斑晶の輝石破片である。また分析点6の黒色地は69.9%SiO₂-14.4%Al₂O₃-1.9%CaO-1.6%K₂O-2.2%Na₂O-1.1%TiO₂組成となる。鋳型として被熱生成したガラスと判定がつく。

真土狙いでもう一視野調査した。顕微鏡組織の⑦箇所である。第41図の反射電子像(COMP)に示す。分析点7の白色不定形鉱物の定量分析値は、73.5%FeO-4.5%Al₂O₃-1.8%MgO-9.0%TiO₂-1.1%V₂O₃組成から安山岩中の含Ti磁鉄鉱が同定された。前述分析点4に準じた鉱物である。次に分析点8は淡褐色不定形鉱物である。定量分析値は63.1%SiO₂-25.9%Al₂O₃-7.5%Na₂O組成から火山岩斑晶の斜長石の破片に同定された。以上の分析結果は九重山地の安山岩由来の土砂であり、同質の国東半島の火山岩にも繋がる。これは大分川下流域に分布する表層土であることの裏付けとなる。

V まとめ

12世紀末に属する羽田遺跡から出土した鋳造関連遺物(炉壁3点、送風管1点、椀形滓1点、不明鋳型1点)の分析調査を行った。個々のまとめを第6表に示す。

溶解炉の炉材は遺跡の立地する大分川下流域に分布する表層土が使用された可能性が高い。炉壁胎土は国東半島の火山岩分析値に酷似する。鋳型材はEPMAから九重山地の安山岩由来の土砂鉱物(含チタン磁鉄鉱)、国東半島の火山岩斑晶の破片、斜長石破片など検出できた結果からの発言となる。溶解炉の炉壁溶融ガラスから砂鉄系小銑粒を検出。羽釜原料鉄は国東半島由比ヶ迫製鉄遺跡からの搬入も一つの候補地に挙げられる。

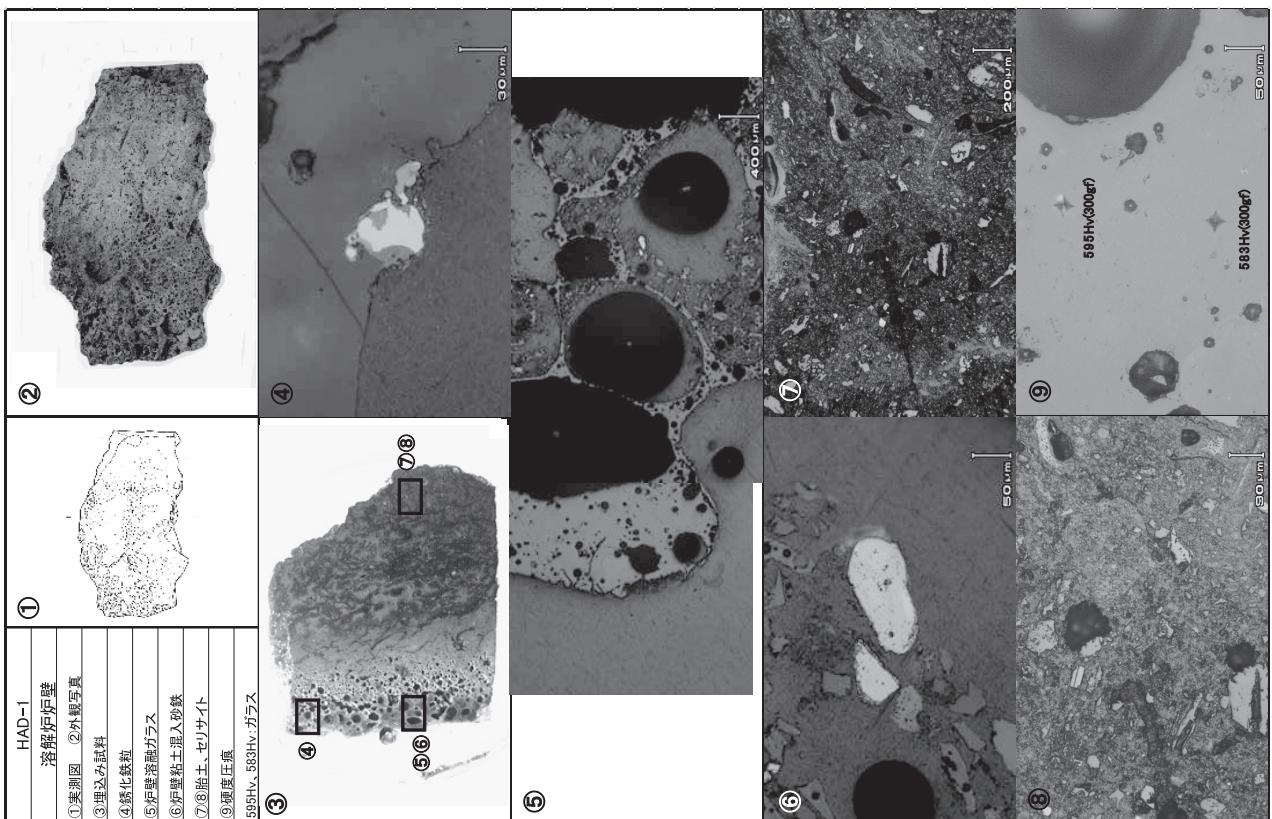
次に注目しておきたいのが椀形滓である。粗銅溶解精製過程で生じたスラグの可能性を指摘しておく。これは磬が銅遺物であった傍証資料となる。

古代銅生産は酸化銅鉱石(孔雀石、含銅褐鉄鉱)を用いた。豊形炉などで還元操業である。粗銅は不純物に鉄を含む^(注6)。この不純物の鉄を除去する精製工程が羽田遺跡の磬鋳造に際して行なわれた前処理の証ではなかろうか。過去に椀形鍛冶滓類似の銅精製を想定させる資料を幾つか手掛けてきた。後日これらを本件と併せてまとめておきたいと思うところである。

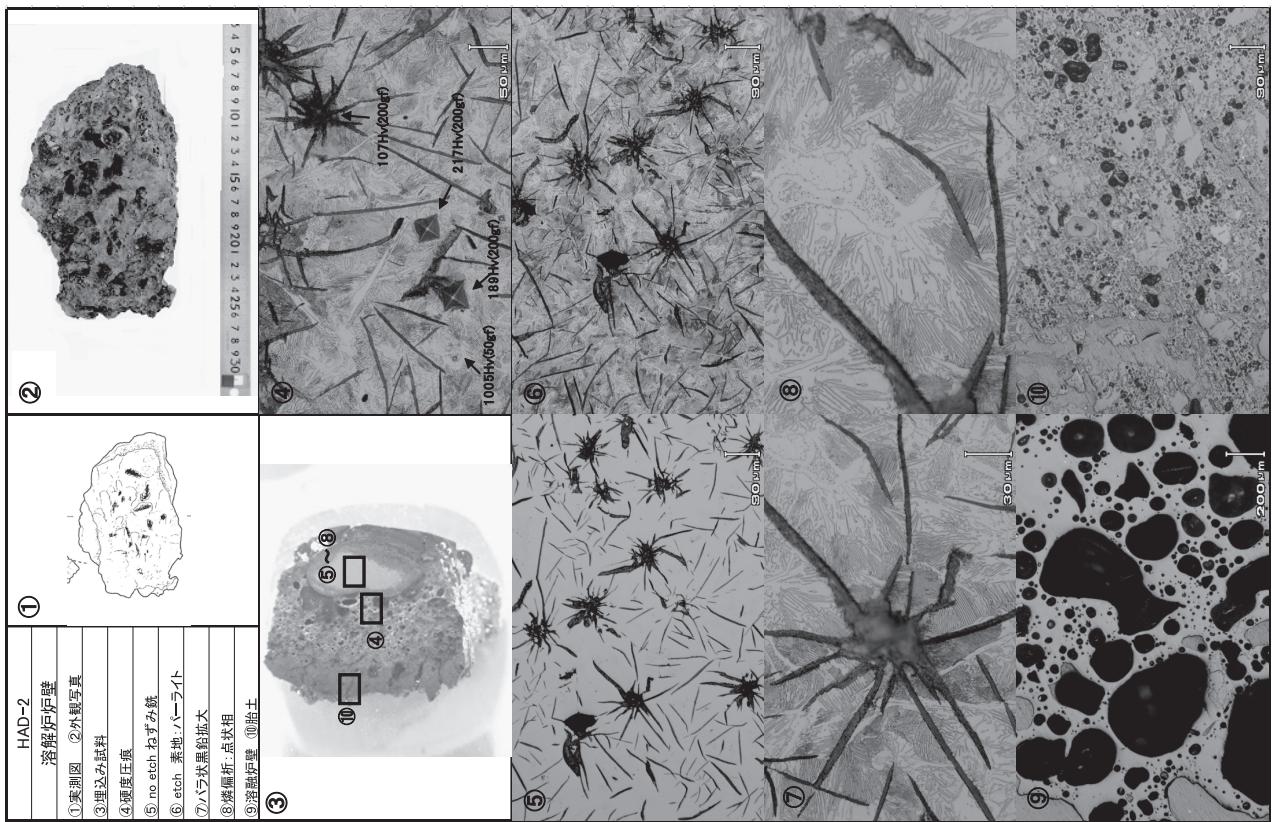
注

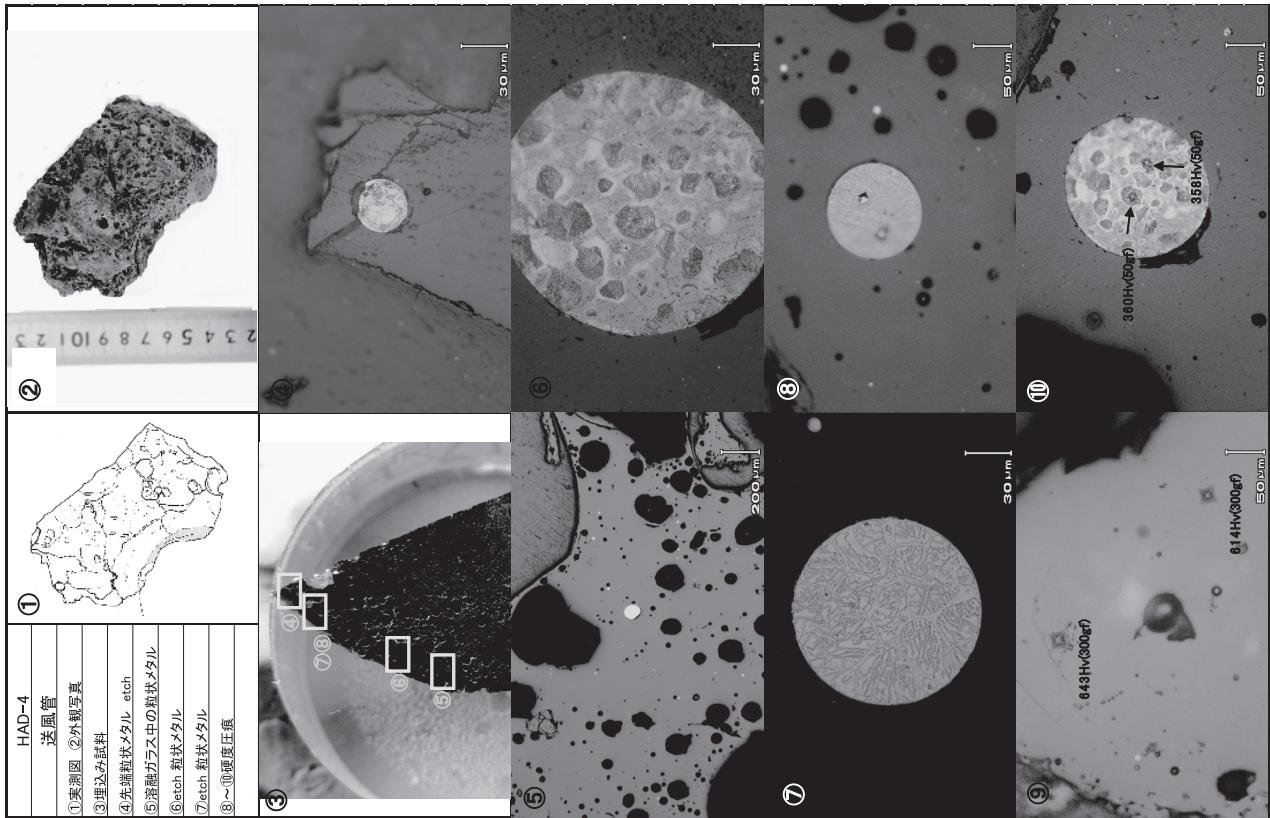
- (1) 大澤正己「由比ヶ迫遺跡出土製鉄関連遺物の金属学的調査」『由比ヶ迫遺跡』国東地区遺跡発掘調査報告書(大分県国東町文化財調査報告書第14集)国東町教育委員会 1997
- (2) ガラスのビッカース断面硬度値：日本学術振興会製銑第54委員会(1968)
- (3) 柴田秀賢(1968)『日本岩石Ⅲ火山岩』朝倉書店(P211)
- (4) 日刊工業新聞社『焼結鉱組織写真および識別法』1968
ウスタイトは450～500Hv、マグネタイトは500～600Hv、ファイヤライトは600～700Hvの範囲が提示されている。また、ウルボスピネルの硬度値範囲の明記がないが、マグネタイトにチタン(Ti)を固溶するので、600Hv以上であればウルボスピネルと同定している。それにアルミナ(Al)が加わり、ウルボスピネルとヘーシナイトを端成分とする固溶体となると更に硬度値は上昇する。このため700Hvを超える値では、ウルボスピネルとヘーシナイトの固溶体の可能性が考えられる。
- (5) 大澤正己・鈴木瑞穂「清太郎遺跡出土鍛冶関連遺物の金属学的調査」『清太郎遺跡』東九州自動車道関連埋蔵文化財発掘調査報告書(2)大分県文化財調査報告書 第115号 大分県教育委員会 2001
- (6) 大澤正己「古代銅製鍊復元実験から確認できた銅・鉄共存の根拠」～長登遺跡出土8世紀前半含金属スラグとの比較検討～『古代銅製鍊復元実験報告書』美東町教育委員会 2008

第28図 HAD-1顕微鏡組織

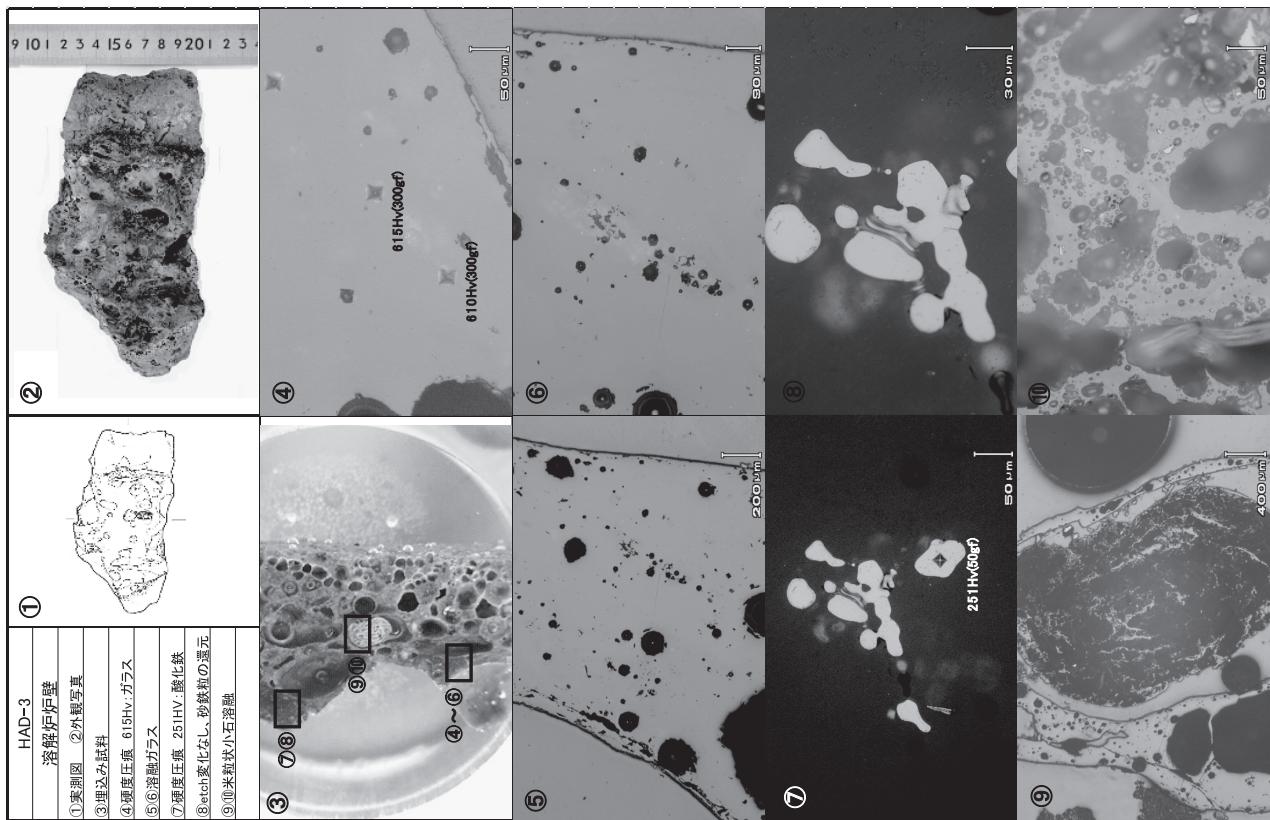


第29図 HAD-2顕微鏡組織



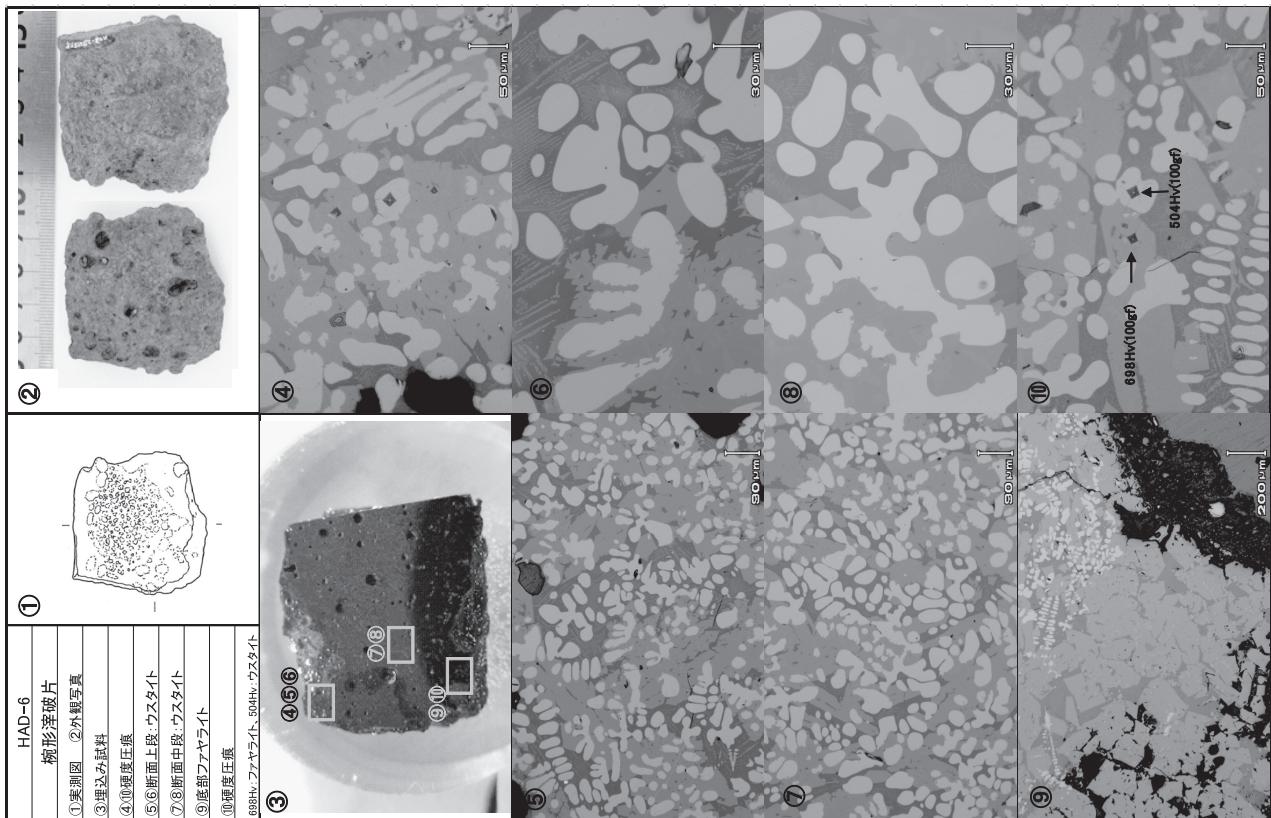
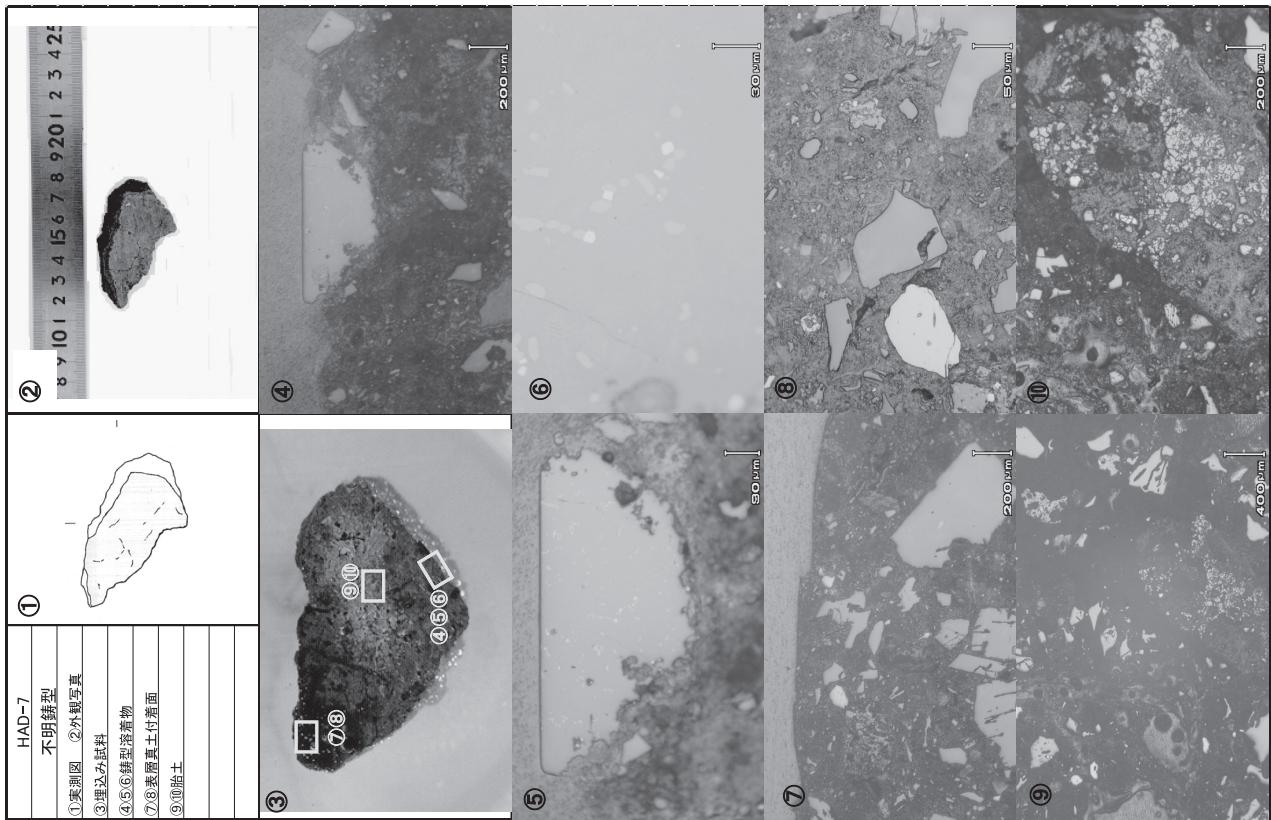


第31図 HAD-4顕微鏡組織

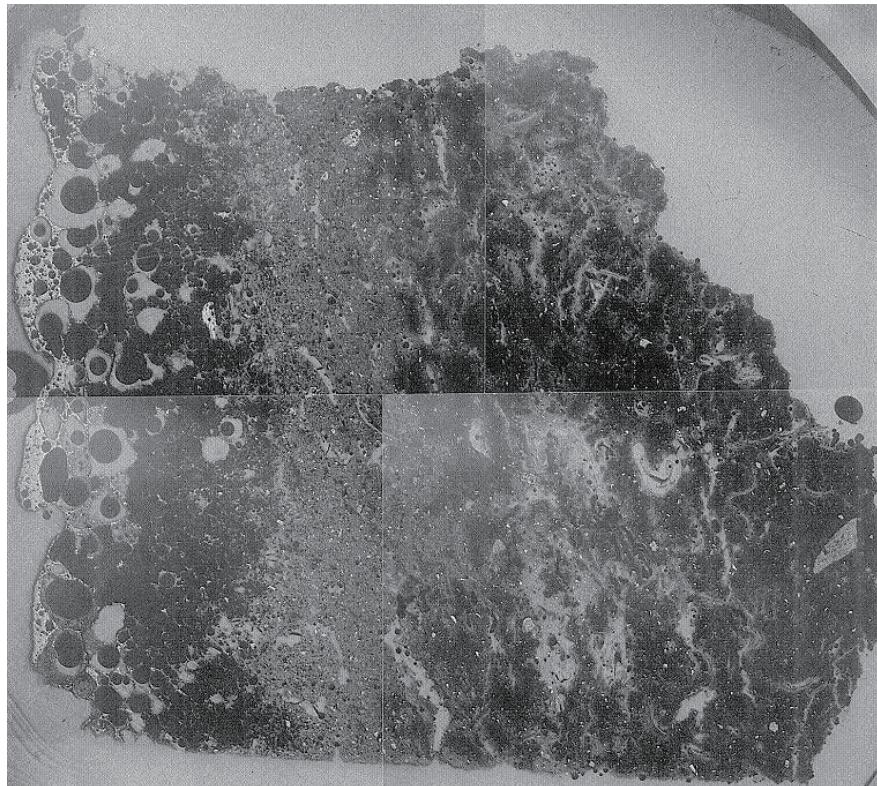


第30図 HAD-3 マイクロスコープ

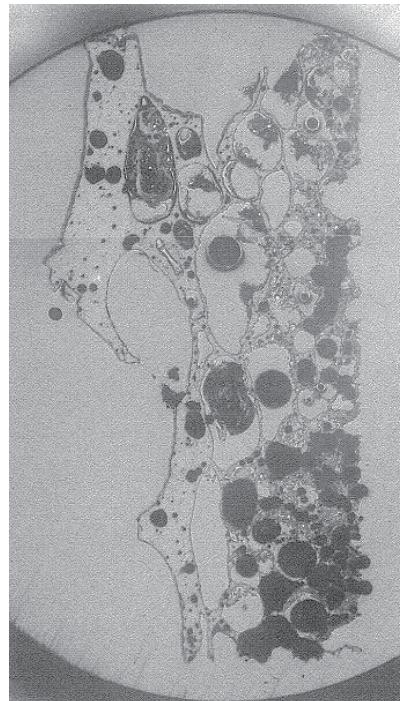
第33図 HAD-7 跡微鏡組織



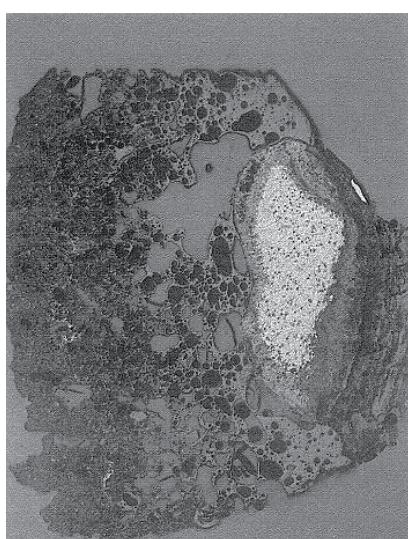
第32図 HAD-6 跡微鏡組織



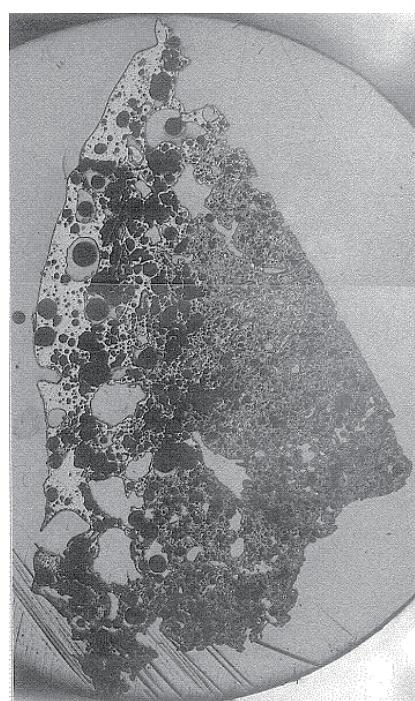
HAD-1 $\times 5$



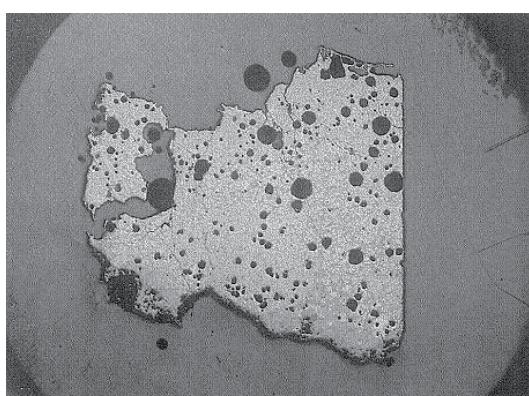
HAD-3 $\times 5$



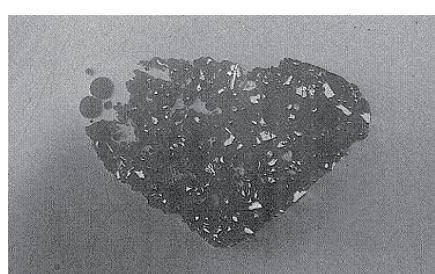
HAD-2 $\times 5$



HAD-4 $\times 5$

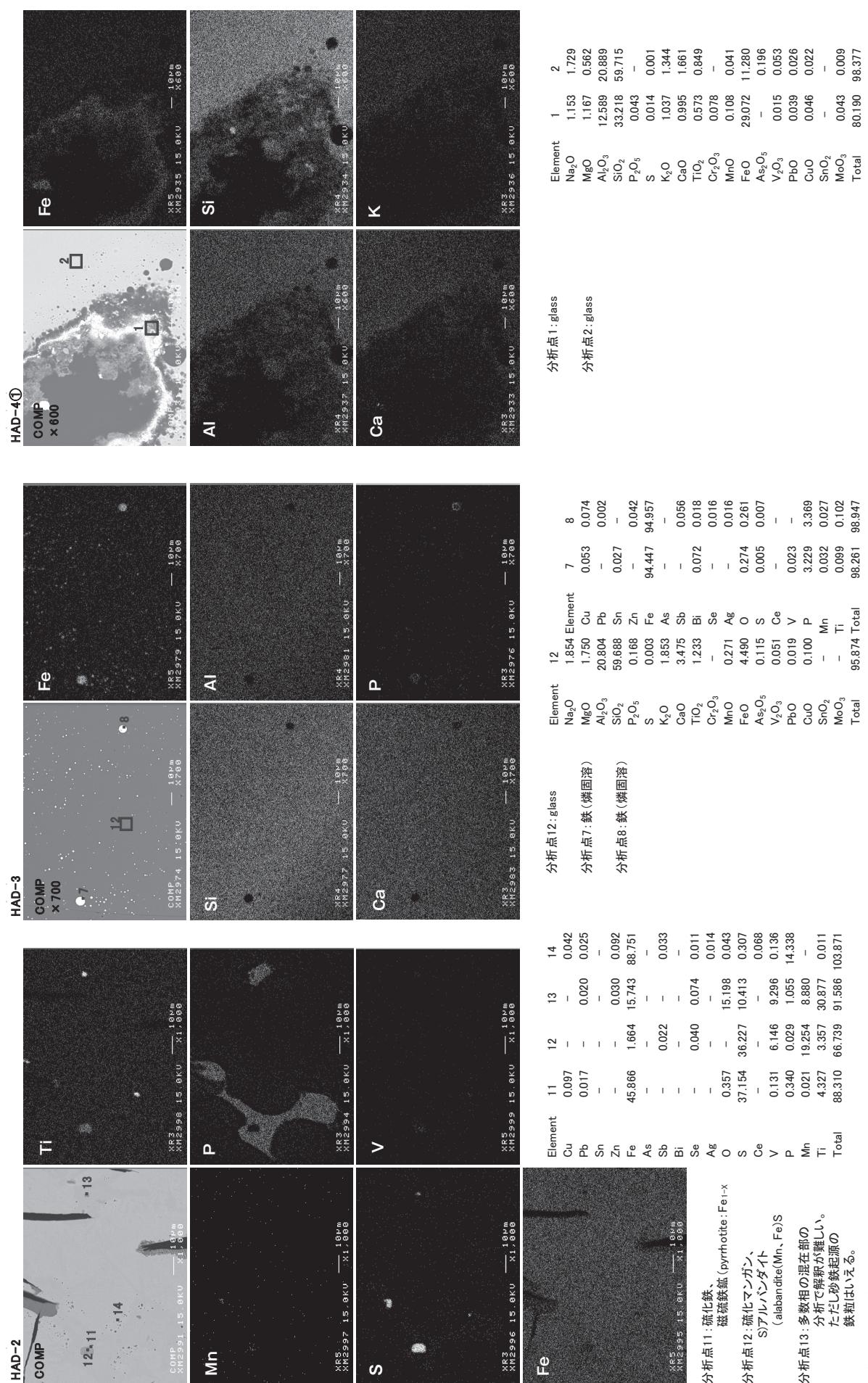


HAD-6 $\times 5$

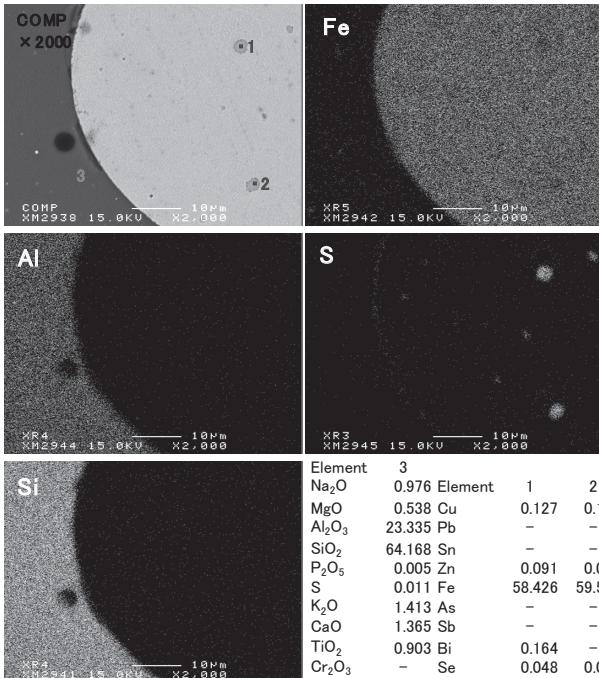


HAD-7 $\times 5$

第34図 HAD-1～4・6・7マクロ組織



HAD-4②



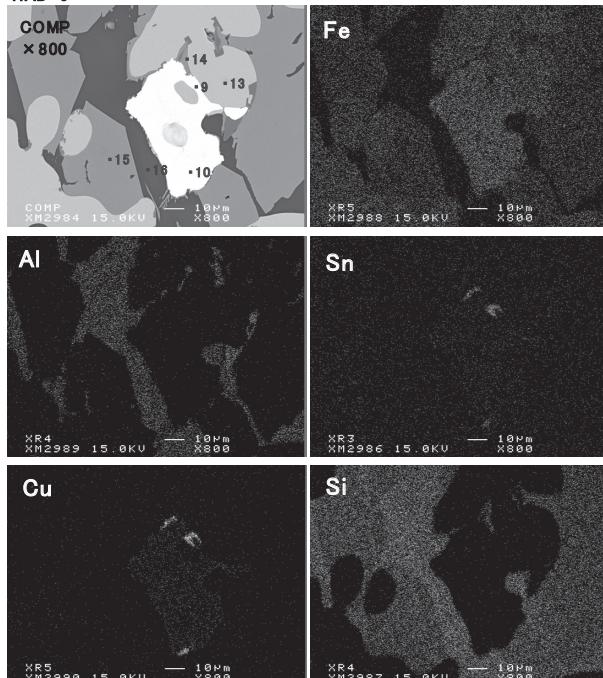
分析点3: glass

分析点1: 硫化鉄、磁硫鉄鉱(pyrrhotite: Fe_{1-x}S)分析点2: 硫化鉄、磁硫鉄鉱(pyrrhotite: Fe_{1-x}S)

Element	3	Element	1	2
Na ₂ O	0.976	Cu	0.127	0.144
MgO	0.538	Pb	—	—
Al ₂ O ₃	23.335	Sn	—	—
SiO ₂	64.168	Zn	0.091	0.064
P ₂ O ₅	0.005	Fe	58.426	59.552
S	0.011	As	—	—
K ₂ O	1.413	CaO	—	—
CaO	1.365	Sb	—	—
TiO ₂	0.903	Bi	0.164	—
Cr ₂ O ₃	—	Se	0.048	0.031
MnO	0.103	Ag	—	—
FeO	3.564	O	0.312	0.041
As ₂ O ₅	0.051	S	34.864	34.642
V ₂ O ₃	0.033	Ce	—	0.025
PbO	—	V	2.969	0.044
CuO	0.072	P	0.612	0.963
SnO ₂	—	Mn	0.078	0.016
MoO ₃	—	Ti	0.058	0.055
Total	96.537	Total	97.749	95.577

第38図 EPMA調査

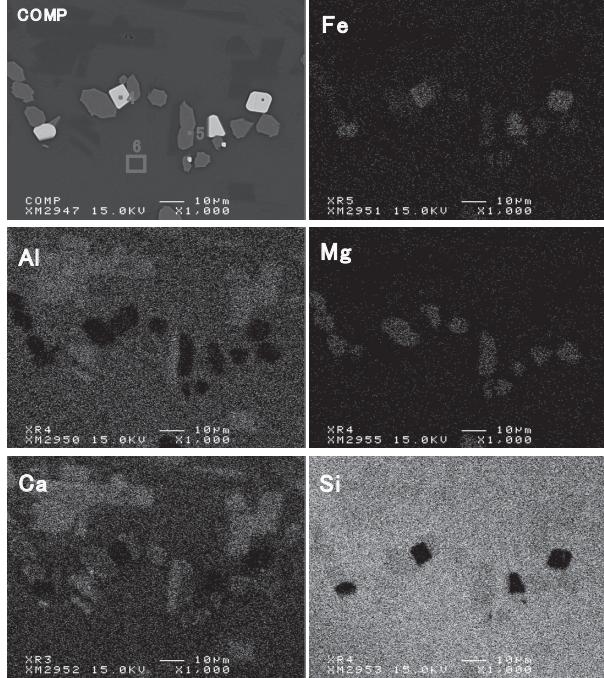
HAD-6



Element	13	14	15	16	Element	9	10
Na ₂ O	—	—	0.068	3.904	Element	9	10
MgO	0.046	0.257	1.422	—	Cu	84.042	1.922
Al ₂ O ₃	0.601	51.773	0.314	23.182	Pb	0.071	0.008
SiO ₂	0.247	0.395	30.800	45.787	Sn	8.178	0.043
P ₂ O ₅	0.012	0.003	0.076	0.624	Zn	0.076	—
S	—	—	0.012	0.031	Fe	10.485	95.645
K ₂ O	—	—	0.021	5.598	As	—	0.045
CaO	—	—	0.357	6.135	Sb	—	—
TiO ₂	0.541	0.785	0.055	0.054	Bi	—	—
Cr ₂ O ₃	0.035	0.064	0.026	0.026	Se	0.059	0.071
MnO	—	0.047	0.158	0.029	Ag	—	—
FeO	98.102	47.592	66.229	14.031	O	—	0.129
As ₂ O ₅	0.084	0.171	—	—	S	0.016	0.012
V ₂ O ₃	0.033	0.016	0.004	0.010	Ce	—	0.019
PbO	0.030	0.038	—	—	V	0.026	—
CuO	—	0.073	0.010	0.075	P	0.122	0.025
SnO ₂	0.015	—	—	—	Mn	0.009	0.066
MoO ₃	0.086	—	0.058	0.086	Ti	0.031	0.023
Total	99.832	101.214	99.610	99.572	Total	103.115	98.008

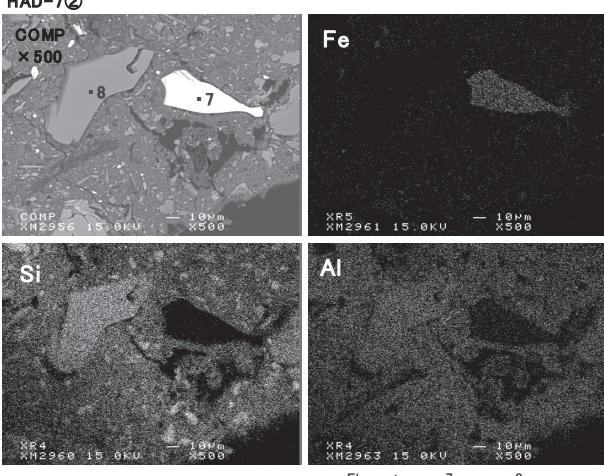
第39図 EPMA調査

HAD-7①



Element	4	5	6
Na ₂ O	—	0.071	2.215
MgO	1.081	10.420	0.561
Al ₂ O ₃	2.728	0.824	14.415
SiO ₂	0.197	53.006	69.944
P ₂ O ₅	—	0.019	0.330
S	0.016	0.009	0.007
K ₂ O	0.052	0.027	1.641
CaO	0.027	3.005	1.883
TiO ₂	14.190	0.378	1.063
Cr ₂ O ₃	—	—	—
MnO	0.498	0.671	0.193
FeO	72.928	20.787	6.428
As ₂ O ₅	—	0.410	0.085
V ₂ O ₃	1.110	0.010	—
PbO	0.021	0.005	0.026
CuO	—	0.021	—
SnO ₂	—	0.030	—
MoO ₃	0.039	—	0.080
Total	92.887	89.693	98.871

第40図 EPMA調査



Element	7	8
Na ₂ O	—	7.528
MgO	1.839	—
Al ₂ O ₃	4.544	25.881
SiO ₂	0.110	63.105
P ₂ O ₅	0.003	0.009
S	—	0.004
K ₂ O	0.013	0.555
CaO	—	5.052
TiO ₂	8.950	0.020
Cr ₂ O ₃	0.184	0.016
MnO	0.275	—
FeO	73.502	0.599
As ₂ O ₅	0.446	—
V ₂ O ₃	1.086	0.008
PbO	—	—
CuO	0.077	—
SnO ₂	—	—
MoO ₃	0.063	0.009
Total	91.092	102.786

第41図 EPMA調査

羽田遺跡出土鑄造関連遺物のX線回折結果報告

井澤 英二

1. はじめに

羽田遺跡出土の溶解炉胎土（ガラス化部と合わせて2試料）、送風管胎土（1試料）と椀形滓破片1試料について、X線回折を行った。以下に試料の構成相とその鉱物学的特徴について述べる。

2. 分析条件と鉱物相の判定

粉末X線回折には、九州大学地球資源工学部門の理学Ultima IV X線回折装置を使用した。X線はCu K α_1 (40 kV, 20 mA) を用い、全自動モノクロメータ、発散スリット2/3°、散乱スリット2/3°、受光スリット0.3 mm、データ取得幅0.02° (2θ)、走査速度2°/minの条件で2-65° (2θ) を走査範囲とした。（注：X線回折線図に認められる3本のピーク [2θ = 38.3°, 44.5°, 64.8°] は、アルミニウム製試料保持枠に由来する混入回折線である。）

3. X線回折結果

HAD-1 溶解炉胎土：斜長石、単斜輝石、角閃石、磁鉄鉱、石英、クリストバライトおよび少量の雲母鉱物、カオリナイトが検出された。2θ = 20-30° の回折バンドはガラスの存在を示す（第42図）。

HAD-1 溶解炉胎土（ガラス化）：斜長石、単斜輝石、角閃石、磁鉄鉱、石英、クリストバライト、少量の雲母鉱物のほか、ムライト、鉄スピネル、ファヤライトと著量のガラスが認められた（第43図）。

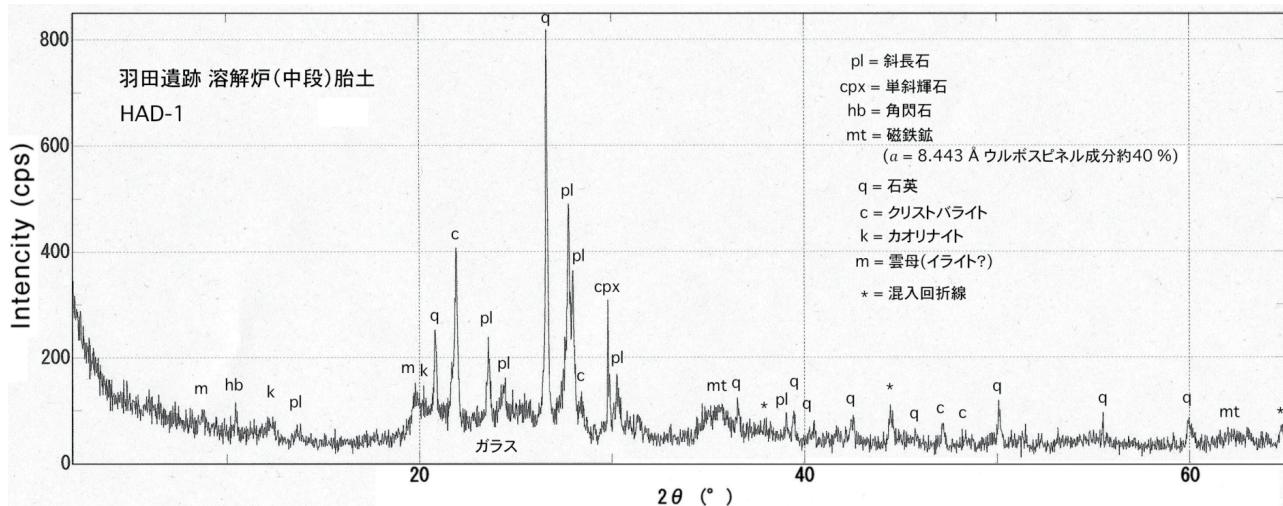
HAD-4 送風管胎土：斜長石、磁鉄鉱、石英、クリストバライト、および少量の雲母鉱物、著量のガラスが認められた（第44図）。

HAD-6 椗形滓破片：ウスタイト、ファヤライト、鉄スピネルからなる。ほかに、クリストバライトと思われる微小な回折線が認められた。（第45図）

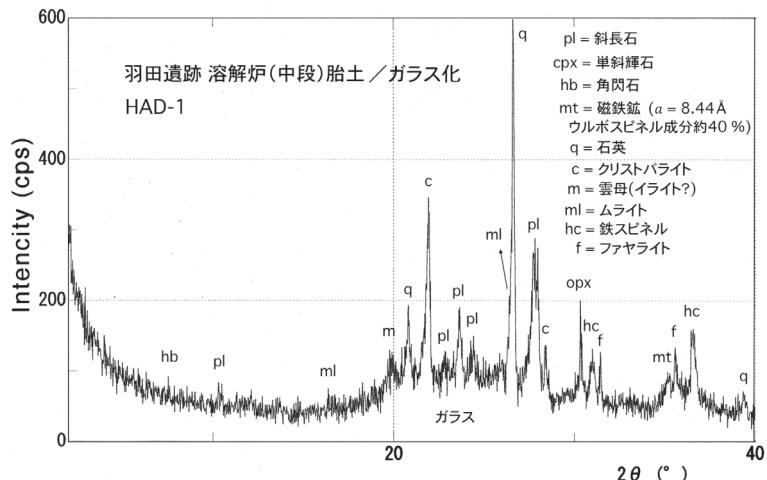
4. 考察とまとめ

溶解炉、送風管、鋳型など土製品の胎土は、各種の分析によって特徴が明らかになった。X線回折の結果、溶解炉HAD-1、送風管HAD-4の胎土から、斜長石、単斜輝石、磁鉄鉱、クリストバライトが検出された。鋳型HAD-7でも、単斜輝石斑晶の破片、斜長石斑晶の破片がEPMA分析で見出されている。このほかHAD-1からはX線回折で角閃石が認められた。このような構成鉱物は、胎土が火山岩類由来の堆積砂泥であることを示している。

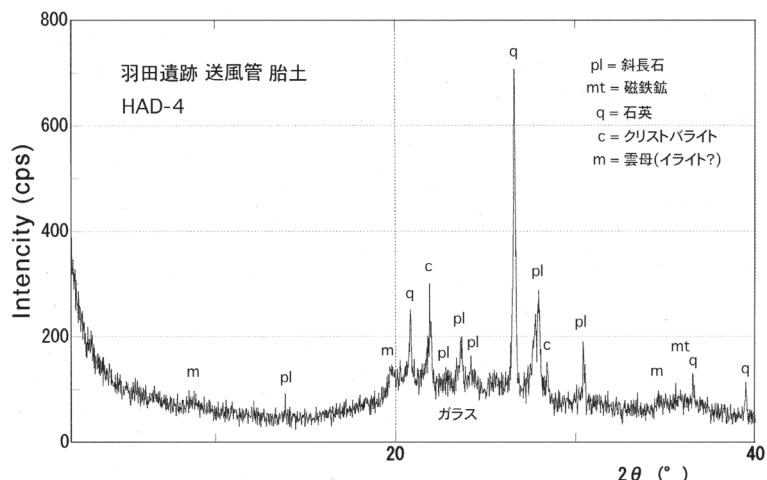
大分川流域に広く分布する火山岩類には、阿蘇4火碎流堆積物、九重山地の安山岩やデイサイトがある。胎土に含まれる磁鉄鉱は、ウルボスピネル成分を40モル%程度固溶した高チタンの磁鉄鉱であり、鋳型HAD-7の胎土に含まれる磁鉄鉱のEPMA分析値7（第41図）も高チタンである。阿蘇4火碎流堆積物の磁鉄鉱は低チタンである。



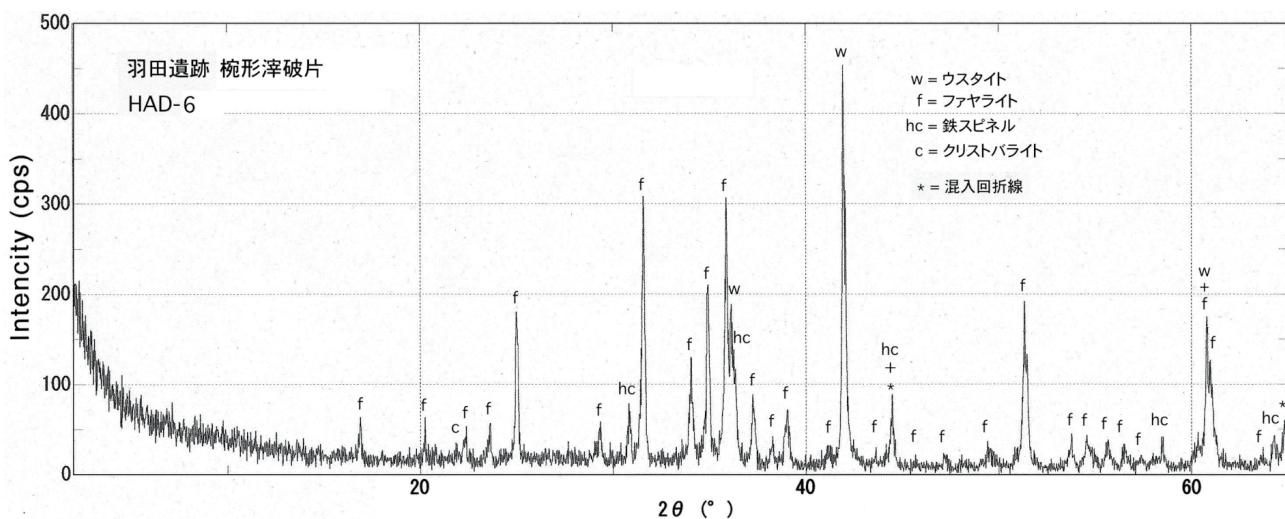
第42図 HAD-1 溶解炉胎土のX線回折線図



第 43 図 HAD-1 溶解炉胎土（ガラス化部）の X 線回折線図



第44図 HAD-4送風管胎土のX線回折線図



第45図 HAD-6 梶形溝のX線回折線図

引用文献

Akimoto, S. and Katsura, T. (1959) Magneto-chemical study of the generalized titanomagnetite in volcanic rocks. Jour. Geomag. Geoelectr. Vol. 11, p. 69-90.

一方、高チタンの磁鉄鉱は九重地域の角閃石安山岩の特徴である（例えば、Akimoto and Katsura, 1959）。また、溶解炉胎土 HAD-2 と HADF-3、送風管胎土 HAD-4 の化学分析値は、安山岩の組成を示している。

X線回折で検出された雲母鉱物は、黒雲母あるいはセリサイトの可能性がある。カオリナイトは、風化生成物であろう。また、石英はデイサイトに由来するものであろう。ガラスは、土製品が被熱した際に生成したと考えられる。

HAD-6 梶形淬を構成する鉄スピネルは、格子定数 ($a = 8.19 \text{ \AA}$) から磁鉄鉱成分を 15 % ほど含んでいると考えられる。鉄スピネルのそのような組成は、HAD-6 の EPMA 分析値 14 (第 39 図) にも示されている。

7 米竹遺跡第8次調査

調査面積 15 m²

地域 A

調査期間 12.02.20 ~ 12.02.29

調査担当 小野綾夏

1. 調査の経緯・立地と環境

米竹遺跡は、大分市東部にある大分川と大野川の下流に挟まれた標高40m前後の鶴崎台地上に立地し、弥生時代の竪穴建物や貯蔵穴などの集落に関連する遺構が多数確認されている遺跡である。第8次調査は、大字小池原字米竹に所在し、共同住宅建築による浄化槽設置に伴って実施した本調査である。弥生時代中期の竪穴建物や貯蔵穴が確認された第3次調査の南側隣接地であり、第3次調査と同様に集落が展開が予想される地点である。

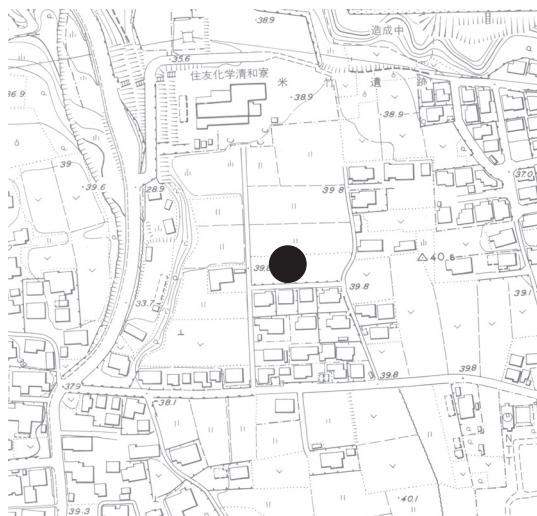
2. 調査の成果

調査は浄化槽設置予定地に3×6mのトレンチを設定して行った。現地表面下約0.6mまでは耕作土である黒褐土で、その下に黄褐色粘土の安定地盤層が存在する。調査では黄褐色粘土の上面で遺構検出を行った。

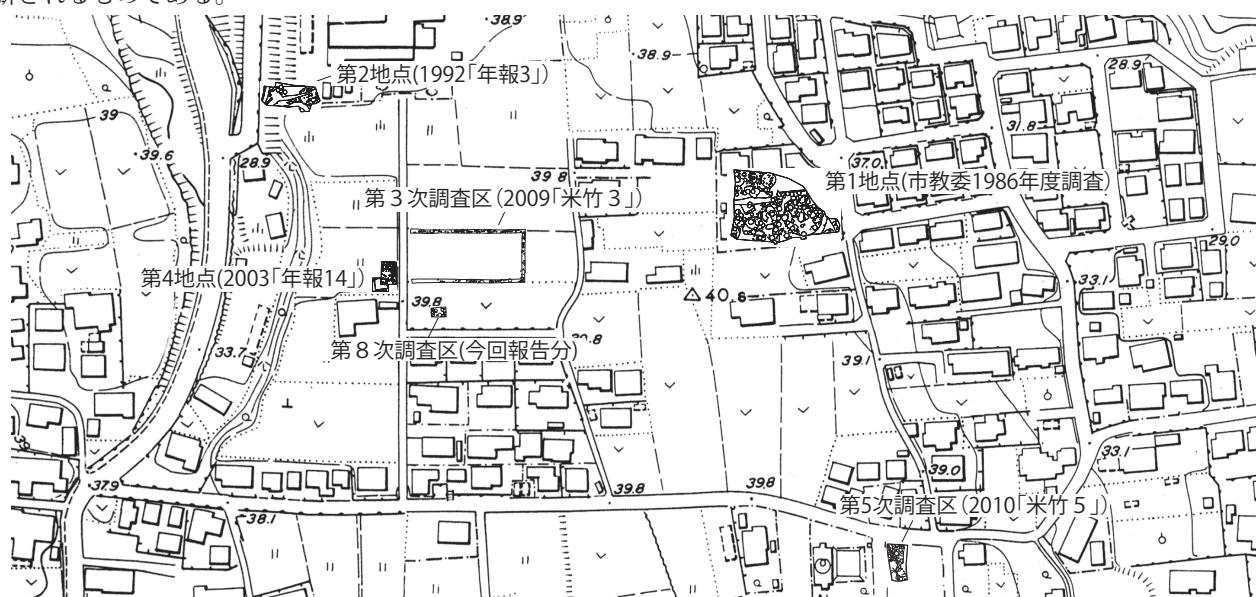
調査の結果、弥生時代の貯蔵穴と考えられる土坑を確認し、甕、壺などの弥生土器が多数出土した。

SK002は、不整円形を呈する土坑で、直径約1.3mの深さ約0.28mを測る。出土遺物から弥生時代中期中頃に比定される。SK004は、不整長方形を呈する土坑で、東側は調査区外にのびる。SK005を切っており、長辺約1.45m、深さ約0.5mを測る。出土遺物から弥生時代中期中頃～中期後半に比定される。SK005は、不整円形を呈する土坑で、東側は調査区外にのびる。西側に狭いテラス状の段を有する。SK004に切られており、直径1.1m以上、深さ約0.55mを測る。出土遺物及び切り合い関係から弥生時代中期中頃に比定される。

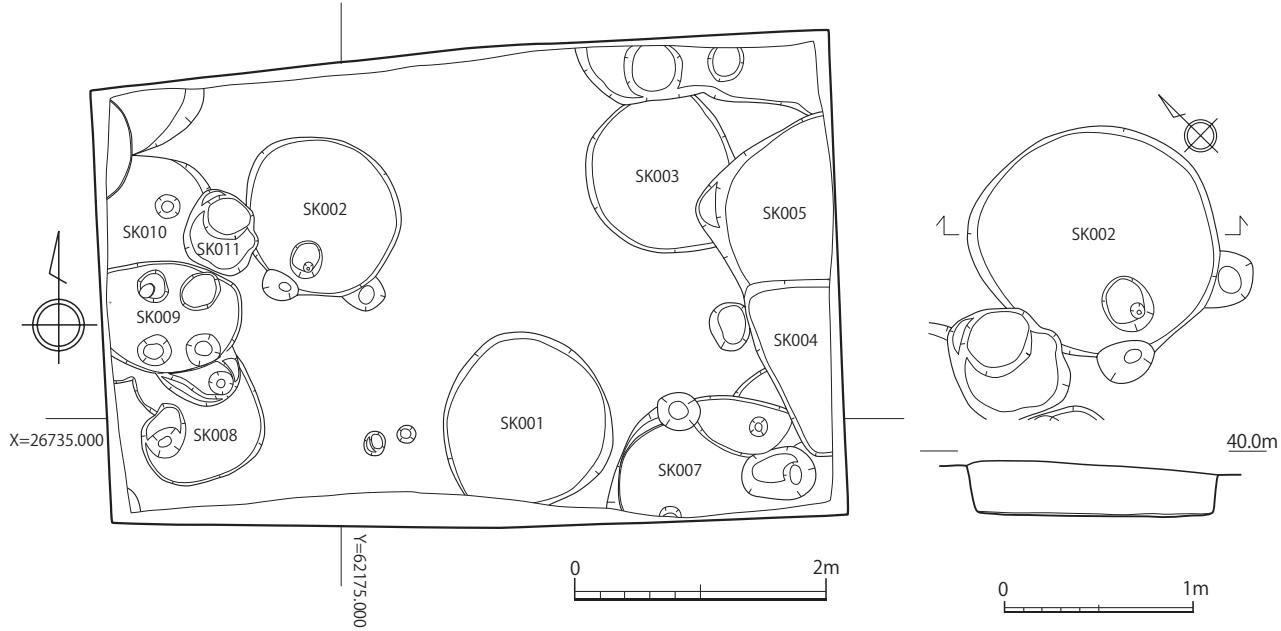
これら土坑はともに断面形状が筒形を呈し、埋土はブロックの多寡はあるものの地山ブロックを含む黒褐色粘質土である。埋土及び断面形状からこれら土坑は、貯蔵穴と考えられる。米竹遺跡における貯蔵穴はこれまでの調査で多数確認されているが、その大半が円形もしくは楕円形を呈するものであり、SK004のように長方形を呈するものは珍しい。調査区外にのびているため、調査区外で極端な不整楕円形になる可能性がないわけではないが、調査区内で判断する限り不整長方形を呈している。ただ埋土の状況及び断面形状はほかの貯蔵穴と考えられる土坑群と相異なく、また下郡遺跡群では、円形・楕円形のほか方形・長方形の貯蔵穴も確認されているため、SK004も貯蔵穴と判断されるものである。



第46図 調査位置図 (1/5000)



第47図 周辺調査区位置図 (1/3000)



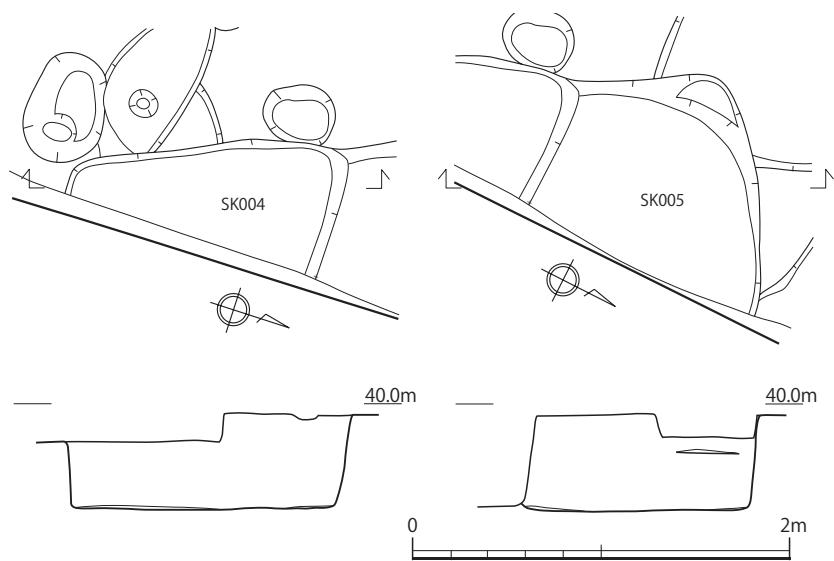
第48図 遺構全体図 (1/60)

出土遺物：1～6はSK002から出土した弥生土器である。1・4～6は甕で、2・3は壺である。1～3は下城式、6は東北部九州系である。弥生時代中期中頃に帰属する。7はSK003から出土した弥生土器の東北部九州系甕の口縁部である。8はSK004から出土した弥生土器高坏の口縁部である。口縁端部が上方に肥厚しており、中期中頃～中期後半に帰属する。9～17はSK005から出土した弥生土器である。9～11は甕口縁部で、11・12は下城式、9・10・13～15は東北部九州系である。16は高坏の坏体部で、17は壺の底部

である。弥生時代中期中頃に帰属する。18・19はSK006から出土した弥生土器の東北部九州系甕の口縁部である。20～22はSK009から出土した弥生土器と石製品である。20は下城式の壺胴部で、21は下城式の甕の口縁部～胴部である。22は結晶片岩製の石包丁破片である。23・24はSK010から出土した弥生土器の壺である。23は口縁部で、口縁端部に2列の刺突文、頸部に2条の沈線を施す。弥生時代前期末に帰属する。24は胴部で、外面に重弧文を施す。弥生時代中期前半に帰属する。25はSK011から出土した弥生土器甕の底部である。26・27は表土から出土した弥生土器である。26は甕口縁部で、27は高坏口縁部である。27の口縁端部には1列の刺突文を施す。

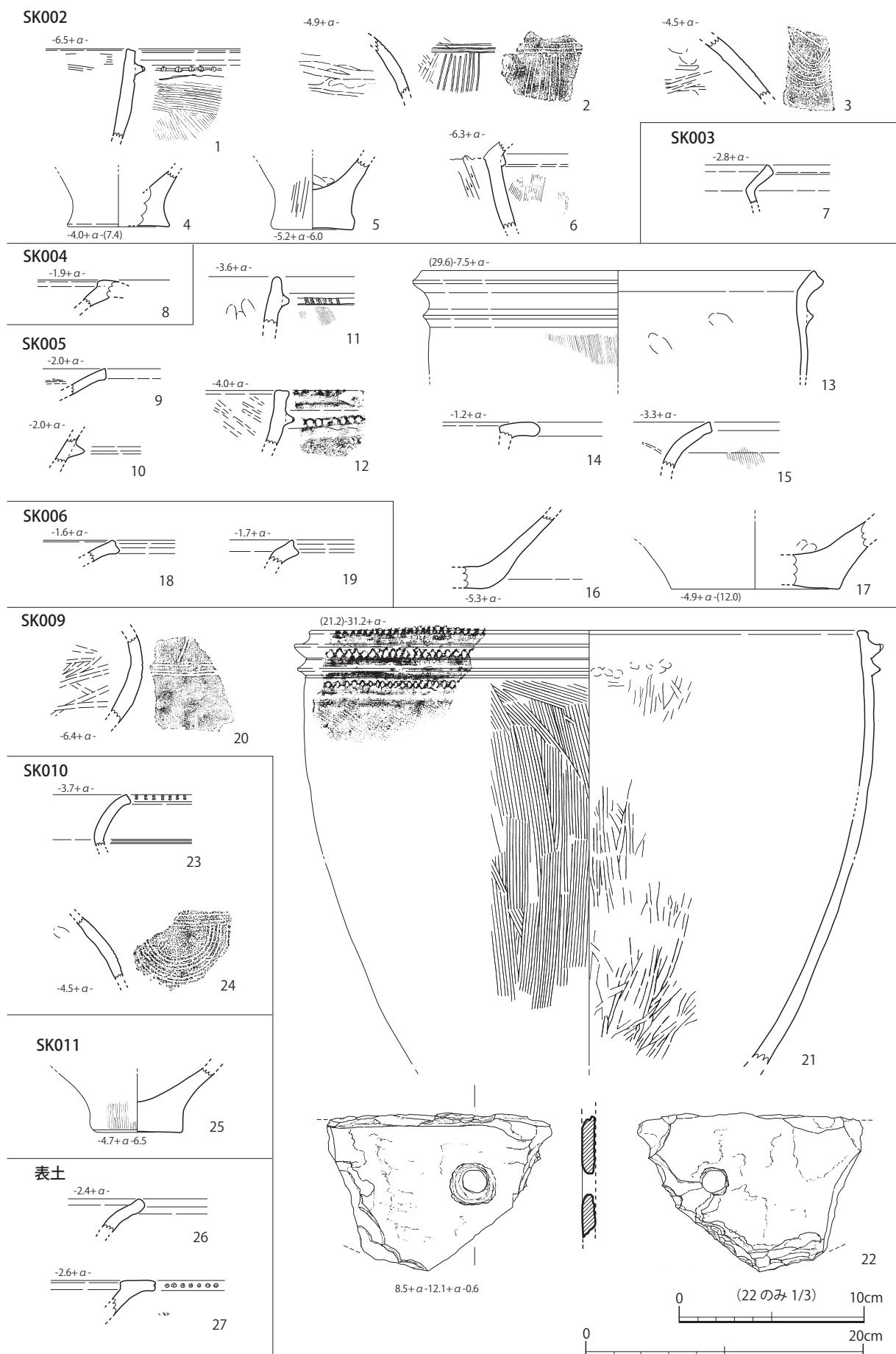
3.まとめ

今回の調査では、竪穴建物跡が確認された第3次調査の南隣接地であったため、竪穴建物跡の検出も期待されたが、調査区全面に貯蔵穴と考えられる土坑が展開しており、竪穴建物跡は確認できなかった。米竹遺跡では、これまで確認調査を含めて13地点で調査が行われているが、確認された遺構は貯蔵穴が多数にのぼり、それに比して建物の数は少ない。検出面直上が耕作土であるため削平されている可能性や、狭小な調査区が多いため掘立柱建物などの広範囲の建物が認識できていない可能性は考えられ、居住域の特定と集落全体の把握が今後の課題となろう。(松浦)



第49図 SK002 遺構図 (1/40)

第50図 SK004・005 遺構図 (1/40)



第51図 出土遺物実測図 (1/3・1/4)

8 葛木遺跡第7次調査

調査面積 40.4 m²

地域 A

調査期間 12.02.29 ~ 12.03.01

調査担当 長直信・松浦憲治

1. 調査の経緯・立地と環境

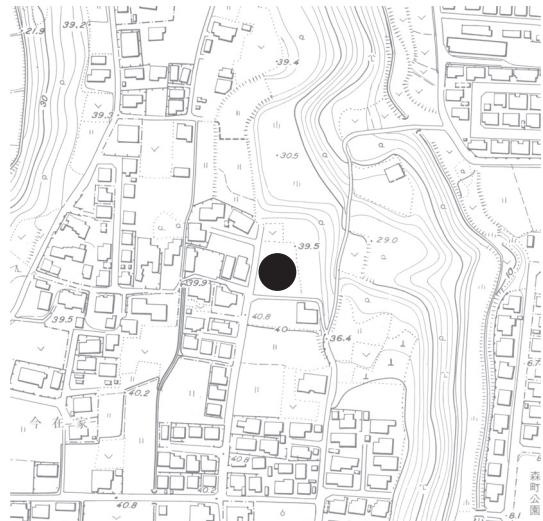
葛木遺跡は、鶴崎台地の中でも、台地の中央を南北にはしる開析谷の東側北寄りに立地しており、古代の掘立柱建物跡などが確認されている遺跡である。葛木遺跡第7次調査は、サービス付高齢者向け住宅建設に伴って実施した確認調査である。大分県立鶴崎工業高校の北約200mに位置しており、北側と東側が斜面で落ちる台地の縁辺部にあたる。調査は建物のエレベーター設置部分及び浄化槽設置部分に調査区を設定して行った。昨年度に土地売買に先立って行われた確認調査では、掘立柱建物跡が良好に検出され弥生時代の遺物が出土した。そのため建物部分については遺跡に影響がない設計であるが、エレベーター及び浄化槽に関しては掘削深度が深いため今回の調査となった。また浄化槽設置部分に関しては設置位置を確認調査結果によって変更可能であったため、遺構の希薄な部分に設置するために調査区を広げている。

2. 調査の概要

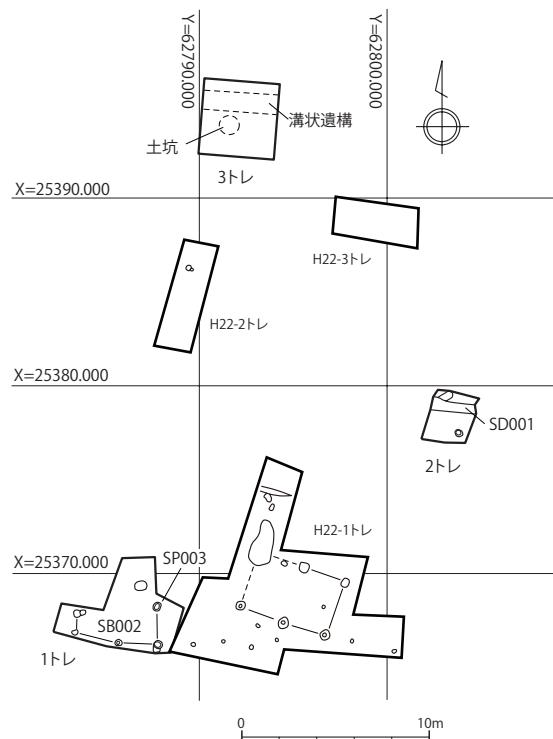
調査は、エレベーター設置部分の1トレ、浄化槽設置部分の2トレで行い、2トレで掘立柱建物跡が確認できたため、より遺構の希薄な箇所を確認するために北側に3トレを設けた。約0.3mの表土直下で明赤褐色粘土の安定地盤層が存在し、この明赤褐色粘土の上面で遺構を検出した。1トレでは、2基のピット・土坑と東西方向の溝状遺構SD001を検出した。現地での協議においてこれらの遺構がない部分にエレベーター設置が可能であるとの回答を得たことから、これら遺構に関しては一部の掘り下げに留まっている。溝状遺構SD001からは8世紀代の須恵器が出土した。2トレでは、掘立柱建物SB002を検出した。柱穴と柱穴の間に浄化槽が設置できることから、浄化槽設置によって削平されるおそれのある柱穴SP003のみを掘削した。遺物は土師器の細片が出土したのみである。3トレでは、1基の土坑と1条の東西方向の溝状遺構を検出した。遺構が広がっていたことから、浄化槽設置は不可能と判断して、遺構の掘削は行わず、遺物の取り上げのみ行ってすぐに埋め戻している。遺物は土坑から出土しており、古式土師器高环の坏部である。

3. まとめ

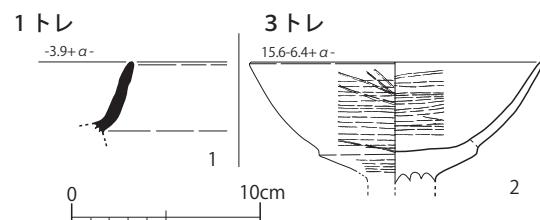
今回の調査では全体的に遺構が広がることが確認された。昨年度の確認調査では北半での遺構はほとんど確認されていなかったが、密度が低いながらも遺構が広がっていることが判明した。台地の先端部であるため、遺跡の縁辺部にあたるが、昨年度の確認調査と合わせて弥生時代から古代までの遺物が出土していることから、各時代の遺構が広がっていると考えられる。(松浦)



第52図 調査位置図 (1/5000)



第53図 遺構全体図 (1/400)



第54図 出土遺物実測図 (1/4)

9 猪野遺跡第5次調査

調査面積 83.5 m²

地域 A

1. 調査の経緯・立地と環境

猪野遺跡は、大分川と大野川の下流に挟まれた鶴崎台地上に立地し、弥生時代～中世までの遺構が展開する遺跡である。猪野遺跡第5次調査は、大字猪野字東角に所在し、宅地造成に伴って実施した本調査である。調査に先立ち 2010 年に行われた確認調査において遺構が良好に確認されたことから、造成工事の大部分については設計の変更を行い、遺跡の保存が図られているが、切り通しとなる道路部分と、要壁部分の 2 地点については工事掘削深度が深く、遺跡が破壊されることから、記録保存のための本調査を実施することとなった。また宅地化後には個人住宅の建設に伴い建物基礎の立会調査を実施している。道路部分を 1 区、要壁部分を 2 区、立会調査部分を 3 区としている。

2. 調査の概要

調査の結果、現地表下 0.2 ～ 0.3m で遺構面を検出した。遺構は、地表面より 0.2m と浅い地点で検出されるが、基盤となる層が黒色化（灰褐色）しているため、この面での遺構プランの確認は極めて困難であったことから、橙色土（地表面より 0.5m）まで掘り下げた後に、遺構の検出を行った。

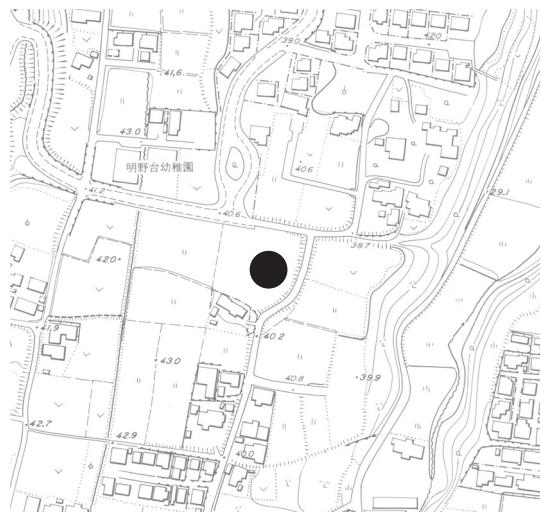
1 区では、調査区全面で多くのピットを検出し、調査区西端で南北方向の溝（5-1SD010）などを検出した。ピットは深さ 0.3 ～ 0.5m ものがほとんどで、柱痕が確認できるものもあることから、掘立柱建物を構成するものと考えられるが、調査区内では、明確な建物プランは確認できなかった。5-1SX008・SX016 は、直径 0.3 ～ 0.4m の隅丸方形をなし、深さ 0.9m 前後の深さをもつ。通有の掘立柱建物跡に比べて非常に入念な造作を行った柱穴である。両者は調査区内では建物としては展開しないことから、性格は不明であるが、出土遺物からみて、7 ～ 8 世紀の遺構と考えられる。その他、5-1SX003 からは、柱痕の下層から、刀子らしき金属製品が出土しており、祭祀的な行為を行った可能性がある。南北溝 SD010 は、幅約 0.8m、深さ約 0.5m の規模をもつ。土師器片が出土しており、古代の遺構と考えられる。この SD010 に切られる短辺約 1.4m、長辺約 2.2m を測る土坑状の遺構 SX028 が存在するが、出土遺物がなく時期は不明である。

2 区では、1 区と比較すると密度は低いが、ピット・土坑を数基、溝ないし土坑の可能性のある遺構（5-2SX001）などを検出した。5-2SK005 は径約 0.8 m、深さ約 0.4 m の規模の不整円形の土坑である。土師器壺 A や京都系土師器などが出土している。5-2SX001 は検出長約 1.1 m、幅約 0.7 m、深さ約 0.2 m の規模の溝ないしは土坑である。出土遺物がなく時期は不明である。

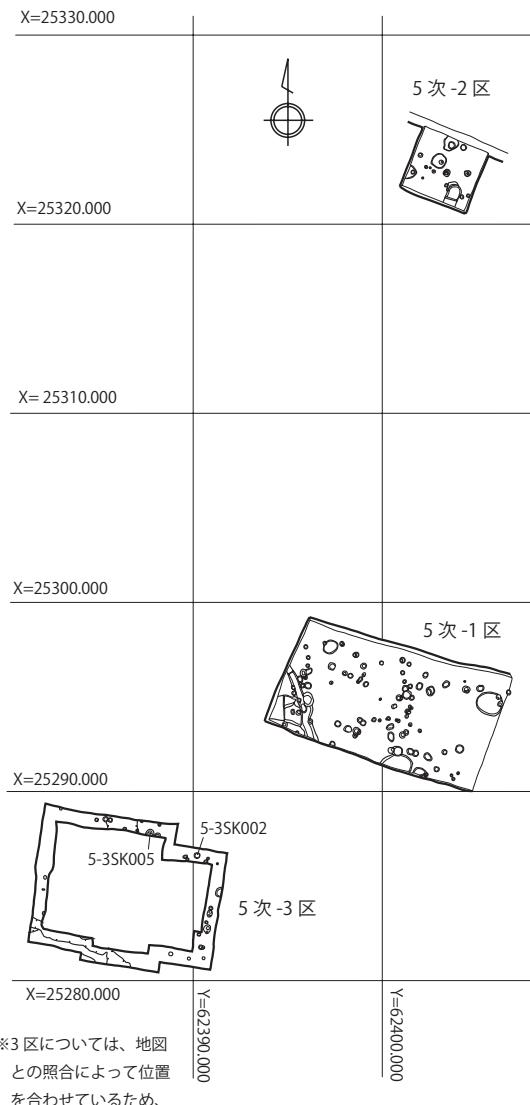
3 区では、北東部分は比較的密度が高いが、南西部分では比較

調査期間 11.05.09 ～ 11.05.10

調査担当 長直信



第 55 図 調査位置図 (1/5000)



※3 区については、地図

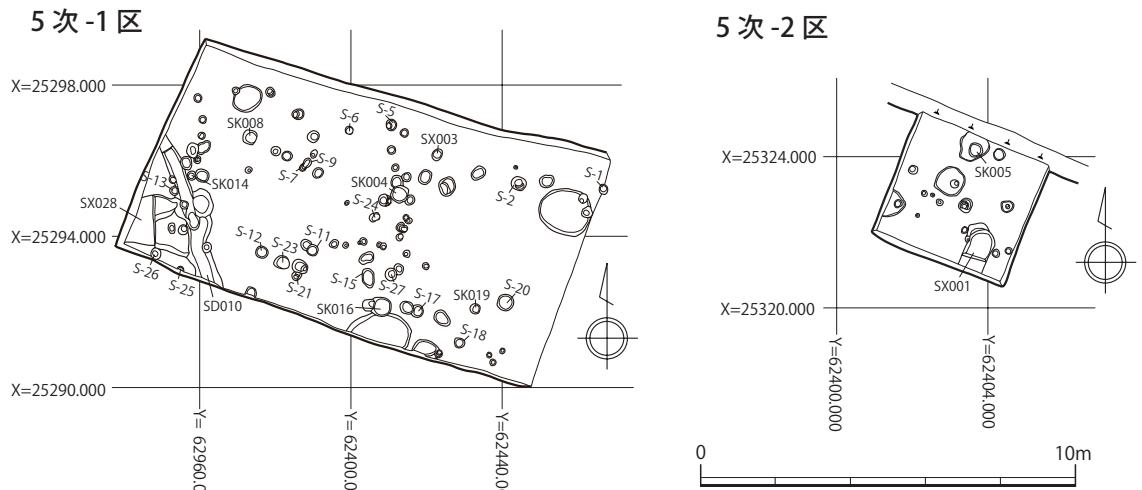
との照合によって位置

を合わせているため、

厳密に座標にのったも

のではない。

第 56 図 遺構全体図 (1/400)



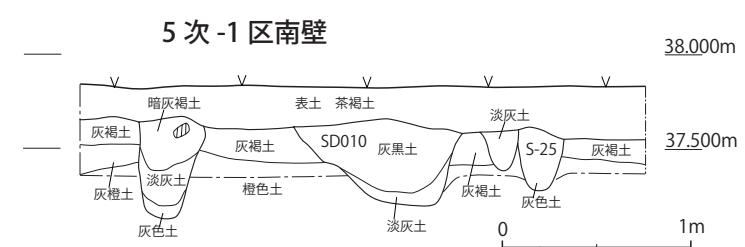
第57図 1・2区遺構全体図 (1/200)

的密度が低い。北東部分ではピット・土坑を数基検出し、南西部分では南東から北西方向の溝状遺構を検出している。土坑からは白磁碗や弥生土器が出土している。

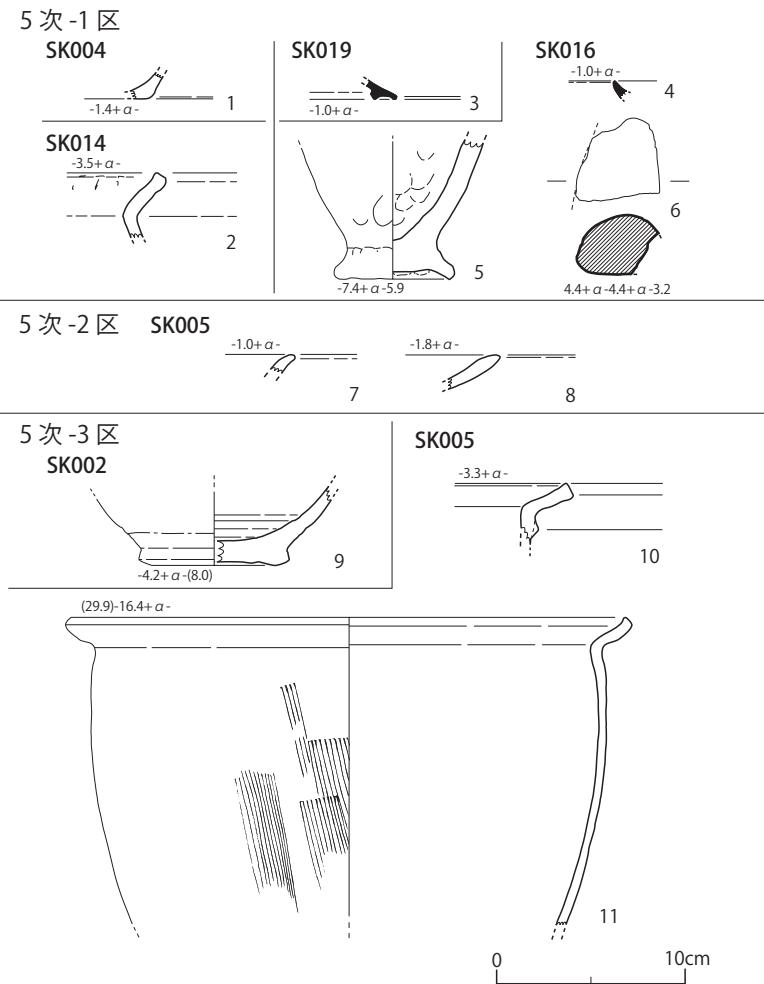
出土遺物は基本的には弥生土器が多いが、須恵器、土師器などの古代の遺物のほか、白磁、京都系土師器などの中世の遺物も出土している。1は、5-1SK004出土の土師器坏Aの底部である。2は5-1SK014出土の弥生土器甕口縁部である。3は5-1SK019出土の須恵器蓋口縁部である。4～6は5-1SK016から出土した。4は須恵器坏口縁部である。5は弥生土器甕底部である。6は安山岩製の石斧破片である。上部と下部が欠損している。7・8は5-2SK005から出土した。7は土師器坏A、8は京都系土師器皿である。9は5-3SK002出土の白磁碗底部である。10・11は5-3SK005出土の弥生土器甕である。

3.まとめ

今回調査を行った遺構からは、7～8世紀の土器片と弥生土器が出土することから、遺跡の主要時期はこれらの時期と考えられる。鶴崎台地上の遺跡は、地蔵原遺跡を除いて弥生時代の貯蔵穴群を主体とした弥生集落遺跡イメージがつよかつたが、近年の確認調査(葛木6次調査など)から、7世紀をはじめとする古代の遺構も面的に展開することが分かっている。今後は、弥生時代の集落(居住域)の確認と合わせて、古代遺構の展開の仕方やその性格付けが課題である。(長・松浦)



第58図 1区南壁土層図 (1/40)



第59図 出土遺物実測図 (1/4)

第4章 教育普及活動

①大友氏遺跡フェスタ 2011

大友氏ゆかりの史跡を巡る「大友府内旧跡めぐり」、大友氏館跡等の発掘現場での遺跡説明会、市民の皆さんが持ち寄ったお宝のいわれを講師の先生方に解説頂くイベントを開催した。

「大友府内旧跡めぐり 甲冑体験」

【日 時】 10月1日（土） 午前9時30分～正午

【場 所】 大友氏遺跡体験学習館 【参加者】 20名

【内 容】 大友氏遺跡体験学習館を出発し、大友氏ゆかりの旧跡を「大友歴史保存会・大友府内旧跡巡り部会」の皆さんの案内で散策した。また体験館では戦国時代の甲冑体験も行った。

「大友氏遺跡現地説明会」

【日 時】 10月2日（日） 午前9時30分～10時40分

【場 所】 大友氏館跡 【参加者】 120名

【内 容】 発掘調査中の大友氏館跡の状況や発掘された品々を公開するとともに、現在までの調査成果を担当者が分かり易く解説した。

「発見!! 大友お宝鑑定大会 in 赤レンガ館」

【日 時】 10月2日（日） 午後1時00分～午後4時00分

【場 所】 大分銀行赤レンガ館2F大ホール 【参加者】 70名

【内 容】 「あなたのお家のお宝鑑定します！」と題して、市民の皆さんが持ち寄ったお宝の価値やいわれを、目利き鑑定士（講師）の先生方に解説頂いた。



大友氏館跡現地説明会



大友お宝鑑定大会

②大分市文化財たより 2011年度号の発行 刊行日：平成23年3月15日

2011年度号は大分市内に残る「磨崖仏」をテーマにした。磨崖仏は丘陵等の岩壁に彫られた仏像のことで、現在、市内には大分川流域を中心に10ヶ所の磨崖仏が存在している。磨崖仏は、造仏した人々の願いに加え、岩肌に彫り込んだ技術の素晴らしさを私たちに教えてくれている。また、数百年の風雪に耐えながら、長い間人々の厚い信仰のもと大切に守られてきた文化財である。今回は、そんな「いのりの文化財」である「磨崖仏」を紹介した。

③大友氏遺跡体験学習館 平成23年度の活動状況 【総来館者数】 7428名

大友氏遺跡体験学習館は（以下、同館）は、展示解説や歴史教室に加え、各種イベントを充実させることにより、大友氏遺跡や大友氏について学習する場としての役割を担っている。同館の入館者数は、開館以来着実に増加している。特に、平成23年度の来館者の割合は前年度比4%増で、確実に周知されていることが分かる。開館4年目となる平成23年度は、イベント、歴史教室、体験工房・戦国工房を3本柱として各種「体験活動」を積極的に行ったことで、従来の歴史・遺跡爱好者に加え、家族連れや小・中学生の友人同士というような幅広い来客層を生み出すことができた。

【イベント】

企画展「大友氏を支えた家臣団」 平成23年5月3日～6月12日 【来館者】 977名

＜概要＞ 大友氏には、その存在を支えた有能な家臣団が大分の各所にいた。彼らは府内中心及びその周辺に居を構え、主君である大友氏歴代当主達を支えてきた。企画展ではそうした家臣団にスポットを当て、豊後を400年間治めた大友氏の歴史と、それを陰で、表で支え続けた家臣たちについてみていった。

『南蛮かぼちゃ』苗植え祭・収穫祭

平成 23 年 5 月 22 日・9 月 11 日

【参加者】 苗植え祭 47 名 収穫祭 67 名

＜概要＞ 戦国時代から伝わる「南蛮かぼちゃ」を育てることで、「食」と「歴史文化」を学ぶ。

夏休み子ども遊び選手権

平成 23 年 8 月 21 日 【来館者】 70 名

＜概要＞ 大友氏遺跡に関する「遊び」や「体験」を通して、楽しく郷土の歴史を学びながら、夏休みの楽しい思い出を作ってもらう。

高崎山のお城に登ろう 平成 23 年 11 月 13 日 【来館者】 65 名

＜概要＞ 大友氏の山城のひとつである高崎城への登山を通して、堅堀や曲輪などを体験してもらい、大友氏や高崎城などの歴史への関心を高めてもらう

【歴史教室】 入門編：全 3 回、通常編：全 6 回 【来館者】 425 名

＜概要＞ 入門編と通常編があり、入門編では大友氏や中世府内の発掘調査の成果の基本的な内容を学び、大友氏遺跡への関心を持ってもらう。通常編では、さらに大友氏遺跡について体系的に学び、興味や知識を高めてもらう。

【体験工房・戦国工房】 体験工房：全 9 回、戦国工房：全 3 回 【来館者】 606 名

＜概要＞ 体験工房は、子ども（小学生）または親子を対象に、戦国工房は成人を対象に、遺跡に関する様々なものの製作を通して、モノ作りの楽しさを体験し、それとともに大友氏遺跡や郷土の歴史への関心を深めてもらう。

体験工房：お守り犬、ゴム鉄砲、羽子板、かぶと作りなど

戦国工房：焼き物絵付け体験、ステンドグラス製作、など



かぶと作り体験

④遺跡説明会

鶴崎御茶屋跡第 2 次（法心寺） 鶴崎の法心寺の発掘調査で、18 世紀前半から 19 世紀中頃の庫裏基壇及び礎石建物や、17 世紀初頭の加藤清正による創建当初の庫裏基壇が良好に確認されたため、地域の方々を対象として現地での遺跡説明会を開催した。

【開催日時】 2011 年 8 月 21 日（日）、9 月 19 日（祝）

【発掘場所】 大分市鶴崎 雲鶴山法心寺 【参加者数】 160 人



法心寺現地説明会

古国府遺跡群第 15 次（南大分小学校） 南大分小学校校舎建替えの発掘調査で、古墳時代前期の方形区画溝や 7 世紀代の大規模掘立柱建物が良好に確認されたため、現地での遺跡説明会を開催した。

【開催日時】 2011 年 9 月 4 日（日）

【発掘場所】 南大分小学校 【参加者数】 225 人



南大分小学校現地説明会

史跡元町石仏 平成 23 年度から始まった元町石仏の保存整備についての進捗状況や石仏の状態などの概要について地元の方々に対して説明会を開催した。

【開催日時】 2012 年 3 月 28 日（水）

【開催場所】 元町石仏 【参加者数】 15 人

第5章 受贈図書目録

北海道	函館市教育委員会	特別史五稜郭跡	特別史五稜郭跡 復元整備事業報告書
秋田県	大館市教育委員会	男神遺跡発掘調査報告書 大館市内遺跡詳細分布調査報告書	土飛山館跡発掘調査報告書 大館市内遺跡詳細分布調査報告書(2)
	大館市郷土博物館	大館郷土博物館研究紀要 火内 第7号/第8号/第9号/第10号	
福島県	鳴門市教育委員会	天河川附社古墳群発掘調査報告書	
茨城県	石岡市教育委員会 筑波大学	市内遺跡調査報告書 第6集 筑波大学 先史学・考古学研究 第22号	新池台遺跡
栃木県	足利市教育委員会	史跡柳崎寺遺跡(法界寺跡) 発掘調査概要 II 掘り出された足利の歴史	県史跡 八幡山古墳群 足利の石造物
埼玉県	寄居町遺跡調査会	町内遺跡14 中小前田遺跡(第7次) 東伴塙場遺跡(第7次) -塚越稲塚古墳-	庚塙遺跡 稲荷塚遺跡(第2次)
千葉県	市川市教育委員会 芝山町教育委員会 国立歴史民俗博物館	平成12~18年度 市川市内遺跡発掘調査報告 花ヶ谷台遺跡 第1地点発掘調査報告書 御田台遺跡(並岡1014-12地点) 国立歴史民俗博物館研究報告 第163集/第164集/第165集/第167集/第168集/第169集/第170集/第171集 国立歴史民俗博物館年報6	平成16~20年度 不特定遺跡発掘調査報告 山/後遺跡 第10地点
東京都	文化庁 独立行政法人 東京文化財研究所 世田谷区郷土資料館 千代田区教育委員会 墨田区教育委員会 三鷹市教育委員会/三鷹市遺跡調査会 府中市教育委員会/府中市遺跡調査会	我が国の文化政策 平成23年度 白井磨崖仏の保存修復に関する調査報告書 等々力渓谷展 渓谷の形成をめぐって 東京都千代田区 二番町遺跡 東京都墨田区 隆奥弘前藩津軽家上屋敷跡 天文台構内古墳1 武藏国府の調査 武藏国府跡 御殿地地区(仮称)の調査 武藏国分寺跡発掘調査概報37 国分寺市埋蔵文化財調査年報 ホイアン国際シンポジウム報告集Vol.14 古代 第123号/第124号/第125号 本ノ木遺跡 本ノ木遺跡・卯ノ木泥炭層遺跡 2008年度発掘調査報告書 東京都千代田区 四番町遺跡II 武藏国府関連遺跡調査報告 東京都千代田区 神田淡路町二丁目遺跡 世界遺産 年報2012 埋蔵文化財調査要覧 アジア戦国大名大友氏の研究 中世都市研究16 都市のかたち 権力と領域	独立行政法人 東京文化財研究所 概要2011 宇津木家書簡集(二) 世田谷叢書第五集 武藏国府の調査 41 武藏国府関連遺跡調査報告42 国指定史跡 武藏国分寺跡 附東山道武藏路跡 穗高古墳群 2009年度墳丘測量調査・現状確認調査報告書 穗高古墳群 2010年度 発掘調査報告書
	国分寺市教委/国分寺市遺跡調査会 昭和女子大学 早稲田大学 国学院大学		
	東京急行電鉄/東急建設/機四門 学校法人文化学園 機四門 住友商事(株) 大成エンジニアリング(株) 淡路町二丁目再開発組合 機四門 日本ユネスコ協会連盟 日本文化財保護協会		
神奈川県	神奈川県教育委員会 逗子市教育委員会	郷土史かなかわ 神奈川県逗子市 埋蔵文化財緊急調査報告書7	
新潟県	新潟県立歴史博物館 新潟市教育委員会 胎内市教育委員会 弥彦村教育委員会	新潟県立歴史博物館年報 第10号 北前舟の時代館 新潟市文化財 旧小澤家住宅 黒川氏城館遺跡群V 桶筒遺跡	新潟県立歴史博物館年報 第11号 新潟市旧小澤家住宅整備工事報告書 市内遺跡IV
富山県	砺波市教育委員会	砺波市成遺跡発掘調査報告II 砺波市遺跡詳細分布調査報告7 『報告編』 小杉町埋蔵文化財発掘調査一覧 1994年度 小杉町埋蔵文化財発掘調査概要 1995年度 天池C遺跡・水蔵G遺跡・水蔵場H遺跡発掘調査概要 下伏野遺跡調査報告II 岩坪岡田島遺跡調査概要II 射水市内遺跡発掘調査報告III	砺波市遺跡詳細分布調査報告7 『遺跡地図編』 小杉町埋蔵文化財発掘調査一覧 2003年度 小杉町埋蔵文化財発掘調査一覧 2004年度 石塚遺跡調査概要II 市内遺跡調査概要XX
石川県	能登町教育委員会 野々市町教育委員会	松波城跡庭園跡 平成18~22年度発掘調査報告書 御経塚跡III 御経塚跡IV 郷ノボタ遺跡 ふるさと歴史シンポジウム 「いまよみがえる末松庵寺」 額見町遺跡VI(製鉄・鍛冶関連遺物の報告) 小松城跡発掘調査報告書	三日市A遺跡1 三日市A遺跡 二日市イシバチ遺跡 小松市内遺跡発掘調査報告書IV
福井県	福井県埋蔵文化財調査センター	年報25 平成21年度- 中角遺跡4-II・III・区下層編- 福井城跡 大月前山遺跡 西郷手下遺跡発掘調査報告II	府中石田遺跡第1分冊本文編 木崎遺跡一般県道小浜イター線道路改良工事に伴う調査- 福井城跡・足羽川激甚災害対策特別緊急事業に伴う調査- 舟寄福島通遺跡
山梨県	甲府市教育委員会	甲府城下町遺跡V 武田城下町遺跡VII 史跡武田氏館跡XIII 塙部遺跡 塙部遺跡(朝日小学校構内)	甲府城下町遺跡IV 甲府市内遺跡VI 史跡 武田氏館跡XIV 武田城下町遺跡III 武田城下町遺跡VI
岐阜県	岐阜市教育委員会 岐阜市教育委員会/株式会社二友組 関市教育委員会	平成21・22年度 岐阜市 市内遺跡発掘調査報告書 上尻毛高田遺跡 関市内遺跡発掘調査報告書 平成18~19年度 関市内遺跡発掘調査報告書 平成20年度	関市市内遺跡発掘調査報告書 平成19~20年度
静岡県	磐田市教育委員会	遠江田中寺跡~平成22年度発掘調査のあらまし~ 市内遺跡調査報告書 勾坂中下4遺跡 発掘調査報告書 第8・9次調査 伊豆の国市埋蔵文化財調査報告V 二本ヶ谷積石塚群 保存整備事業報告書 掛之ヶ遺跡 写真図版編	鎌田・鎌影遺跡 第19・20次発掘調査報告 庚申塚古墳 発掘調査報告書
	伊豆の国市教育委員会 浜松市教育委員会 袋井市教育委員会		
愛知県	名古屋市教育委員会	朝日遺跡発掘調査報告書 堀越町遺跡 第2次発掘調査 豊田市あゆみ 豊田市60周年記念特別展 祝い・宴・贈り物・芸能- 国分寺北遺跡1 愛知県長久手町 三ヶ峯第7号窯発掘調査報告書 研究紀要 第17輯	特別史跡名古屋城跡発掘調査報告書 水没遺跡 第2・3・5・6次調査
	豊田市教育委員会 豊田市郷土資料館 豊川市教育委員会 長久手市教育委員会/瀬戸市文化財振興財団 瀬戸市文化振興財団		

日進市教育委員会/瀬戸市文化振興財団 稻沢市教育委員会 愛知学院大学 南山大学人類学博物館 名古屋大学	岩崎城跡 第四次発掘調査報告書 尾張国分寺跡発掘調査総括報告書(1) 宮西遺跡の発掘記録5 南山大学人類学博物館紀要 第29号 名古屋大学文学部研究論集170 史学57	
三重県 三重県埋蔵文化財センター 津市教育委員会	鳥居本遺跡 (第4次) 発掘調査報告 中斎遺跡 (第3・4次) 発掘調査報告 津城跡発掘調査報告 山ノ下古墳群B支那(第3次) 発掘調査報告 平成20年度市内遺跡試掘・確認調査報告 平成21年度市内遺跡発掘・確認調査報告 津市文化財年報4 津市文化財年報5 平成21年度 九鬼嘉隆 戦国最強の水軍大将-	上県 2号窓跡 久居城下町遺跡(第10次) 発掘調査報告 名勝「三多気の桜」再生のための指針 国指定史跡 谷川土清旧宅保存修理工事報告書 三重県指定史跡津城跡保存管理計画 多気城下絵図集成 多気北畠道遺跡第32次調査報告—上多気六田地区第6次— 多気北畠道遺跡第31次調査報告—上多気六田地区第5次— 鳥羽城跡 (第5次) 発掘調査報告-牢屋跡周辺の調査-
鳥羽市教育委員会		
滋賀県 東近江市教育委員会	平成22年度 市内遺跡の調査 芝原南遺跡 八日市壺焼谷遺跡 金貝遺跡 中沢遺跡 (20.21次) 東近江町の遺跡 五個荘地区的遺跡探査 滋賀県遺跡発掘調査報告書II 関津遺跡発掘調査報告書 南志賀遺跡発掘調査報告書III	蒲生地区的遺跡探査 愛東地区的遺跡探査 湖東地区的遺跡探査 永源寺地区の遺跡探査 穴太遺跡(南菊尾地区) 発掘調査報告書 穴太遺跡(南川原地区) 発掘調査報告書
大津市教育委員会		
京都府 京都府埋蔵文化財調査研究センター 城陽市教育委員会 京都橘大学 同志社大学歴史資料館 国宝修理装潢師連盟	京都府埋蔵文化財情報 第114号/第115号/第116号 城陽市埋蔵文化財調査報告書 第62集 京都橘大学 文化財調査報告 2010 岩倉忠在地遺跡II 装潢史	城陽市埋蔵文化財調査報告書 第63集 同志社大学歴史資料館 館報 第14号
大阪府 大阪市博物館協会 大阪文化財研究所	長原遺跡発掘調査報告XX 長原遺跡発掘調査報告 第21冊 瓜破遺跡発掘調査報告VII 加島1丁目所在遺跡発掘調査報告 大和川今池遺跡発掘調査報告 北畠公園遺跡発掘調査報告 上本町遺跡発掘調査報告II 苅田4丁目所在遺跡発掘調査報告III 西宮原遺跡発掘調査報告 中崎町遺跡発掘調査報告 安満遺跡 平成22年度確認調査速報 鶴上遺跡群35	大国遺跡発掘調査報告 加美遺跡発掘調査報告III 長原遺跡東部地区発掘調査報告 XIV 長原遺跡発掘調査報告 IX 喜連東遺跡発掘調査報告 II 平野馬場遺跡発掘調査報告 苅田4丁目所在遺跡発掘調査報告 II 大阪文化財研究所 研究紀要第13号 山之内遺跡発掘調査報告IV 桑津遺跡B地点発掘調査報告 第36回全国遺跡環境整備会議 古墳の保存と活用
高槻市教育委員会		
高槻市立今城塚古代歴史館 八尾市教育委員会	高槻市立 今城塚古代歴史館 常設展示図録 高安千塚 高安古墳群調査報告書-平成22年度出土遺跡整理調査 やおの川石器時代と縄文時代	高安千塚シンボジウム記録集16 八尾市内遺跡平成22年度発掘調査報告書
四条畷市教育委員会 阪南市教育委員会 熊取町教育委員会 大阪大学	清瀬街道発掘調査報告書-四条畷市大字下田原所在一 向出遺跡評価検討委員会報告書 熊取町遺跡群発掘調査概要報告書 XXV 長尾山古墳第6次・第7次発掘調査概報	阪南市埋蔵文化財発掘調査概要XXV 大阪大学埋蔵文化財調査室 年報2
兵庫県 神戸市教育委員会	楠・荒田町遺跡 兵庫県道第52次発掘調査報告書 西岡本遺跡第8次発掘調査報告書 上池遺跡第3次発掘調査報告書 平成22年度 霧井遺跡第33次発掘調査報告書 平成20年度 神戸市埋蔵文化財年報 兵庫津遺跡第51次発掘調査報告書 品川御台場築造から和田岬砲台へ 三木合戦を知る 測量調査報告書	頭高山遺跡発掘調査報告書-中世山林寺院の調査- 郡家遺跡第85次 発掘調査報告書 旧神戸外国人居留地遺跡 発掘調査報告書 神戸市埋蔵文化財分布図 たるみの遺跡 和田岬砲台の潮流を探る 出合遺跡 第34.35.37.39.40.43.44次埋蔵文化財発掘調査報告書
三木市教育委員会 赤穂市教育委員会 南あわじ市教育委員会 尼崎市教育委員会	南あわじ市埋蔵文化財調査年報IV 2007年度 平成21年度 尼崎市内遺跡発掘調査等概要報告書 尼崎市埋蔵文化財調査年報 平成17年度	高荻遺跡 尼崎市埋蔵文化財 遺跡分布地図及び手引き
伊丹市教育委員会 姫路市埋蔵文化財センター	有岡城跡発掘調査報告書XV 第294.305.310次調査 姫路城城下町跡 第254次 南部中堀発掘調査報告書	
奈良県 奈良文化財研究所	理蔵文化財ニュース 142/143/144/145 遺跡内外の環境と景観～遺跡整備と地域づくり～ 飛鳥遺跡 のこされた至宝たち 夏季巡回展 鋳造技術の考古学 橿原考古学研究所紀要 考古學論叢 第34冊 橿原考古学研究所 年報36(2009年度) 未永雅雄先生旧蔵資料集第3集 菅谷所長と語る！平城京とその時代 考古資料における三次元デジタルアーカイブの活用と展開 七条御所近世墓地-平城京右京七条三坊・四坊- 平城京右京三条二・三坊 菅原東遺跡 川西根成跡 飛鳥京跡IV 脇本遺跡 I 平城京三条大路 I 平城京三条大路 II 奈良県遺跡調査概報 2010年度(第一回) / (第二回) / (第三回) / (第四回)	星々と日月の考古学 冬期企画展 飛鳥の考古学2011 重要文化財 橿原遺跡出土品の研究 長谷白土遺跡 八田遺跡 平城京右京三条三坊・四坊 槙山古墳・寺戸遺跡 横山堂塙内遺跡 日笠ワシダ遺跡 藤原京右京十二条二坊・三坊 三河遺跡 II 龍田陣跡 大和の古墳 I 大和の古墳 II 平成23年度秋季企画展 弥生エッセンス～その技と美～
田原本町教育委員会	田原本町文化財調査年報19 2009年度 田原本町文化財調査年報20 2010年度 史跡赤土山古墳整備事業報告書	天理市文化財調査年報 平成21年度
天理市教育委員会	天理市埋蔵文化財調査概報 平成18年度(2006) 史跡 芽原大墓古墳 第1~4次発掘調査概要報告書 平成23年度特別展 ヤマトの王と居館	平成23年度企画展 祈りの世界
桜井市教育委員会 桜井市立埋蔵文化財センター 桜井市文化財協会	櫻井市内遺跡発掘調査報告書 2010年度 元興寺文化財研究所研究報告2009・2010 帝塚山大学考古学研究所研究室報告 VII 下野矢の3,000年 仮想・物理遺跡の発掘調査	金剛山寺の版本 帝塚山大学考古学研究所研究室報告 XIII 古事 天理大学考古学・民俗学研究室紀要 第14冊/第15冊
元興寺文化財研究所 帝塚山大学考古学研究所 天理大学		

奈良大学 由良大和古代文化研究協会	文化財学報 第二十九集 研究紀要第16集	
和歌山県 和歌山市教育委員会 有田川町教育委員会 紀の川市教育委員会	和歌山市内遺跡発掘調査概要報一平成21年度一 平成22年度 有田川町埋蔵文化財調査年報 紀の川市内遺跡発掘調査概要報 平成21年度	車駕之古跡古墳
鳥取県 倉吉市教育委員会	白市遺跡発掘調査報告書 倉吉市内遺跡分布調査報告書1 6	西平遺跡発掘調査報告書 伯耆国府関連遺跡 古神宮地区 第3次発掘調査報告書
普段寺古墳群調査団 烏取大学 島根大学	普段寺古墳群Ⅲ 第8次調査概要報告書	
島根県 島根県古代文化センター 松江市教育委員会 松江歴史館 出雲市教育委員会	四隅突出型埴丘墓と弥生墓制の研究 千町条里制遺跡他発掘調査報告書 平成23年冬の企画展 江戸時代へ行こう！ 史跡西谷墳墓群整備事業報告書 高岡II遺跡	古代文化叢書8 山陰地方における古墳群と地域社会 出雲国分寺跡発掘調査報告書 史跡田儀櫻井家たたら製鐵遺跡総合ガイドブック
浜田市教育委員会 安来市教育委員会 津和野町教育委員会 出雲弥生の森博物館	浜田市遺跡地図Ⅲ(三隅自治団) ガジズタ古墳 本郷上口遺跡 津和野城下町遺跡3 森村地区Ⅱ 史跡 山陰道(野坂越・徳城越) 保存管理計画書 研究紀要第1集	安来市内遺跡調査報告書1 津和野藩主亀家墓所 名勝 旧隅氏庭園主屋等保存修理工事報告書
岡山県 岡山県教育委員会	岡山県埋蔵文化財報告41 美作国府跡・小田中遺跡・山北遺跡 八絨古墳群 山津田遺跡	田益田中遺跡2 高岡遺跡2・金山屋敷遺跡 二本木遺跡・小塚の谷古墳・宇屋遺跡・宇屋古墳・田尻遺跡
岡山市教育委員会	岡山市埋蔵文化財センター年報10 2009(平成21)年度 岡山市埋蔵文化財センター研究紀要 第3号	津島江道(給食棟・南棟校舎)遺跡 岩倉遺跡 史跡賀田庵寺跡環境整備事業報告書
倉敷市教育委員会 岡山理科大学	中島遺跡 広江・浜遺跡 南山21号墳 シリーズ『岡山学』8 高梁川を科学するpart1 半田山牛砲台跡発掘調査報報	第12回『岡山学』シンポジウム 高梁川 流域を科学するpart2 佐山新池窓跡群第1次発掘調査概報
広島県 福山市教育委員会	合ノ坪遺跡 尾ノ上古墳 福山城跡 前原遺跡 芦田駅家推定地の調査 備後国府発掘 千人塚古墳 帝釈峠遺跡群発掘調査年報XXV	福山市内遺跡発掘調査概要V 2009年度(平成21年度) 福山城跡 泉山城跡 府中市内遺跡15 備後国府跡(ツジ遺跡・ドカラヨ遺跡)ほか 府中市内遺跡14 備後国府跡(ツジ遺跡・ドカラヨ遺跡)ほか
府中市教育委員会		
東広島市教育委員会 広島大学 広島大学大学院文学研究科		
山口県 山口県埋蔵文化財センター	陶墳 第24号 田ノ浦遺跡 II-平成20・21年度調査- 古大里遺跡	トントン古道跡 奥ノ坊遺跡 東禅寺・黒山遺跡VI
下関市教育委員会	下関市埋蔵文化財年報3-平成20年度の記録- 下関市埋蔵文化財年報4 長門国府跡 人骨編 研究紀要 第15号	秋根遺跡発掘調査報告書 延行条里遺跡(伊倉地区) 発掘調査報告書1 延行条里遺跡 八幡遺跡 下有富遺跡 觀音堂古墳 平成23年度企画展 弥生時代の拠点集落
防府市教育委員会 山口県萩美術館・浦上記念館	下関市立考古博物館年報1 6 平成22年度 防府市内遺跡発掘調査報告書 平成21年度 「龍人伝説」への道 三輪休雪展 「日本のわざと美」展	史跡 秋往還 三田尻御茶屋保存修理工事報告書 婆娑羅・祝宴の器
土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム 徳島県埋蔵文化財センター	浜出祭調査報告書1(資料編) 真朱 第9号 庄(庄・歳本)遺跡 東州津遺跡	土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム 研究紀要 第6号 徳島県埋蔵文化財センター年報 Vol.21 2009年度 宮/本遺跡II 第一分冊/第二分冊 延命遺跡(1) 《本文・挿図篇》 / 《観察表篇・写真図版》
徳島市教育委員会 藍住町教育委員会	観音寺遺跡III(遺構・遺物篇)<第一分冊>/<第二分冊>/<第三分冊>/<第四分冊>/<第五分冊> 徳島市埋蔵文化財発掘調査概要20 勝瑞館跡15次発掘調査概要報告書	
香川県 高松市教育委員会	空港跡地遺跡 中林遺跡 二番丁小学校遺跡	奥の坊遺跡群VI(奥の坊遺跡VI区) 高松市内遺跡発掘調査概報 平成22年度国庫補助事業
愛媛県 愛媛県埋蔵文化財センター 今治市教育委員会	松木広田遺跡第3.6.7次調査 伊予国分寺跡第5次調査 市内遺跡試掘確認調査報告書XXXII 市内遺跡試掘確認調査報告書XXXI	愛比丸 平成22年度年報 脇中屋遺跡 小原角田遺跡第4次調査 登畠遺跡第3次調査 上徳堅田遺跡 史跡 金鳥城跡
松山市教育委員会 西予市教育委員会 松野町教育委員会 鬼北町教育委員会	樟味四反地遺跡-19次・20次調査- 宇和盆地の古墳文化研究 I 河後森城跡環境整備事業概要報告書IX 平成23年度鬼北町歴史シンポジウム もう一つの弥生文化	
高知県 高知県文化財団埋蔵文化財センター	高知県埋蔵文化財センター年報 第20号 2010年度 祈年遺跡 I 第1分冊 1~VII区 竹林寺跡 高知城跡	西野々遺跡II 西野々遺跡III 花宴遺跡
福岡県 九州国立博物館	白磁を飾る青一朝鮮時代の青花 名品でたどる室町から桃山の茶 開館5周年特別展 馬 アジアを駆けた二千年 誕生！中国文明 湖の国の名宝展 浦船津江頭遺跡III 矢加部町屋敷遺跡III 伊良原II	ゴッホ展 没後120周年 Van Gogh 邪馬台国 九州と近畿 東風西声 九州国立博物館紀要5号 パリに咲いた古伊万里の華 井手ヶ浦窓跡郡 第2次調査 平原2号墳 平原遺跡 福岡県埋蔵文化財発掘調査年報 平成21年度
福岡県教育委員会		
九州歴史資料館	九州歴史資料館 研究論集3 6	大宰府政府周辺官衙跡II
福岡市教育委員会 北九州市芸術文化振興財団	九州歴史資料館年報 平成22年度 福岡市埋蔵文化財センター年報 第29号 津田神社遺跡 埋蔵文化財調査室年報2 7 平成21年 研究紀要 第2.5号 浜遺跡 (第4~第7地点の調査) 長浜遺跡第3地点 城野遺跡1 (1A・1B区の調査) 小倉城三ノ丸跡第5地点 峠遺跡第4次調査 店屋遺跡 山田遺跡2 (2区・3区)	長野コイトヨ遺跡3 長野尾登遺跡第2地点N区・第4地点D区 長野尾登遺跡第2地点N区 長野尾登遺跡第2地点(M3・M5区) 長野小西田遺跡4 伊崎遺跡第2地点5区 山本遺跡 高槻遺跡 第1.3地点 小倉城三ノ丸跡第6地点4 (3区調査) 峠遺跡第5次調査1区

北九州市立自然史・歴史博物館 久留米市教育委員会	小倉城三ノ丸跡第8地点 重留遺跡第8～15地点 小倉城三ノ丸跡第9地点 北九州市自然史・歴史博物館 研究報告 筑後國三瀬郡衛跡VI 古賀遺跡 第1・2次調査 筑後國府跡 第222・229・233次調査報告— 傑原侍屋敷遺跡 第14次調査 筑後國府跡 第239次発掘調査報告 久留米城外郭遺跡 第15次発掘調査報告 二本木遺跡 第27次調査 太宰府市民遺産活用推進計画 宝満山遺跡群 第31,32,33,34,35,36,37,38,39,40次調査- 大宰府の民俗1 馬場代2号墳 長井尾ノ花遺跡・長井丸尾遺跡 平成23年度特別展 弥生時代の下轡田村 平成21年度大牟田市市内遺跡発掘調査報告 柳田遺跡 阿志岐城跡II 朝倉市文化財年報(平成20年度) 朝倉市内遺跡等分布調査報告書 黒川院I むなかたの文化財 概観 田熊石畑遺跡 三沢北中尾遺跡4地点 小板井蓮輪遺跡2 小板井屋敷遺跡2 千鶴下鶴遺跡2 小郡遺跡14・15・16・17 尾島町岡遺跡II 筑後市内遺跡群XIV	長野尾倉遺跡第2地点 大手町遺跡第9地点 石田遺跡第2地点 久留米市埋蔵文化財調査集報 X III 坂本繁二郎生家保存修理工事報告書 二本木遺跡群IV 二本木遺跡 第24次調査 平成22年度久留米市内遺跡群 筑後國府跡 平成22年度発掘調査報告 太宰府市条坊跡41-第153,195,201,215,243,262,279次調査- 高来小月堂遺跡・高来井正丸遺跡・高来殿屋敷遺跡 平成23年度企画展 京築地方の近世書家 白銀七ツ家遺跡II	
太宰府市教育委員会			
太宰府市文化ふれあい館 行橋市教育委員会			
行橋市歴史資料館 大牟田市教育委員会 添田町教育委員会 筑紫野市教育委員会 朝倉市教育委員会			
宗像市教育委員会			
小郡市教育委員会			
筑後市教育委員会			
若宮市教育委員会 那珂川町教育委員会			
香春町教育委員会 川崎町教育委員会 福智町教育委員会 九州大学大学院 九州大学総合研究博物館			
福岡大学 七隈史学会			
佐賀県 佐賀県教育委員会	東畑瀬遺跡3 東畑瀬遺跡6G・7・9区 小ヶ倉遺跡 入道遺跡 九郎遺跡 佐賀県の中世城跡 第一集 文獻史料編 特別史跡「名護屋城跡並びに陣跡」 名護屋城跡 佐賀市埋蔵文化財本発掘調査報告書 2010年度 佐賀市埋蔵文化財確認調査報告書 2008年度 西山田天神遺跡 3区の調査 西中野遺跡XII 67区の調査 西中野遺跡XIII 11区の調査 西中野遺跡XIV 13・39・40・45区の調査 西中野遺跡XV 63～66区の調査 中原二本谷籠遺跡 1区の調査 唐津市内遺跡確認調査 (26) 星賀城塞群III 獅子城跡III-平成12～21年度- 波多城跡-試掘調査報告書- 長部田城跡 牟田辺遺跡 第IV次 牟田辺遺跡 第VI次 牟田辺遺跡 第V次 高麗谷窯跡 三年山遺跡 板屋上遺跡 板屋上遺跡 多久城下町遺跡 大工田遺跡 別府遺跡 名越田遺跡 八ヶ溝遺跡 茶園原遺跡 高木川内遺跡 四下大丹遺跡 西の原西遺跡 宮ノ浦遺跡 市内遺跡確認調査概要報告書III 野田遺跡 利田柳遺跡 大般分山下遺跡筒口山下の中世石塔群 土生遺跡 峯家文書 天保四年『赤子養育方記録』	仁田古墳群II 中原遺跡V 11区～13区の弥生時代・古墳時代墳墓の調査 藤木遺跡II 1区・6～14区の調査 藤木四本杉遺跡V 2・3・13・14・16・17区・19～25区の調査 徳永遺跡群XX 徳永遺跡28区 東名遺跡群I 東名遺跡1区 繩文早期遺跡の調査 東名遺跡群II 東名遺跡2次・久富二本杉遺跡 上恒安遺跡7区 神野二本松遺跡3 5・6区の調査 唐津市内遺跡確認調査(27) 桜馬場遺跡(2) 唐津城跡(V) 岸岳古窯跡群III 西ノ谷遺跡 岡遺跡 桐岡遺跡 仁位所遺跡 中小路遺跡 <I> 中小路遺跡 <II> 広田遺跡 撰分B遺跡 東の原遺跡 八ヶ溝遺跡発掘調査概要報告書 八ヶ溝遺跡発掘調査概要報告書II 八ヶ溝遺跡発掘調査概要報告書III 合六遺跡 別府遺跡 多久市内遺跡発掘調査報告書(1) 平成5～7年度の調査 切畑遺跡	
唐津市教育委員会			
多久市教育委員会			
神埼市教育委員会			
鹿島市教育委員会 小城市教育委員会 玄海町教育委員会			
長崎県 長崎県教育委員会	佐世保市教育委員会 平戸市教育委員会 諫早市教育委員会 対馬市教育委員会 壱岐市教育委員会 松浦市教育委員会 五島市教育委員会	八幡山城跡 三川内西窓跡市内遺跡範囲確認調査 市内遺跡確認調査報告書X 西常盤貝塚II 旧金石城庭園保存整備工事報告書 特別史跡 原の辻遺跡 鷹島 五島市の文化財	宇和盆地の古墳文化研究I-河内井戸1号墳発掘調査報告- 松浦市鷹島海底遺跡 総集編
熊本県 熊本県立裝飾古墳館分館 溫故創生館	鞠智城跡-第31次調査報告-	鞠智城とその時代-平成14～21年度「館長講座」の記録-	

熊本市教育委員会	熊本市埋蔵文化財調査年報 第12号 平成20年度 熊本市埋蔵文化財発掘調査報告集 平成21年度 長嶺遺跡群 II-第14次調査区発掘調査報告書- 国分寺跡 I-国分寺跡第19次調査区発掘調査報告書- 池辺寺跡XII-平成20年度発掘調査報告書- 平成23年度企画展 西海道と肥後国 柳町遺跡 吉丸前遺跡 玉名市干拓開発施設調査報告書 史跡人吉城跡 保存管理計画書 第2版 菊鹿町検地帳集 (一) 菊鹿町検地帳集 (二) 菊鹿町検地帳集 (三) 方保田東原遺跡13-10次調査分指定区域内遺構確認調査 名勝不知火及び水島保存管理計画 曾畠貝塚-慶応義塾大学資料再整理報告- 宮山遺跡 II 南関城跡IV (鷹/原城跡)-付・南関御茶屋跡周辺遺跡- 考古学研究室報告 第46集 ナガラ原東貝塚7	神水遺跡XII-第42次調査区発掘調査報告書- 平成18年度 植木町内遺跡発掘調査報告書 西南戦争遺跡・田原坂第1次調査 瓜尾遺跡 向原遺跡 池辺寺跡XIII-平成21年度発掘調査報告書- 両迫間日渡遺跡 玉名市内遺跡調査報告書VII 平成21年度の調査
熊本市立熊本博物館 玉名市教育委員会		菊鹿町検地帳集 (四) 菊鹿町検地帳集 (五) 菊鹿の石造物 方保田東原遺跡14 第55次発掘調査報告書
人吉市教育委員会 菊鹿町教育委員会		
山鹿市教育委員会 宇城市教育委員会/八代市教育委員会 宇土市教育委員会 阿蘇市教育委員会 南関町教育委員会 熊本大学文学部考古学研究室		熊本大学埋蔵文化財調査室年報 2009年度
大分県 大分県埋蔵文化財センター	井尻日焼田遺跡 慈眼山遺跡 塚本遺跡発掘調査報告書 おおいたの歴史と文化 収蔵品目録 美術・工芸1 収蔵品目録 歴史1 収蔵品目録 歴史2 資料館研究紀要 第16号 坂手隈城跡 中津城跡2 吹上IV-6次調査の記録- 求来里の遺跡 I 町ノ坪遺跡B区の調査 求来里の遺跡 II 金田遺跡の調査 求来里の遺跡 III 小西遺跡の調査 求来里の遺跡 寺ヶ迫遺跡 鍛冶屋廻り遺跡 中河原遺跡-2次調査の概要- 葛原遺跡6次 大行事跡2次 慈眼山遺跡7次 紙園原遺跡 II (近世墓編1) 市内遺跡発掘調査概報18 平成21年度調査の概要 市内遺跡発掘調査概報19 平成22年度調査の概要 臼杵城-三之丸- 桑迫遺跡 宮原遺跡 小園満遺跡 平成23年度企画展 岡瀬の繪師たち 豊後大野市内遺跡発掘調査概要報告書1 平成20年度調査 キリシタン大名 大友宗麟 国東市歴史体験学習館年報 大分県磨崖仏研究 大分市元町磨崖仏・薬師如来像について 重要文化財 岩戸寺宝塔 保存修理工事報告書 白水郎 会報第28号 特集 古文書に見る地震	丁ノ坪遺跡発掘調査報告書 大分県内遺跡発掘調査概報14
大分県教育委員会 大分県立歴史博物館		大分県歴史博物館年報2010 大分県立歴史博物館 研究紀要 豊後国山香郷2
大分県立先哲資料館 中津市教育委員会		市内遺跡発掘調査概報4
日田市教育委員会	吹上IV-6次調査の記録- 求来里の遺跡 I 町ノ坪遺跡B区の調査 求来里の遺跡 II 金田遺跡の調査 求来里の遺跡 III 小西遺跡の調査 求来里の遺跡 寺ヶ迫遺跡 鍛冶屋廻り遺跡 中河原遺跡-2次調査の概要- 葛原遺跡6次 大行事跡2次 慈眼山遺跡7次 紙園原遺跡 II (近世墓編1) 市内遺跡発掘調査概報18 平成21年度調査の概要 市内遺跡発掘調査概報19 平成22年度調査の概要 臼杵城-三之丸- 桑迫遺跡 宮原遺跡 小園満遺跡 平成23年度企画展 岡瀬の繪師たち 豊後大野市内遺跡発掘調査概要報告書1 平成20年度調査 キリシタン大名 大友宗麟 国東市歴史体験学習館年報 大分県磨崖仏研究 大分市元町磨崖仏・薬師如来像について 重要文化財 岩戸寺宝塔 保存修理工事報告書 白水郎 会報第28号 特集 古文書に見る地震	平成20年度 (2008年度) 日田市埋蔵文化財年報 平成21年度 (2009年度) 日田市埋蔵文化財年報 日田市埋蔵文化財年報 平成22年度 (2010年度) 塚原遺跡 佐寺原遺跡 2・3次調査 紙園原遺跡 II (近世墓編2) 史跡ガランドヤ古墳 保存整備基本計画 史跡小辻迫原遺跡 保存管理計画書 大波羅遺跡 5次調査の概要 永山城跡 史跡ガランドヤ古墳 川部遺跡 南西地区墳墓群 法鏡寺遺跡
宇佐市教育委員会		昔台地と周辺の遺跡XVIII ヤトコロ遺跡 廣瀬武夫 日本とロシアを愛した男 豊後大野市内遺跡発掘調査概要報告書2 平成21年度調査
臼杵市教育委員会 竹田市教育委員会 竹田市立歴史資料館 豊後大野市教育委員会 津久見市長 岩崎 泰也 国東市歴史体験学習館 大分大学 宗教法人 岩戸寺 坂ノ市地区郷土史愛好会 佐賀関古文書に親しむ会		
宮崎県 宮崎県埋蔵文化財センター 西都市教育委員会	宮崎前田遺跡 平成22年度 西都原古墳研究所・年報 第25号 都於郡城跡発掘調査概要報告書X 特別展 日向における弥生文化の謎 宮崎県立西都原考古博物館年報 2010 (平成22) 年度 宮崎県立西都原考古博物館 研究紀要 第7号	立野遺跡 堂ヶ鳴遺跡 寺崎遺跡 上妻遺跡 法元遺跡 童子丸遺跡 石賀遺跡-本文編- 堂ヶ鳴遺跡 寺崎遺跡 上妻遺跡 法元遺跡 童子丸遺跡 石賀遺跡-図面・図版編- 特別史跡 西都原古墳群 発掘調査・保存整備概要報告書 (XIV) 国際交流展 朝の愛した煌き
鹿児島県 鹿児島県立埋蔵文化財センター	鳴原野原遺跡A地点 南下遺跡 石縄遺跡・十三塚遺跡 下鶴遺跡 芝原遺跡2(第1分冊)/(第2分冊)/(第3分冊)/(第4分冊) 薬師堂遺跡B地点 留守氏館跡・龍波見氏館跡・坪家屋敷跡・町後遺跡 大隅国分寺跡-遺物編- 氣色の杜遺跡(大隅国府跡) 沢氏館跡 I-確認調査- 敷領遺跡 柳ヶ迫遺跡 清水前遺跡 水天向遺跡 鹿児島大学構内遺跡 釣田遺跡第1地点 国指定遺跡 勝連城跡環境整備事業報告書V	渡畠遺跡2弥生・古墳時代以降編 坂ノ下遺跡・後ヶ原遺跡 二渡船渡ノ上遺跡 山崎野町跡A 虎居城跡 川骨遺跡・西ノ城遺跡・川端遺跡 最勝寺館跡 I-確認調査- 大隅正八幡宮関連遺跡群総合調査報告書- 大隅国府跡
鹿児島市教育委員会文化課 霧島市教育委員会		虎居町武家屋敷跡 鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報25 平成21年度
指宿市教育委員会 姶良市教育委員会 南さつま市教育委員会 さつま町教育委員会 鹿児島大学埋蔵文化財調査室 うるま市教育委員会		勝連城跡 -四の曲輪北区発掘調査報告書-

大分市埋蔵文化財調査概要報告2012 平成23年度

平成25年3月29日

編集・発行

大分市教育委員会文化財課

大分市荷揚町2番31号

〒870-0435 (097) 534-6111